

Catalyst Prepare ver.3.0以降

このヘルプガイドは日本国向けです。

Catalyst Prepare（以下、本ソフトウェア）は、撮影した映像の管理や確認、選別から、補正や出力といった、編集前の準備作業を行うためのソフトウェアです。

映像や撮影時のメタデータの確認に加え、フラグ（OK/KEEP/NG）やマークポイントを付与することにより、準備中の検索効率向上を支援します。

さらに、手ブレ補正などの映像補正や色調整、豊富なフォーマットへのトランスコード、各種エクスポート機能も備えています。

有償機能について

基本機能は無償でご利用可能ですが、有償プランをご契約いただくことで、さらに高度な調整機能や便利な一括エクスポート機能などをご利用いただくことができます。

詳しくは、こちらのページでご確認ください。

クリップを管理する

[画面の説明](#)

[クリップの管理](#)

クリップを確認/操作する

[プレビュー画面の操作](#)

[メタデータの表示と編集](#)

[スナップショットの作成](#)

[リレークリップの結合](#)

[マルチカメラクリップの同期](#)

[クリップの回転](#)

映像を補正する

[手ブレ補正](#)

[ローリングシャッター補正](#)

[レンズブリージング補正](#)

[レンズ歪補正](#)

色を補正する

[色調整](#)

[色調整設定のインポート](#)

[モニター表示とカラーホイール](#)

[Tangent Controlの使用](#)

[カラーグレーディング](#)

[色調整設定のエクスポート](#)

[エクスポートした3D LUTの適用](#)

音源を分離する

[音源分離](#)

コピー/バックアップ/エクスポート

[クリップのトランスコード](#)

[カスタムメタデータ設定ファイルの準備](#)

[クリップの一覧情報のエクスポート](#)

[クリップのコピー](#)

[データのバックアップ](#)

クラウドアップロード/ダウンロード

[クラウドアップロード](#)

[クラウドダウンロード](#)

各種設定

[アカウントと設定](#)

[モニター設定例](#)

対応ファイル形式/対応デバイス

[サポートしているビデオ形式](#)

[サポートしているビデオデバイス](#)

その他の機能

[キーボードショートカット](#)

[ジェスチャー](#)

付録

[重要通知事項](#)

[有償機能について](#)

[困ったときにすること](#)

[商標について](#)

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

画面の説明

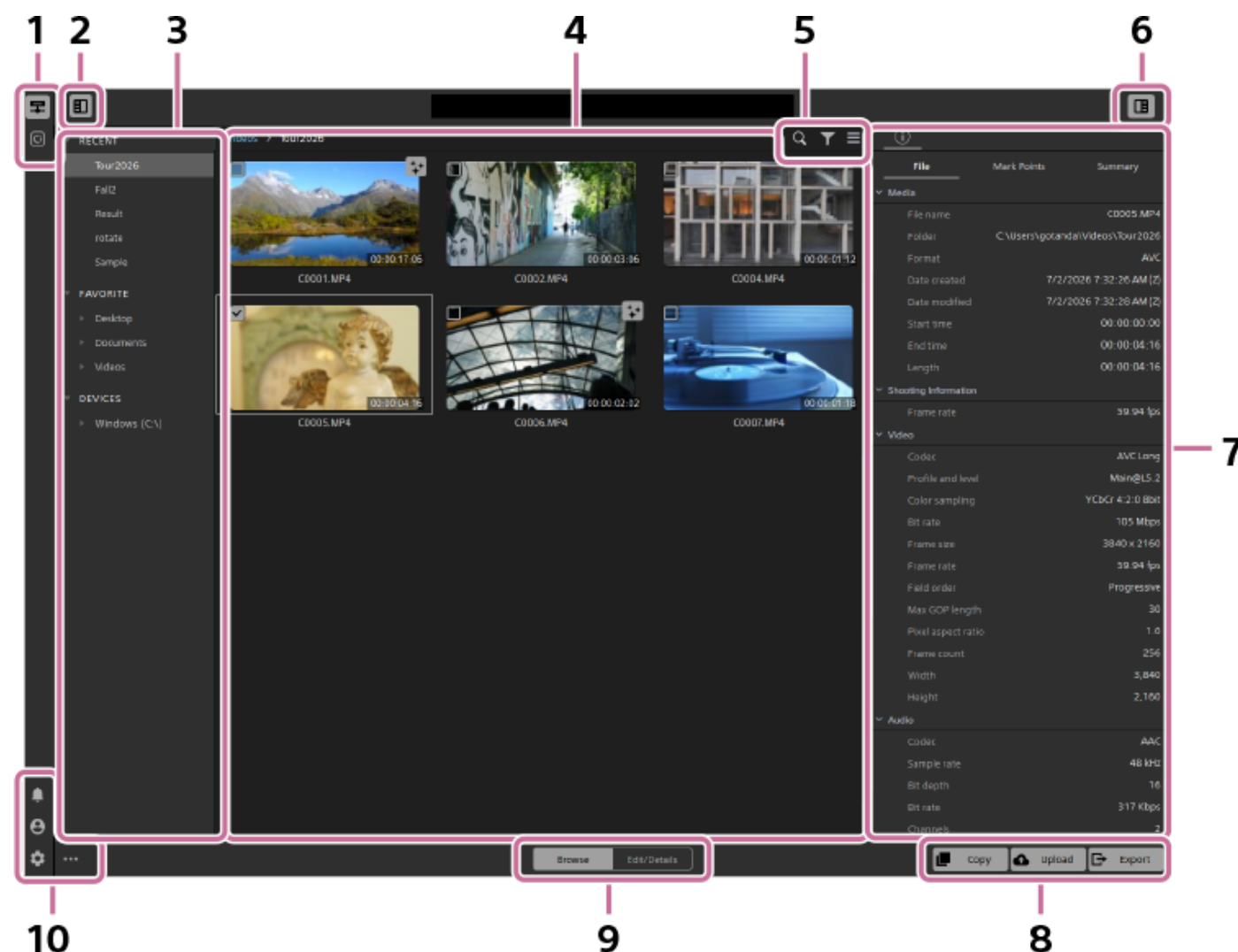
本ソフトウェアでは、メディアカード、外付けメモリー、HDDなどの記録媒体内に保存されたクリップを管理することができます。また、Ci Media Cloudのクラウドストレージに保存されているクリップをパソコンにダウンロードして管理することも可能です。

クリップの管理や操作は、主に以下の2つの画面を切り換えながら行います。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

ここでは、それぞれの画面上に表示されるパネルやボタンについて説明します。

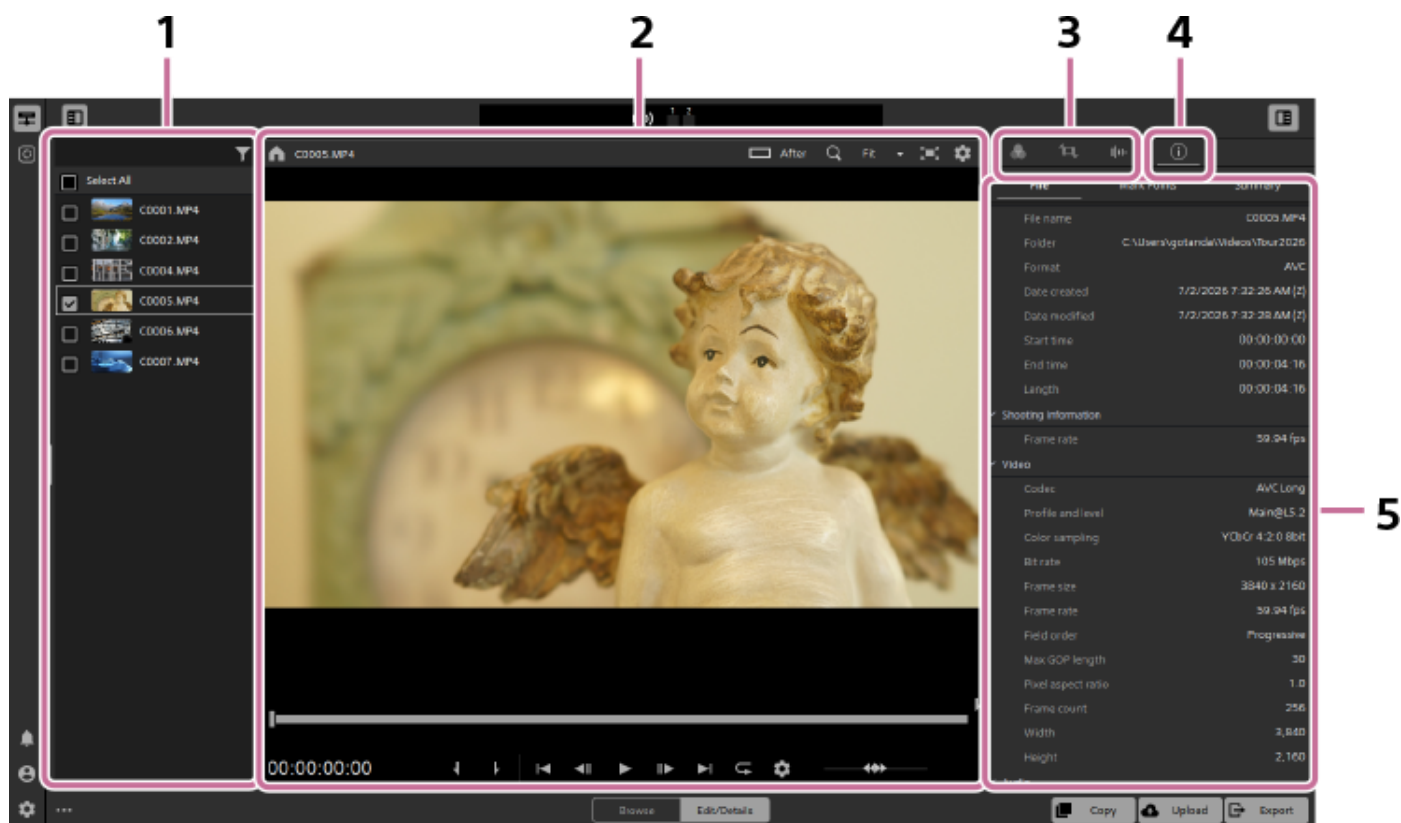
[ブラウズ] 画面



番号	区分	ボタン	説明
1	ストレージ		ローカル/LAN内のストレージを表示します。
			Ci Media Cloudのストレージを表示します。

番号	区分	ボタン	説明
2	左パネル表示切り替え		画面左パネルの表示と非表示を切り替えます。
3	フォルダーツリー	—	ストレージ内のフォルダーの階層を表示します。
4	サムネイル/リストパネル	—	クリップのサムネイルやリストを表示します。
5	検索/フィルター/フィールド/ 表示切り替え		クリップをファイル名などで検索します。
			条件を設定して、表示したいクリップを絞りこみます。
			表示する項目を設定したり、順番を入れ替えたりすることができます。（リスト表示中のみ）
			サムネイル表示とリスト表示を切り替えます。
6	右パネル表示切り替え		画面右パネルの表示と非表示を切り替えます。
7	メタデータパネル	—	選択したクリップのメタデータを表示します。
8	コピー/アップロード/エクスポート	 Copy	選択したクリップを指定したフォルダーにコピーします。
		 Upload	Ci Media Cloudへログインしてアップロードを行います。
		 Export	補正などを行ったクリップをエクスポートします。
9	モードセレクトター	—	以下の2つの画面を切り替えます。 [ブラウズ] 画面/ [編集/詳細] 画面
10	通知/アカウント/設定/その他のオプション		ソフトウェアの更新情報などの通知を表示します。
			アカウント情報を表示します。
			ソフトウェアの設定を行います。
			詳細機能を表示します。

【編集/詳細】画面



番号	区分	ボタン	説明
1	クリップリスト	—	選択したフォルダ内にあるクリップが一覧表示されます。
2	プレビュー	—	クリップのプレビュー設定、プレビュー、トラックバー、トランスポートコントロールを表示します。詳しくは、「 プレビュー画面の操作 」をご覧ください。
3	補正ボタン		色調整パネルから、露出値の調整や色補正などを行います。
			クリップの調整パネルから、手ブレ補正などの補正を行います。
			音源分離パネルから音源分離の設定を行います。
4	「メタデータ」ボタン		映像の補正中にメタデータ表示に切り替えます。
5	各種調整パネル	—	補正ボタンをクリックすると、クリップの補正や色調整、音源分離のための設定項目が表示されます。 「メタデータ」ボタンをクリックすると、メタデータが表示されます。 上記の画面はメタデータが表示されている場合の例です。

関連項目

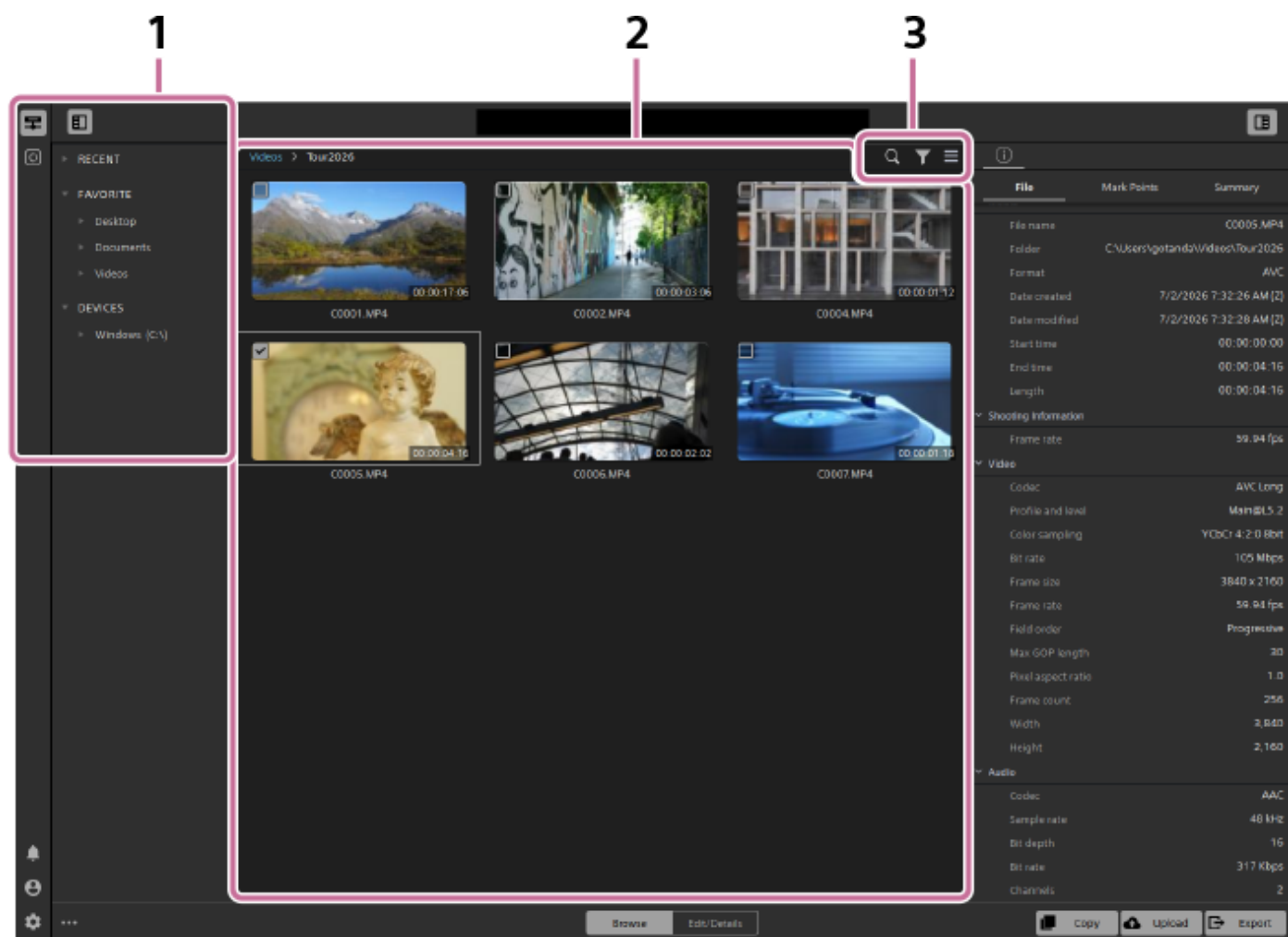
- [プレビュー画面の操作](#)

TP1002380825

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クリップの管理

「ブラウズ」画面から、クリップの選択、検索、フィルタリング、サムネイル表示/リスト表示の切り替えなどを行うことができます。



番号	区分	ボタン/アイコン	説明
1	ストレージ/フォルダ	—	クリップを読み込むストレージやフォルダを選択します。

番号	区分	ボタン/アイコン	説明
2	サムネイル/リストパネル	—	選択したストレージやフォルダ内のクリップを表示します。 サムネイル上に表示されているボタンやアイコンで、クリップに関するさまざまな情報を確認することができます。
			クリップが選択されていることを示します。
			クリップに補正用のメタデータが含まれているかを示します。クリックすると補正メタデータの種類を確認できます。
			補正後のクリップのプレビュー表示をオン/オフします。詳しくは、「 プレビュー画面の操作 」の「 補正効果の適用について 」をご覧ください。
		 /  / 	3種いずれかのフラグが設定されたクリップです。
			クリップにエラーが検出されています。
3	検索/フィルター/フィールド/表示切り替え		クリップをファイル名などで検索します。
			条件を設定して、表示したいクリップを絞りこみます。
			表示する項目を設定したり、順番を入れ替えたりすることができます。 (リスト表示中のみ)
		 / 	サムネイル表示とリスト表示を切り替えます。

クリップの読み込み

画面左パネルからストレージやフォルダを選択して、クリップを読み込み込みます。(メディアカード/外付けメモリー/HDD/クラウドストレージ)

クリップの選択

サムネイル表示やリスト表示中のクリップをクリックすると、クリップに含まれるメタデータが表示されます。また、サムネイル表示中のクリップをマウスホバーすると、クリップ中の数フレームがプレビュー表示されます。クリップを選択すると、サムネイルの左上にチェックマークが付きます。複数のクリップを同時に選択することもできます。

クリップをダブルクリックすると、[編集/詳細] 画面に遷移し、プレビューの確認や編集を行うことができます。

検索

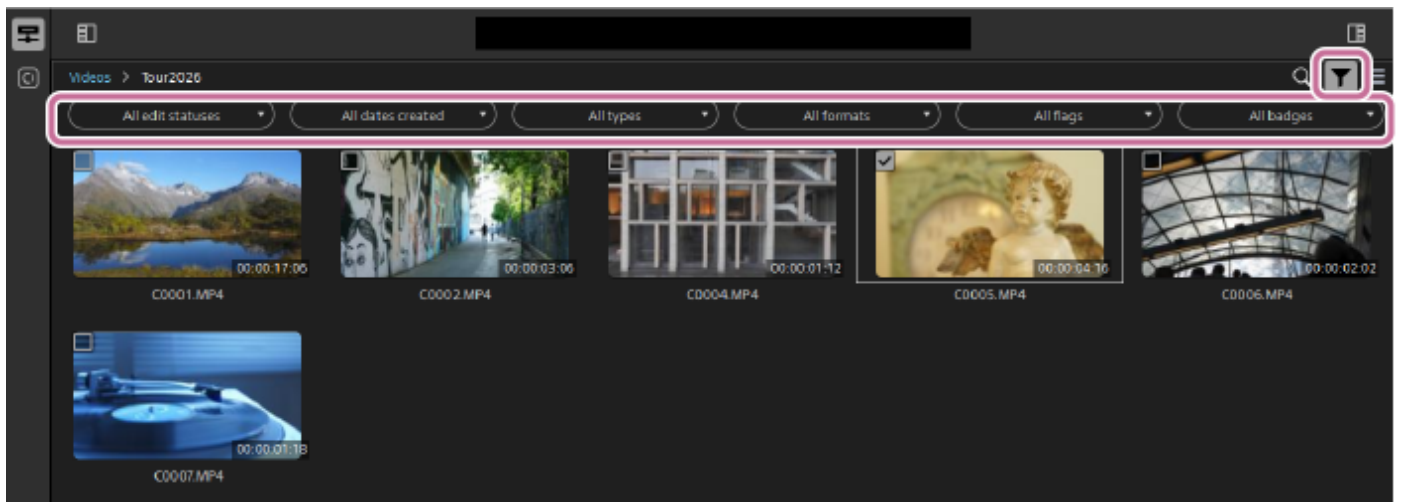
左パネルで対象のフォルダを選択し、[テキストでクリップを検索] ボタンをクリックして、検索文字列を入力します。検索対象となるのは、ファイル名やメタデータのサマリー内に含まれる文字列です。

: [テキストでクリップを検索] ボタン

フィルタリング

[クリップをフィルタリング] ボタンをクリックすると、パネルの上部にフィルタリングの条件を設定するプルダウンリストが表示されます。フィルタリングの条件を設定すると、条件を満たすクリップだけが表示されます。

: [クリップをフィルタリング] ボタン

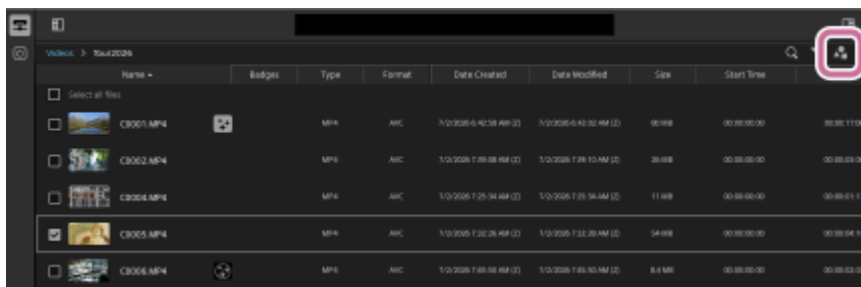


- 指定できるフィルタリング条件は以下の通りです。
編集ステータス：補正の設定の有無でフィルタリングします。
作成日：クリップが保存された期間でフィルタリングします。
タイプ：MP4やMOVなど、ファイルのコンテナ形式でフィルタリングします。
フォーマット：XAVC SやSony RAWなど映像フォーマットでフィルタリングします。
フラグ：フラグでフィルタリングします。（OK/KEEP/NG）
バッジ：手ブレ補正などの、補正メタデータの種類でフィルタリングします。
その他：ウィンドウサイズが小さくなった場合に表示されます。ウィンドウサイズを大きくすると、すべてのフィルタリング条件が表示されます。

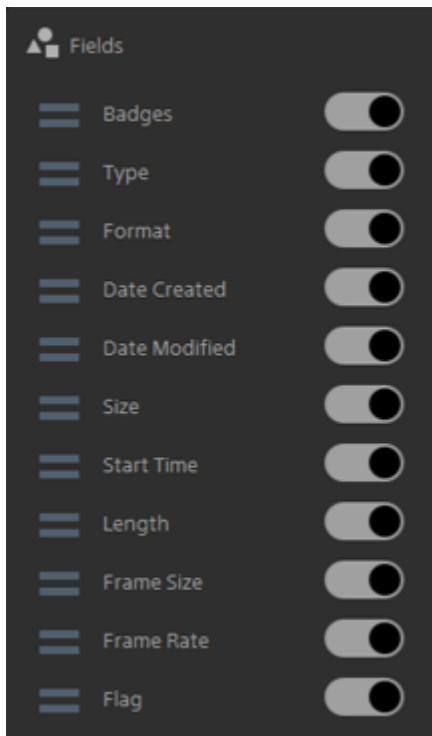
フィールド

リスト表示にした場合は、[フィールドのカスタマイズ] ボタンが表示されます。

：[フィールドのカスタマイズ] ボタン



[フィールドのカスタマイズ] ボタンをクリックすると、以下のパネルが表示され、項目の表示/非表示を切り替えたり、項目を上下にドラッグして順番を入れ替えたりすることができます。



サムネイル/リスト

以下のボタンをクリックするたびに、サムネイル表示とリスト表示を切り替えることができます。

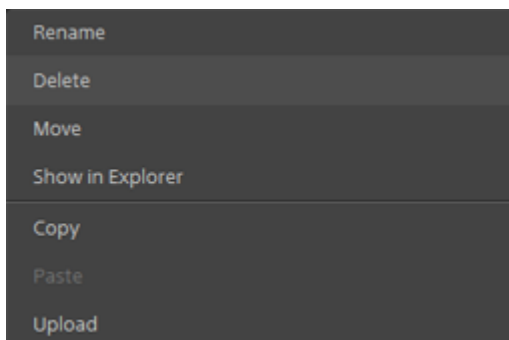
 : サムネイル表示

 : リスト表示

その他のファイル管理

コンテキストメニュー

クリップを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、クリップのコピーや削除、名前の変更などを行うことができます。



お気に入り登録

利用頻度の高いクリップが含まれるフォルダーを、お気に入りに登録することができます。

フォルダーを選択した状態で画面左下の以下のボタンをクリックして、[お気に入りに追加] を選びます。

 : [その他のオプション] ボタン

ヒント

- クリップのコピーは、画面右下の[コピー] ボタンをクリックして開くダイアログから行うことが可能です。その場合、コピーに関するさまざまな条件を指定することができます。

 Copy : [コピー] ボタン

関連項目

- [メタデータの表示と編集](#)
- [クリップのコピー](#)

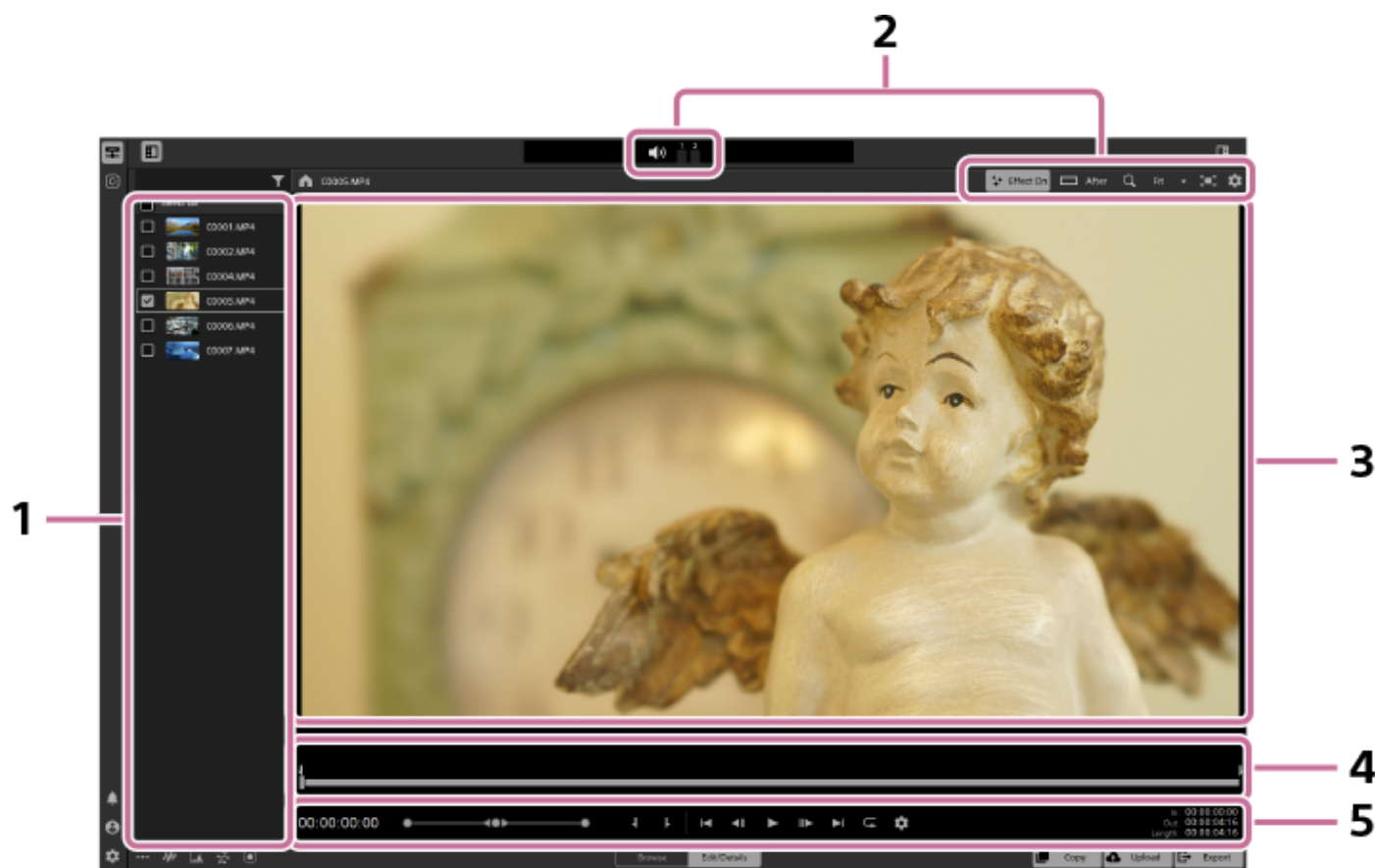
TP1002380826

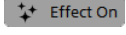
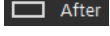
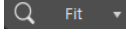
B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

プレビュー画面の操作

〔編集/詳細〕画面では、選択しているクリップについて、さまざまなプレビュー操作を行うことができます。

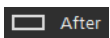


番号	区分	ボタン	内容
1	クリップリスト	—	選択中のクリップが含まれるフォルダ内のクリップの一覧です。
2	プレビュー設定		クリップのボリュームレベルを調整します。再生するオーディオチャンネルを選択することもできます。詳しくは、「 マスターボリューム 」をご覧ください。
			クリックするたびに、調整適用前後のプレビュー表示を切り替えます。詳しくは、「 補正効果の適用について 」をご覧ください。
			分割表示や2アップ表示など、調整中のプレビューの表示方法を選択します。詳しくは、「 プレビュー表示の切り替え 」をご覧ください。
			調整中のプレビューの表示倍率を設定します。
			プレビューを全画面表示に切り替えます。
			クリップの表示方向や表示比率、表示範囲を設定します。

番号	区分	ボタン	内容
3	プレビューエリア	—	クリップのプレビューを表示します。
4	トラックバー	—	タイムライン上のプレビューの位置やマークポイントなどを表示します。
5	トランスポートコントロール	—	クリップの再生操作を行います。

プレビュー表示の切り替え

プレビューの上にあるプレビュー表示切り替えボタンを繰り返しクリックすると、調整適用前後のプレビューの表示形式を選択することができます。

 **After** : プレビュー表示切り替えボタン

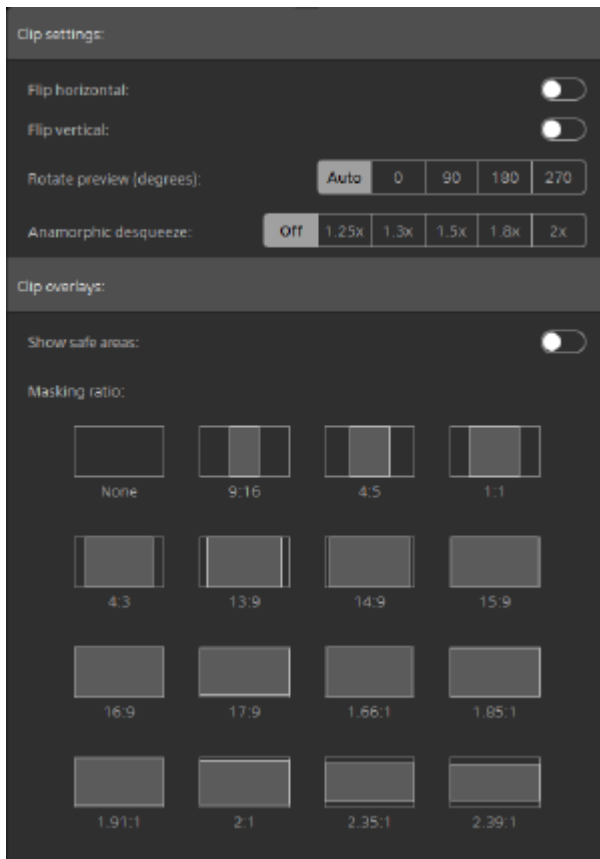
- 表示の形式は以下から選択できます。

選択項目	内容
 After	適用後 : 色調整やクリップの調整の適用後のプレビューが表示されます。
 Split	分割 : 色調整やクリップの調整の適用前後のプレビューを左右に分割して表示します。左側が適用前、右側が適用後です。プレビューの上部と下部にあるハンドルをドラッグすると、分割する部分を調整できます。
 2 Up	2 アップ : 色調整やクリップの調整の適用前後のプレビューを左右に並べて表示します。左側が適用前、右側が適用後です。
 Before	適用前 : 色調整やクリップの調整の適用前のプレビューが表示されます。

クリップ設定/オーバーレイ設定

プレビューの上にある「クリップ設定」ボタンをクリックすると、クリップの表示方向や回転方向などを設定することができます。

 : 「クリップ設定」ボタン

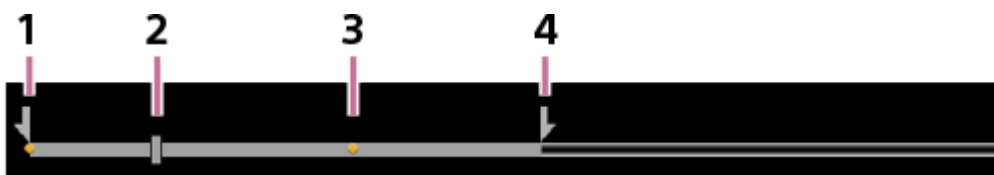


- 設定は以下から選択できます。

選択項目	内容
水平方向にフリップ	クリップを水平方向に反転させます。
垂直方向にフリップ	クリップを垂直方向に反転させます。
プレビューの回転 (度)	クリップの回転角度を90度ごとに設定できます。
アナモフィック デスク サイズ	アナモフィックレンズで撮影されたクリップの補正比率を設定します。
セーフ エリアの表示	フレームの90%（アクションセーフエリア）と80%（タイトルセーフエリア）、および中心点を表示します。
マスキング率	アスペクト比を選択してマスキングを行います。

トラックバー

タイムラインに沿ってクリップの再生イベントなどを表示します。



1. マークインポイント：ドラッグして再生開始位置を移動することができます。

- 現在の再生位置
- マークポイントの位置
- マークアウトポイント：ドラッグして再生終了位置を移動することができます。

トランスポートコントロール

クリップの再生操作を行います。

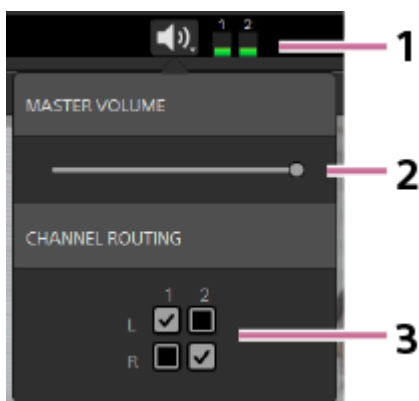


- タイムコードを表示します。
- シャトルコントロールをドラッグすると、すばやく編集したいポイントへ移動することができます。
- 現在の再生位置にマークインポイントまたはマークアウトポイントを設定します。
- 再生位置がマークインポイントに戻ります。再度クリックすると、クリップの先頭位置に戻ります。
- 再生位置が、左に1フレームまたは1フィールド移動します。
- 再生を開始します。複数のクリップを選択しているときは、先頭のクリップのみが再生されます。
- 再生位置が、右に1フレームまたは1フィールド移動します。
- 再生位置がマークアウトポイントに移動します。再度クリックすると、クリップの末尾位置に移動します。
- マークインポイントとマークアウトポイントの間をループ再生します。
- 〔再生設定〕ダイアログが開き、以下の内容を設定できます。
 - デコーディングの速度と品質の優先度
 - 再生時のリアルタイム性とフレームレートの優先度
- クリックしてタイムコードを直接入力することで、マークインポイントとマークアウトポイントをすばやく設定することができます。タイムコードが埋め込まれたMXFのプロキシクリップには使用できません。

マスターボリューム

画面上部の以下のボタンをクリックすると、コントロールパネルが表示されます。

：〔マスター ボリューム〕ボタン



- ボリュームメーター：プレビュー再生中にボリュームレベルを視覚的にモニターできます。
- ボリュームスライダー：ボリュームレベルを調整します。
- チャンネルのルーティング：再生するオーディオチャンネルを選択します。この例では、1番目のチャンネルが左側のスピーカーから再生され、2番目のチャンネルが右側のスピーカーから再生されます。

ご注意

- 本ソフトウェアは、ステレオ出力デバイスのみをサポートしています。

補正効果の適用について

補正の設定を行ったクリップには、以下の「エフェクト On」ボタンが表示されます。

プレビュー中：  Effect On

サムネイル/リスト表示中： 

ボタンをクリックするたびに、補正適用前後のプレビュー表示をオン/オフすることができます。

ご注意

- 補正を適用したクリップをエクスポートする際は、必ずボタンをオンにしてください。
以下のように、ボタンが「エフェクト Off」の場合、エクスポートしたクリップには補正が適用されません。

プレビュー中：  Effect Off

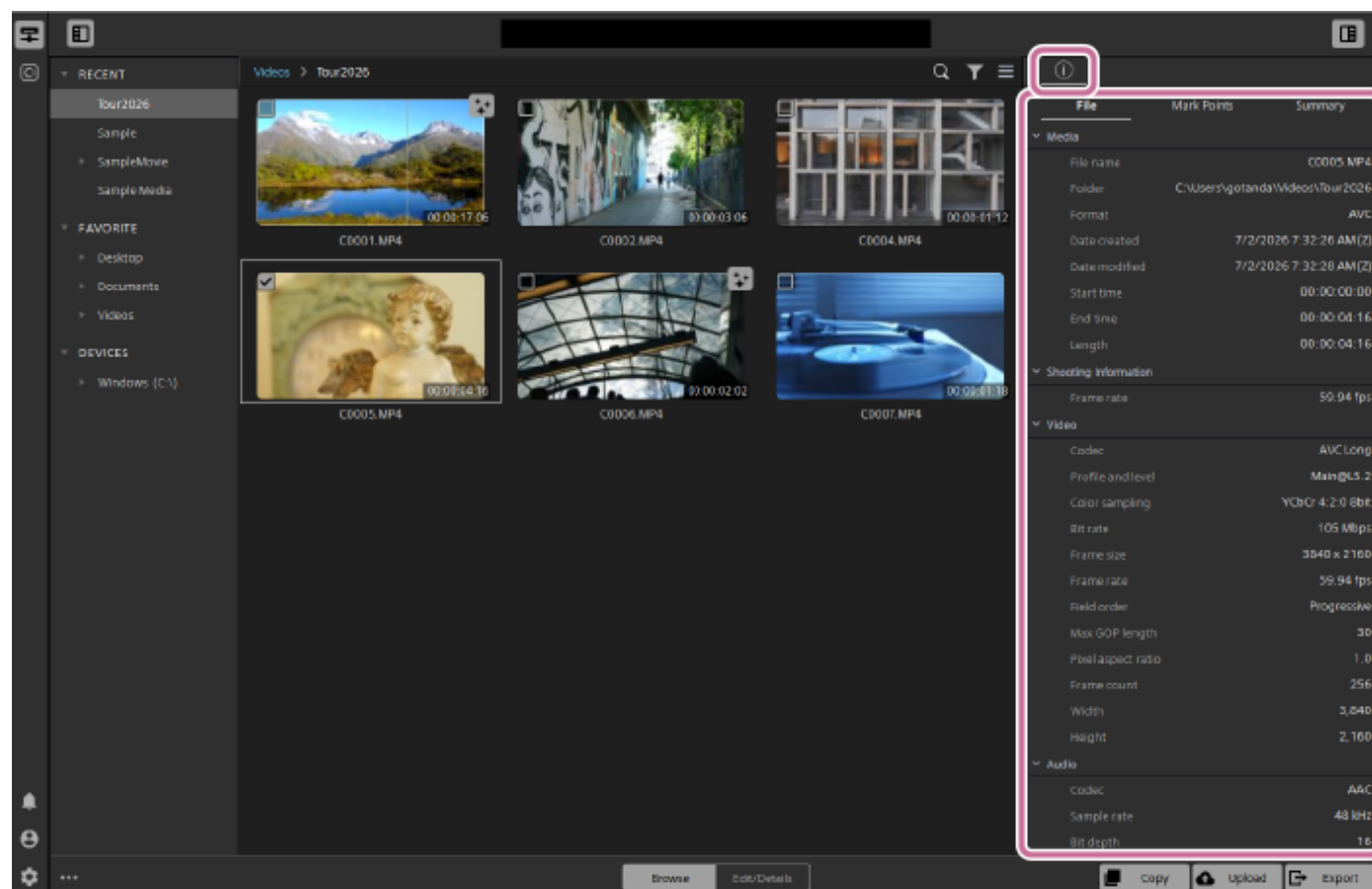
サムネイル/リスト表示中： 

TP1002380827

Catalyst Prepare ver.3.0以降

メタデータの表示と編集

選択しているクリップにメタデータが含まれている場合、メタデータの内容を表示したり、編集したりすることが可能です。



- 1 画面右上の以下のボタンをクリックして、メタデータパネルを開く。

: [メタデータ] ボタン

- 2 メタデータパネルの上部にある以下のタブから、表示/編集したい内容を選ぶ。

- [ファイル] タブ
- [マークポイント] タブ
- [サマリー] タブ

[ファイル] タブ

以下のメタデータを表示します。メタデータ自体を編集することはできません。

- メディア情報
- シューティング情報
- ビデオ情報
- オーディオ情報
- デバイス情報

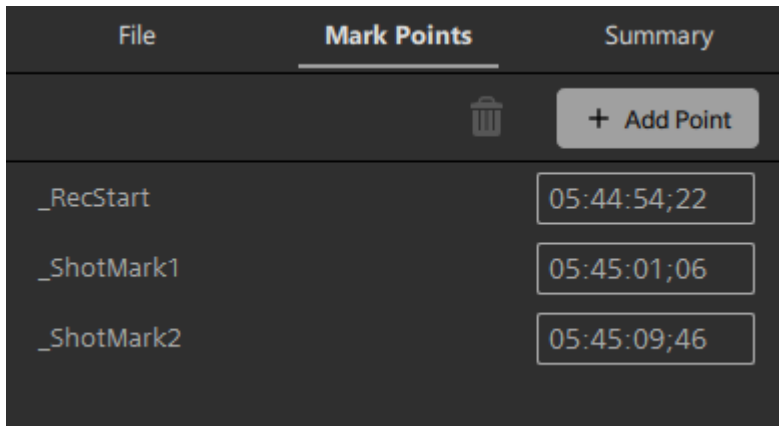
- アクイジションメタデータ

ヒント

- 項目の左に表示されるピンマークをクリックすることで、項目の最上部にピン留めすることができます。

【マーク ポイント】 タブ

マークポイントの追加や編集、削除を行うことができます。



- マークポイントを追加するには、トラックバーでマークポイントを追加したい位置を決定し、[ポイントの追加] ボタンをクリックします。キーボードショートカットキーの [E] でもポイントを追加できます。

 : [ポイントの追加] ボタン

- マークポイントの名称やタイムコードの数値をクリックして直接編集することが可能です。
- マークポイントを削除するには、マークポイントを選んで以下のボタンをクリックしてください。

 : 削除ボタン

【サマリー】 タブ

以下の内容を表示したり、編集したりすることができます。

- マークイン/マークアウトのタイムコード
- フラグ情報 (OK/KEEP/NG) 、クリップタイトル、作成者など
- 音声のチャンネル割り当て

File

Mark Points

Summary

Mark in: 00:27:31;40

Mark out: 00:27:58;10

Logging

Flag: None

Title:

Creator:

Description:

Channel Assignment

1
Mono

2
Mono

3
Mono

4
Mono

- [フラグ] のプルダウンリストでフラグ情報を設定することができます。
- [チャンネル割り当て] の以下のボタンをクリックして、音声のモノラル/ステレオを切り替えることができます。
[モノラル] / [ステレオ]
- [チャンネル ツール] ボタンをクリックして表示されるメニューから、チャンネルの割り当て設定の保存やロード、他のクリップへの割り当て設定のコピーなどを行うことができます。
⚙️: [チャンネル ツール] ボタン

ご注意

- クリップの形式によっては、すべてのメタデータをサポートしていない場合があります。

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)

TP1002326229

Catalyst Prepare ver.3.0以降

スナップショットの作成

プレビュー中に、現在表示中のフレームのスナップショットを作成することができます。



スナップショットのコピー

- サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを「編集/詳細」にする。
- トランスポートコントロールやトラックバーを使用して、スナップショットを作成したいフレームを表示する。
- 画面左下の以下のボタンをクリックして、「その他」タブを選択する。
⋮ : 「その他のオプション」ボタン

- 「スナップショットをコピー」を選択する
表示されているフレームのスナップショットがクリップボードにコピーされます。

- スナップショットのコピーは、以下のキーボードショートカットキーからも可能です。
Windows : Ctrl+C
macOS : ⌘+C

スナップショットの作成

- サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを「編集/詳細」にする。
- トランスポートコントロールやトラックバーを使用して、スナップショットを作成したいフレームを表示する。
- 画面左下の以下のボタンをクリックして、「その他」タブを選択する。
⋮ : 「その他のオプション」ボタン

4. [スナップショットの保存] を選択する。

表示されているフレームのスナップショットが保存されます。

- スナップショットの保存は、以下のキーボードショートカットキーからも可能です。
Windows : Shift+S
macOS : Shift+S
- スナップショットは、デフォルトでは以下のフォルダに保存されます。
Windows : C:\Users\<ユーザー名>\Pictures\Catalyst Prepare
macOS : /Users/<ユーザー名>/Pictures/Catalyst Prepare

ヒント

- 以下の設定から、スナップショットの保存先のフォルダーやファイル形式を変更することができます。
[その他] > [スナップショットのオプション]

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)
- [アカウントと設定](#)

TP1002509255

リレークリップの結合

複数のメディアカードにまたがって連続記録されたAVCHD形式のクリップを、1つのクリップに結合することができます。

この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

- 1 結合したいクリップを、1つのフォルダーにコピーする。
 - クリップのコピーについて詳しくは、「[クリップのコピー](#)」をご覧ください。
- 2 結合したいクリップを選択する。
- 3 画面左下の以下のボタンをクリックして、[ツール] タブを選択する。
 : [その他のオプション] ボタン
- 4 [リレー クリップの結合] を選択する。
- 5 結合後のクリップ名を入力して、[OK] ボタンをクリックする。

ご注意

- リレークリップの結合を行うには、クリップが以下の条件を満たしている必要があります。
 - 同じ撮影設定で撮影されたクリップ
 - タイムコードが連続しているクリップ

関連項目

- [クリップのコピー](#)

TP1002380829

Catalyst Prepare ver.3.0以降

マルチカメラクリップの同期

マルチカメラ撮影したクリップを、オーディオを基準に同期させることができます。

1 同期させるクリップを選択する。

2 画面左下の以下のボタンをクリックして、[ツール] タブを選択する。

⋮ : [その他のオプション] ボタン

3 [マルチカム クリップの同期] を選択する。

選択したクリップの分析と同期が行われます。クリップの分析と同期が行われている間、進行状況が表示されます。

ヒント

- 同期の際は、選択したクリップのマークインポイントが調整されます。

関連項目

- [画面の説明](#)

TP1002380830

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クリップの回転

クリップに回転表示に関するメタデータが記録されている場合、クリップのサムネイルやビデオプレビューを回転表示するかどうかを選択することができます。

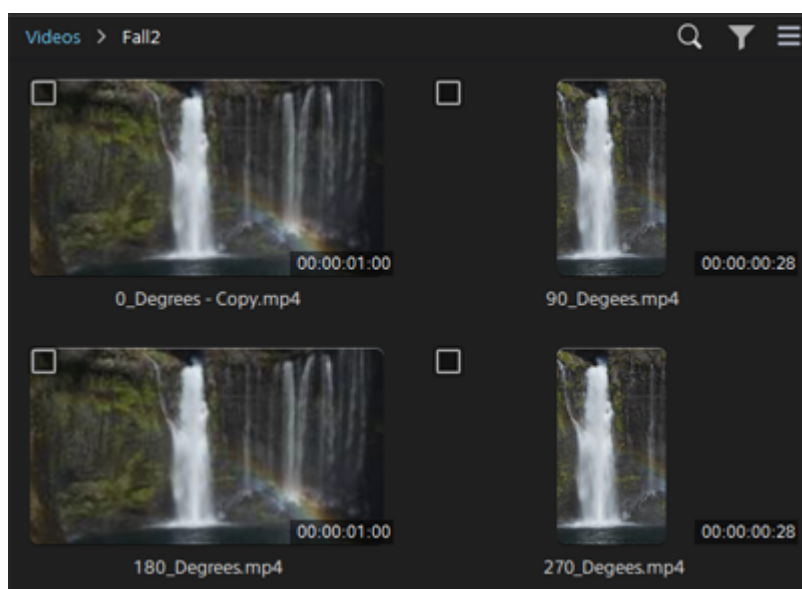
サムネイルの回転表示

1. 画面左下の以下のボタンをクリックして、[プレビューとサムネイル]を選択する。

⚙️: [設定] ボタン

2. [サムネイルを自動的に回転する] スイッチをオンにする。

- クリップの回転表示メタデータを検出し、[ブラウズ]画面上でのサムネイルの表示角度を調整します。



- スイッチがオフの場合は、回転表示メタデータが無視されます。



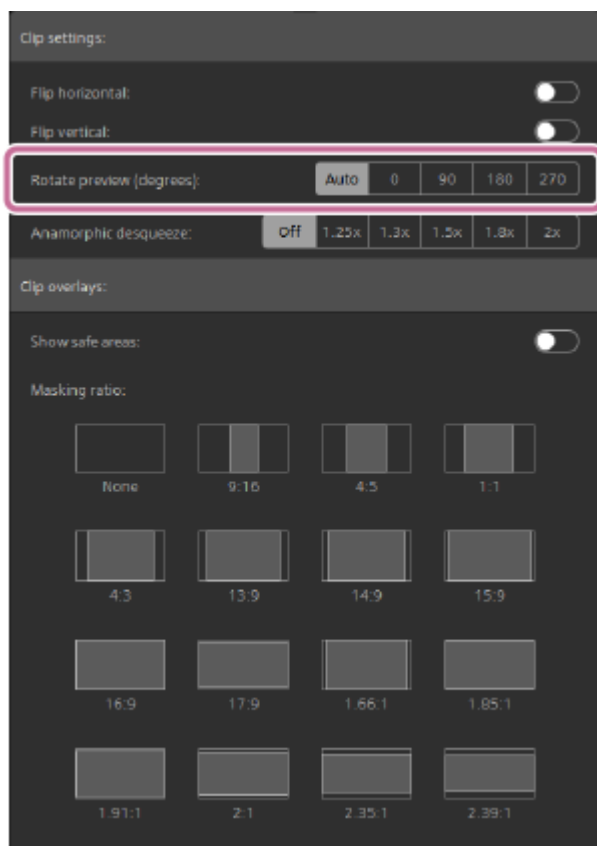
ビデオプレビューの回転表示

1. クリップを選択して、モードセクターを[編集/詳細]にする。
選択しているクリップがプレビュー表示されます。

2. プレビューの上にある以下のボタンをクリックする。

⚙️: [クリップ設定] ボタン

[クリップ設定] パネルが開きます。



3. プレビューの回転角度を以下の項目から選択します。
プレビューの回転 (度) : 自動 / 0 / 90 / 180 / 270

- [自動] を選択すると、クリップの回転表示メタデータに基づいて、プレビューの表示角度が調整されます。

関連項目

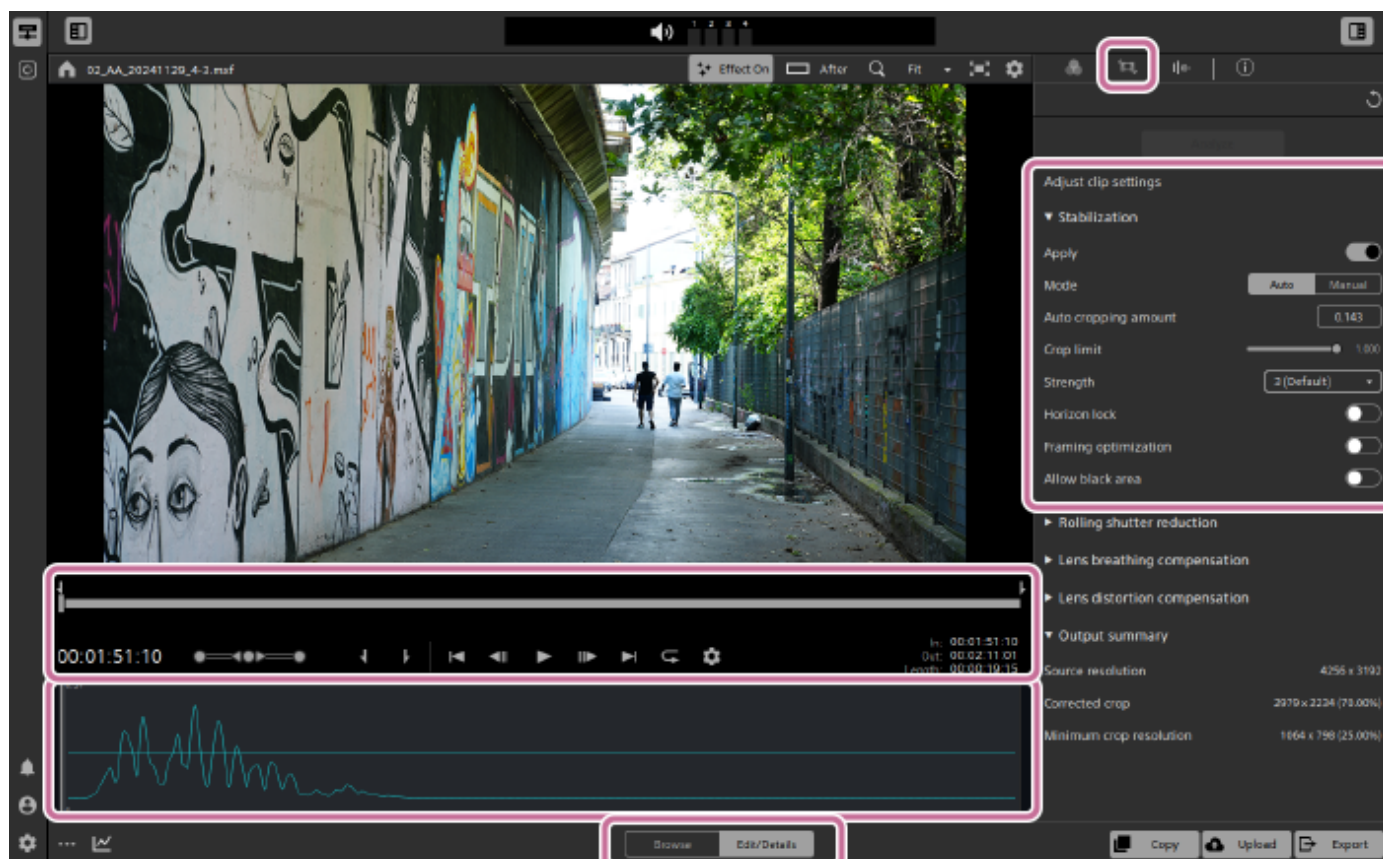
- [プレビュー画面の操作](#)

TP1002380831

Catalyst Prepare ver.3.0以降

手ブレ補正

手ブレ補正のメタデータを含むクリップを対象として、手ブレ補正の効果を加えます。



1 サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。

- 補正のメタデータを含むクリップにはサムネイル/リストパネルに以下のボタンが表示されます。

: 【含まれるメタデータ】ボタン

【含まれるメタデータ】ボタンをクリックして以下のアイコンが表示されれば、手ブレ補正のメタデータを含むクリップです。

: 【手ブレ補正】アイコン

ご注意

- 補正のメタデータを含まないクリップを補正することはできません。

2 画面右上の【クリップの調整】ボタンをクリックする。

: 【クリップの調整】ボタン

【クリップ調整の設定】パネルが表示されます。

- 補正のメタデータを含むクリップを開く場合は、最初に分析を促すメッセージが表示されます。パネル上部の以下のボタンをクリックしてください。

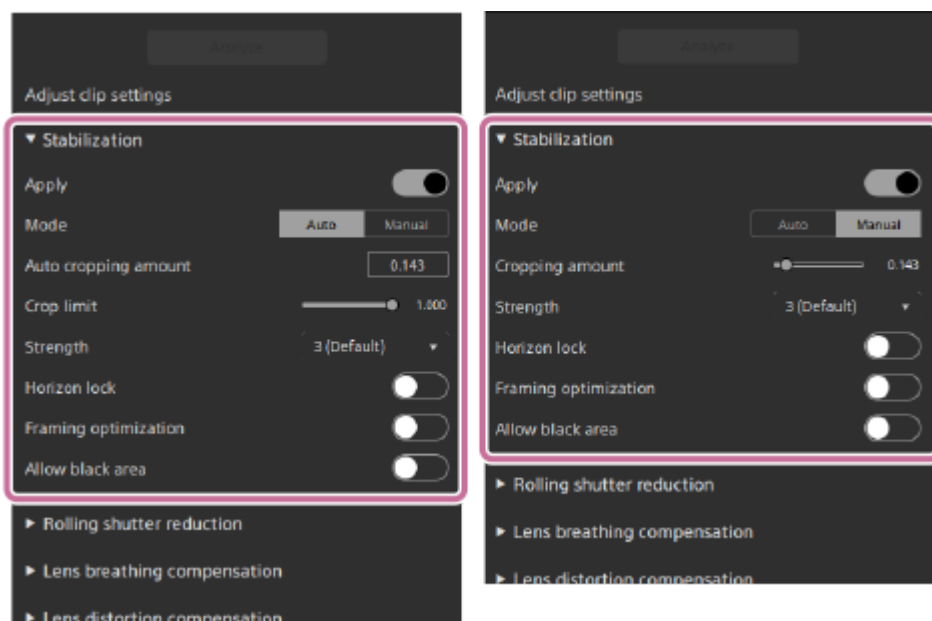
: 【分析】ボタン

3 トラックバーでマークインポイントとマークアウトポイントを設定して、補正対象範囲を指定する。

- トラックバーの操作について詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」をご覧ください。

4 【適用】スイッチをオンにする。

手ブレ補正に関する設定項目が表示されます。設定について詳しくは、「[手ブレ補正の設定項目](#)」をご覧ください。



5 パネル上部の以下のボタンをクリックする。

Analyze : [分析] ボタン

- すでに分析を行っている場合、[分析] ボタンが表示されないことがあります。

6 プレビューで映像を確認しながら、各種の設定を行う。

- 補正適用後のプレビュー画面を確認しながら、好みの結果になるまで設定項目の調整と分析を繰り返してください。
補正の出力に関する情報が表示されます。詳しくは、「[アウトプットサマリーの項目](#)」をご覧ください。
- 分析が終わると、タイムラインに沿った手ブレ補正グラフが表示されます。クロップ量を手動で設定するときの目安にすることができます。詳しくは、「[手ブレ補正グラフビュー](#)」をご覧ください。

ご注意

- お使いの環境によっては、補正適用後の映像が黒画面になることがあります。

7 画面右下の以下のボタンをクリックしてダイアログを開き、トランスコードの設定を行う。

Export : [エクスポート] ボタン

ご注意

- トランスコードについて詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。

8 【エクスポート】をクリックする。

クリップ調整の結果が、指定したクリップにレンダリングされます。

手ブレ補正の設定項目

モード：

自動/手動から選ぶことができます。自動を選んだときは〔自動クロップ量〕がクリップ内で最もブレが大きい部分の値に固定されます。手動を選んだときは〔クロップ量〕のスライダーでクロップされる範囲を任意に設定することができます。

クロップ制限：

スライダーをドラッグして、クリップの補正に適用できるクロップの量を設定します。

- クリップの自動調整の結果が設定した値よりも大きくなった場合は、クロップ制限が使用されます。
- クリップの自動調整の結果が設定した値よりも小さくなった場合は、自動調整結果が使用されます。

強度：

手ブレ補正の強度を1～5の間で選ぶことができます。強度が大きいほど、画像がクロップされる量は大きくなります。

水平補正：

水平方向の傾きを補正します。調整スライダーを使用して、ロール角を手動で調整することもできます。

- サムネイル/リストパネルで〔含まれるメタデータ〕ボタンをクリックして以下のアイコンが表示されれば、水平補正のメタデータを含むクリップです。

：〔含まれるメタデータ〕ボタン

：〔水平補正〕アイコン

- ロール角の調整中は、プレビューがリアルタイムで更新されます。画面の傾きが整う位置を確認しながら操作してください。
- 〔水平補正〕スイッチをオフにすると、調整スライダーは表示されません。その場合、ロール角は0度になります。
- クロップ量を低く設定すると、水平補正の効果が低下する場合があります。

フレーミング最適化：

カメラワークによってクロップ量が増えて画角が狭くなってしまう現象を抑え、補正性能を維持しながら画角を広く保つ設定です。

黒画を許容：

手ブレ補正のクロップ量の制限がなくなり、手ブレ効果を強くすることができます。ただし、画像の周辺に黒枠が表示されることがあります。

アウトプットサマリーの項目

ソース解像度：

クロップ前のソースデータのフレームサイズが表示されます。

補正後のクロップ：

クロップ後の補正済みフレームのサイズが表示されます。

最小のクロップ解像度：

クロップモードが自動のときに、〔クロップ制限〕設定に応じた、補正済みフレームの最小サイズが表示されます。

手ブレ補正グラフィビュー

クリップ内の手ブレの度合いを視覚的に確認しながら、手ブレ補正の設定を行うことができます。



1. 画像のクロップ量を示します。〔モード〕が自動のときは実線で表示され、手動の時は破線で表示されます。
2. クリップ分析により得られた手ブレ補正の量を示します。

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)
- [クリップのトランスコード](#)

TP1002326230

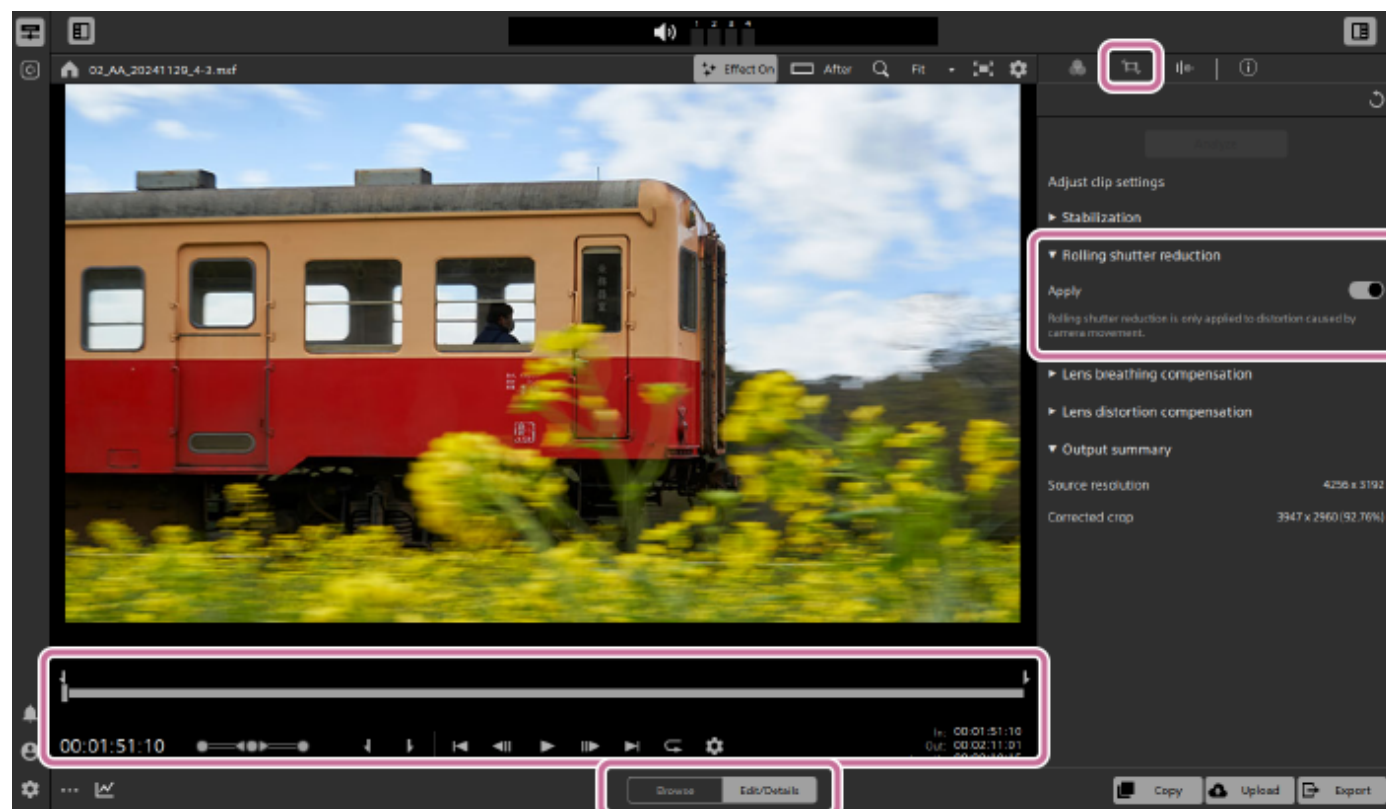
B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

ローリングシャッター補正

ローリングシャッター補正のメタデータを含むクリップを対象として、撮影時に生じたローリングシャッター歪みを低減することができます。

ローリングシャッターとは、動いている対象を写真や動画に撮るとき、撮影した画像に独特の歪みが生じる現象のことです。



1 サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。

- 補正のメタデータを含むクリップにはサムネイル/リストパネルに以下のボタンが表示されます。

: 【含まれるメタデータ】ボタン

【含まれるメタデータ】ボタンをクリックして以下のアイコンが表示されれば、ローリングシャッター補正のメタデータを含むクリップです。

: 【ローリングシャッター補正】アイコン

ご注意

- 補正のメタデータを含まないクリップを補正することはできません。

2 画面右上の【クリップの調整】ボタンをクリックする。

: 【クリップの調整】ボタン

【クリップ調整の設定】パネルが表示されます。

- 補正のメタデータを含むクリップを開く場合は、最初に分析を促すメッセージが表示されます。パネル上部の以下のボタンをクリックしてください。

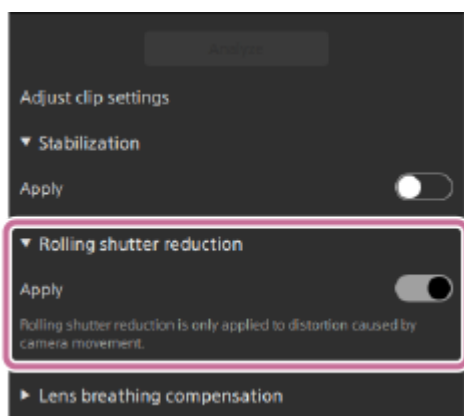
: 【分析】ボタン

3 トラックバーでマークインポイントとマークアウトポイントを設定して、補正対象範囲を指定する。

- トラックバーの操作について詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」をご覧ください。

4 「ローリングシャッター補正」をクリックする。

補正適用のスイッチが表示されます。



5 「適用」スイッチをオンにする。

6 パネル上部の以下のボタンをクリックする。

Analyze : 「分析」ボタン

- すでに分析を行っている場合、「分析」ボタンが表示されないことがあります。
- 補正適用後のプレビュー画面を確認してください。

ご注意

- お使いの環境によっては、補正適用後の映像が黒画面になることがあります。

7 画面右下の以下のボタンをクリックしてダイアログを開き、トランスコードの設定を行う。

Export : 「エクスポート」ボタン

ご注意

- トランスコードについて詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。

8 「エクスポート」をクリックする。

クリップ調整の結果が、指定したクリップにレンダリングされます。

関連項目

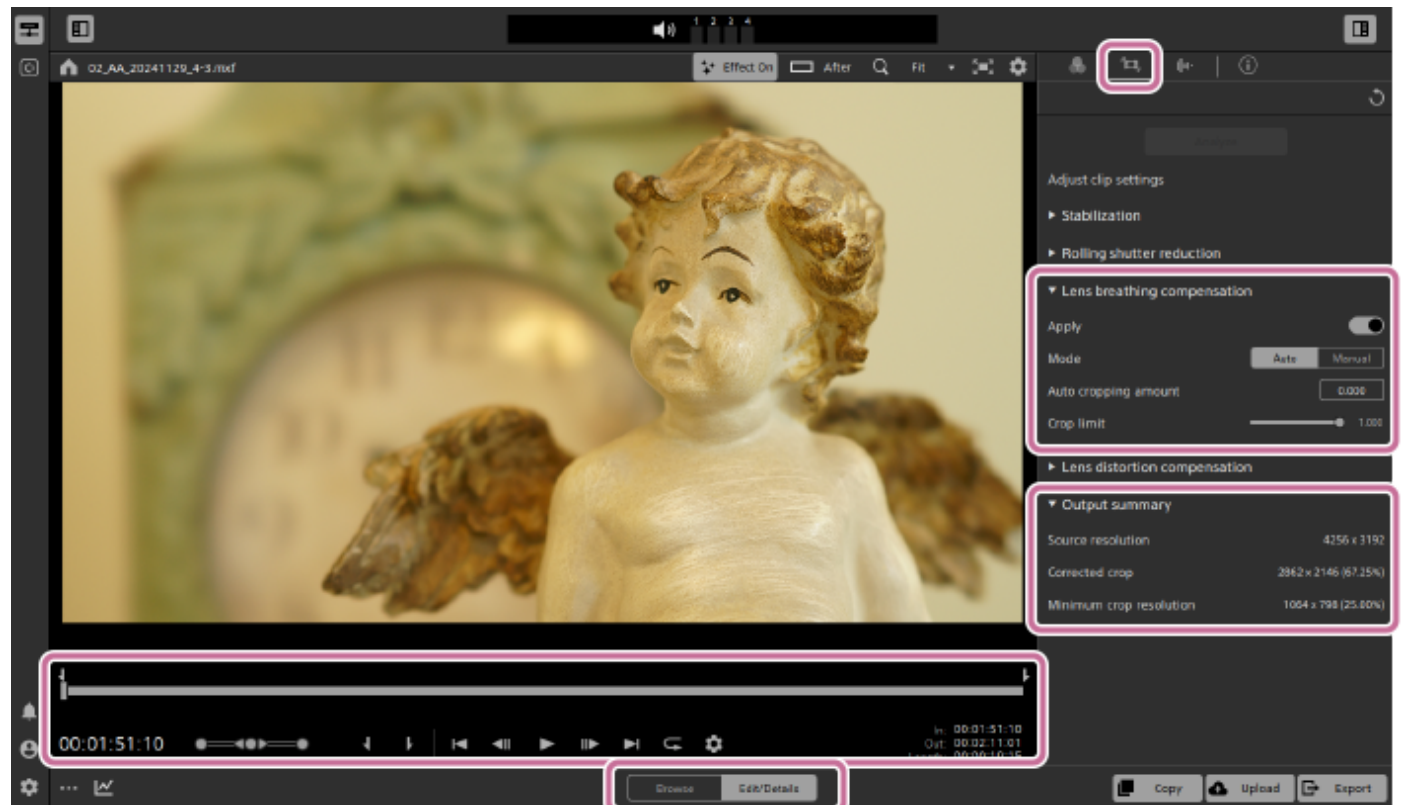
- [手ブレ補正](#)
- [プレビュー画面の操作](#)
- [クリップのトランスコード](#)

Catalyst Prepare ver.3.0以降

レンズブリージング補正

レンズブリージング補正のメタデータを含むクリップを対象として、レンズブリージングの影響を補正することができます。

レンズブリージングとは、動画撮影中のフォーカス駆動時に画角が変動する現象のことです。



1 サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。

- 補正のメタデータを含むクリップにはサムネイル/リストパネルに以下のボタンが表示されます。

: 【含まれるメタデータ】ボタン

【含まれるメタデータ】ボタンをクリックして以下のアイコンが表示されれば、レンズブリージング補正のメタデータを含むクリップです。

: 【レンズブリージング補正】アイコン

ご注意

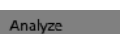
- 補正のメタデータを含まないクリップを補正することはできません。

2 画面右上の【クリップの調整】ボタンをクリックする。

: 【クリップの調整】ボタン

【クリップ調整の設定】パネルが表示されます。

- 補正のメタデータを含むクリップを開く場合は、最初に分析を促すメッセージが表示されます。パネル上部の以下のボタンをクリックしてください。

: 【分析】ボタン

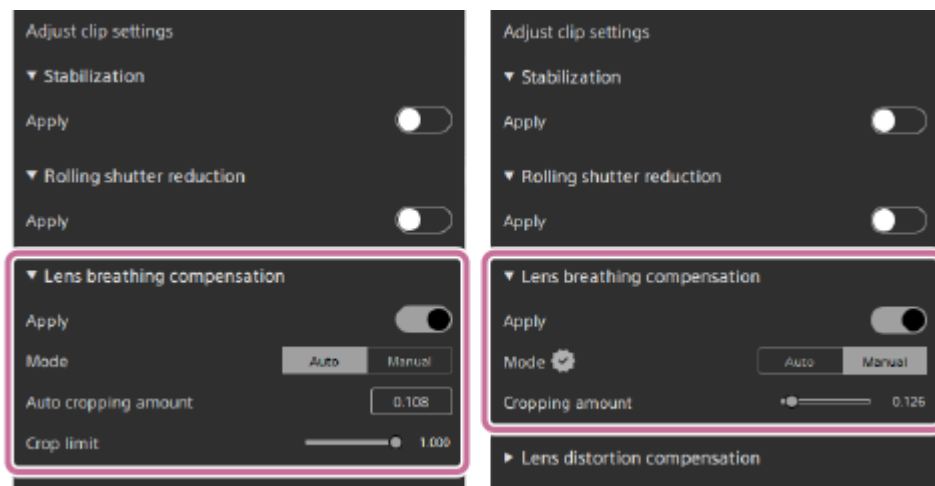
3 **トラックバーでマークインポイントとマークアウトポイントを設定して、補正対象範囲を指定する。**

- トラックバーの操作について詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」をご覧ください。

4 **「レンズブリージング補正」をクリックする。**

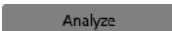
補正に関する設定項目が表示されます。

- 設定について詳しくは、「[レンズブリージング補正の設定項目](#)」をご覧ください。



5 **「適用」スイッチをオンにする。**

6 **パネル上部の以下のボタンをクリックする。**

 : 「分析」ボタン

- すでに分析を行っている場合、「分析」ボタンが表示されないことがあります。

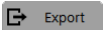
7 **プレビューで映像を確認しながら、各種の設定を行う。**

- 補正適用後のプレビュー画面を確認しながら、好みの結果になるまで設定項目の調整を繰り返してください。補正の出力に関する情報が表示されます。詳しくは、「[アウトプットサマリーの項目](#)」をご覧ください。

ご注意

- お使いの環境によっては、補正適用後の映像が黒画面になることがあります。

8 **画面右下の以下のボタンをクリックしてダイアログを開き、トランスコードの設定を行う。**

 : 「エクスポート」ボタン

ご注意

- トランスコードについて詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。

9 **「エクスポート」をクリックする。**

クリップ調整の結果が、指定したクリップにレンダリングされます。

レンズブリージング補正の設定項目

モード：

自動/手動から選ぶことができます。自動を選んだときは〔自動クロップ量〕がクリップ内で最もレンズブリージングの影響が大きい部分の値に固定されます。手動を選んだときは〔クロップ量〕の-sliderでクロップされる範囲を任意に設定することができます。

クロップ制限：

sliderをドラッグして、クリップの補正に適用できるクロップの量を設定します。

- クリップの自動調整の結果が設定した値よりも大きくなった場合は、クロップ制限が使用されます。
- クリップの自動調整の結果が設定した値よりも小さくなった場合は、自動調整結果が使用されます。

アウトプットサマリーの項目

ソース解像度：

クロップ前のソースデータのフレームサイズが表示されます。

補正後のクロップ：

クロップ後の補正済みフレームのサイズが表示されます。

最小のクロップ解像度：

クロップモードが自動のときに、〔クロップ制限〕設定に応じた、補正済みフレームの最小サイズが表示されます。

ヒント

- アクティブ手ブレ補正モードで撮影したソースクリップについて、自動モード使用時にブラーが生じた場合は、手動モードを選択して、〔クロップ量〕の設定値を減らします。
- レンズブリージング補正と手ブレ補正の両方が有効になっている場合、本ソフトウェアによるレンズブリージング補正の効果は、カメラ内の補正機能と比べて弱くなることがあります。プレビュー画面で元のクリップと補正後のクリップを確認し、クリップ補正結果をエクスポートする前に、必要に応じて以下の〔適用〕スイッチのいずれかをオフにしてください。
〔手ブレ補正〕 / 〔レンズブリージング補正〕

関連項目

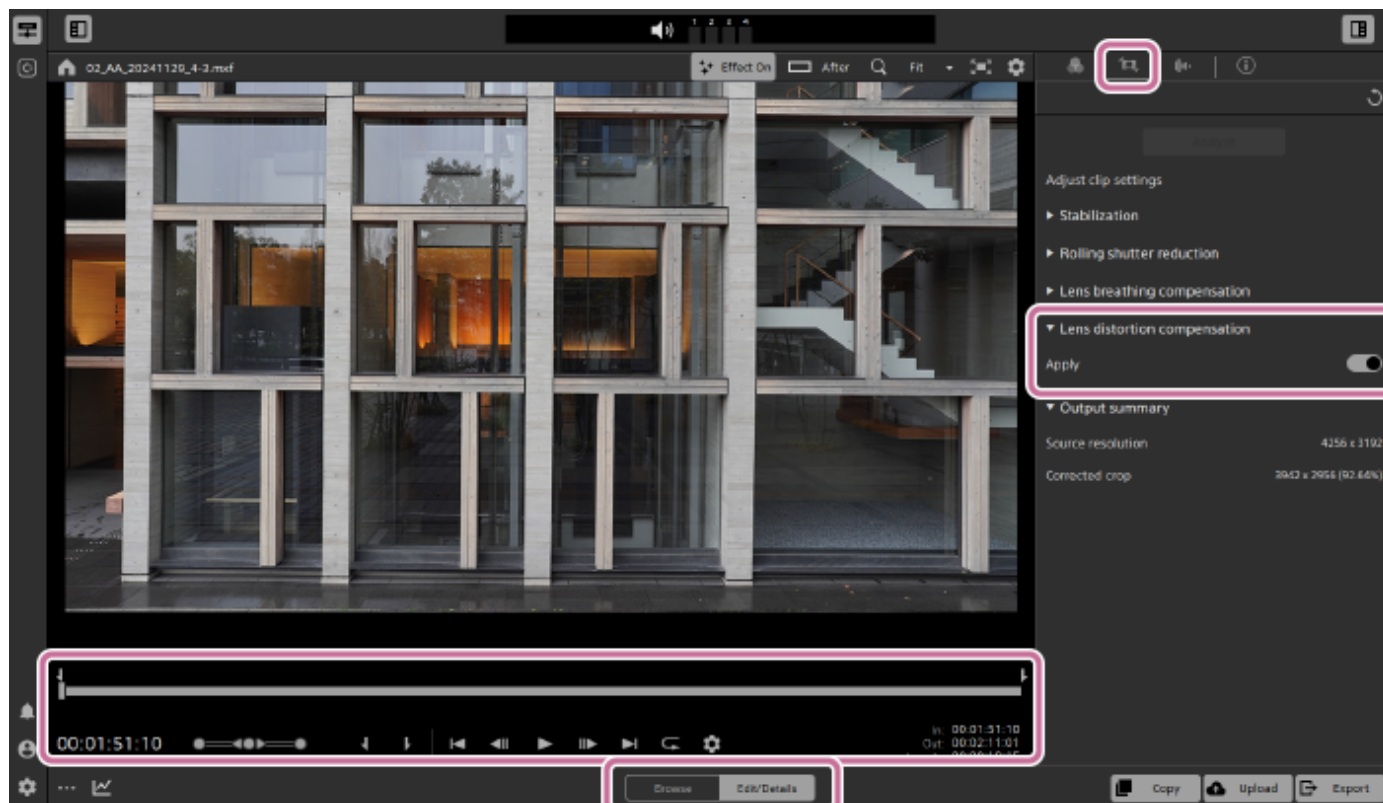
- [手ブレ補正](#)
- [プレビュー画面の操作](#)
- [クリップのトランスコード](#)

TP1002380838

Catalyst Prepare ver.3.0以降

レンズ歪補正

X-OCNフォーマットで撮影されたレンズ歪補正のメタデータを含むクリップを対象として、レンズに起因する歪曲収差を補正することができます。



1 サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。

- 補正のメタデータを含むクリップにはサムネイル/リストパネルに以下のボタンが表示されます。
 : 【含まれるメタデータ】ボタン
- 【含まれるメタデータ】ボタンをクリックして以下のアイコンが表示されれば、レンズ歪補正のメタデータを含むクリップです。
 : 【レンズ歪補正】アイコン
- レンズ歪補正アイコンはFTPデバイス、CIFS を介したXDCAM Stationのボリューム、XDCAMデッキ、XDCAMドライブユニット、または Optical Disc Archiveボリューム上のクリップでは表示されません。

ご注意

- 補正のメタデータを含まないクリップを補正することはできません。

2 画面右上の【クリップの調整】ボタンをクリックする。

-  : 【クリップの調整】ボタン
 【クリップ調整の設定】パネルが表示されます。

- 補正のメタデータを含むクリップを開く場合は、最初に分析を促すメッセージが表示されます。パネル上部の以下のボタンをクリックしてください。

Analyze : [分析] ボタン

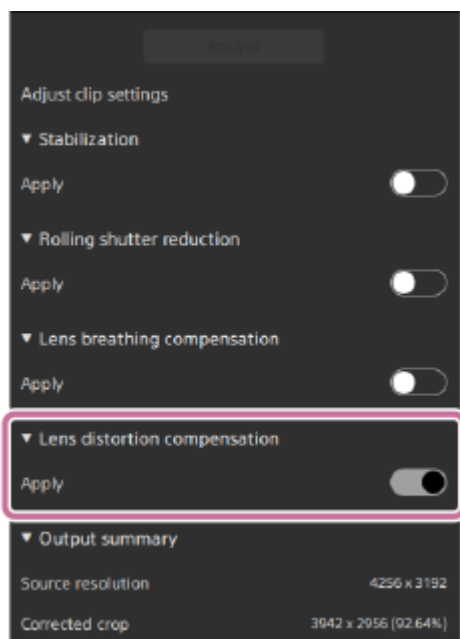
3 トラックバーでマークインポイントとマークアウトポイントを設定して、補正対象範囲を指定する。

- トラックバーの操作について詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」をご覧ください。

4 [レンズ歪補正] をクリックする。

補正適用のスイッチが表示されます。

- [レンズ歪補正] のオン、オフを変更するには、その他の補正をオフにする必要があります。



5 [適用] スイッチをオンにする。

6 パネル上部の以下のボタンをクリックする。

Analyze : [分析] ボタン

- すでに分析を行っている場合、[分析] ボタンが表示されないことがあります。

ご注意

- お使いの環境によっては、補正適用後の映像が黒画面になることがあります。

7 画面右下の以下のボタンをクリックしてダイアログを開き、トランスコードの設定を行う。

Export : [エクスポート] ボタン

ご注意

- トランスコードについて詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。

8 [エクスポート] をクリックする。

クリップ調整の結果が、指定したクリップにレンダリングされます。

関連項目

- [手ブレ補正](#)
- [プレビュー画面の操作](#)
- [クリップのトランスコード](#)

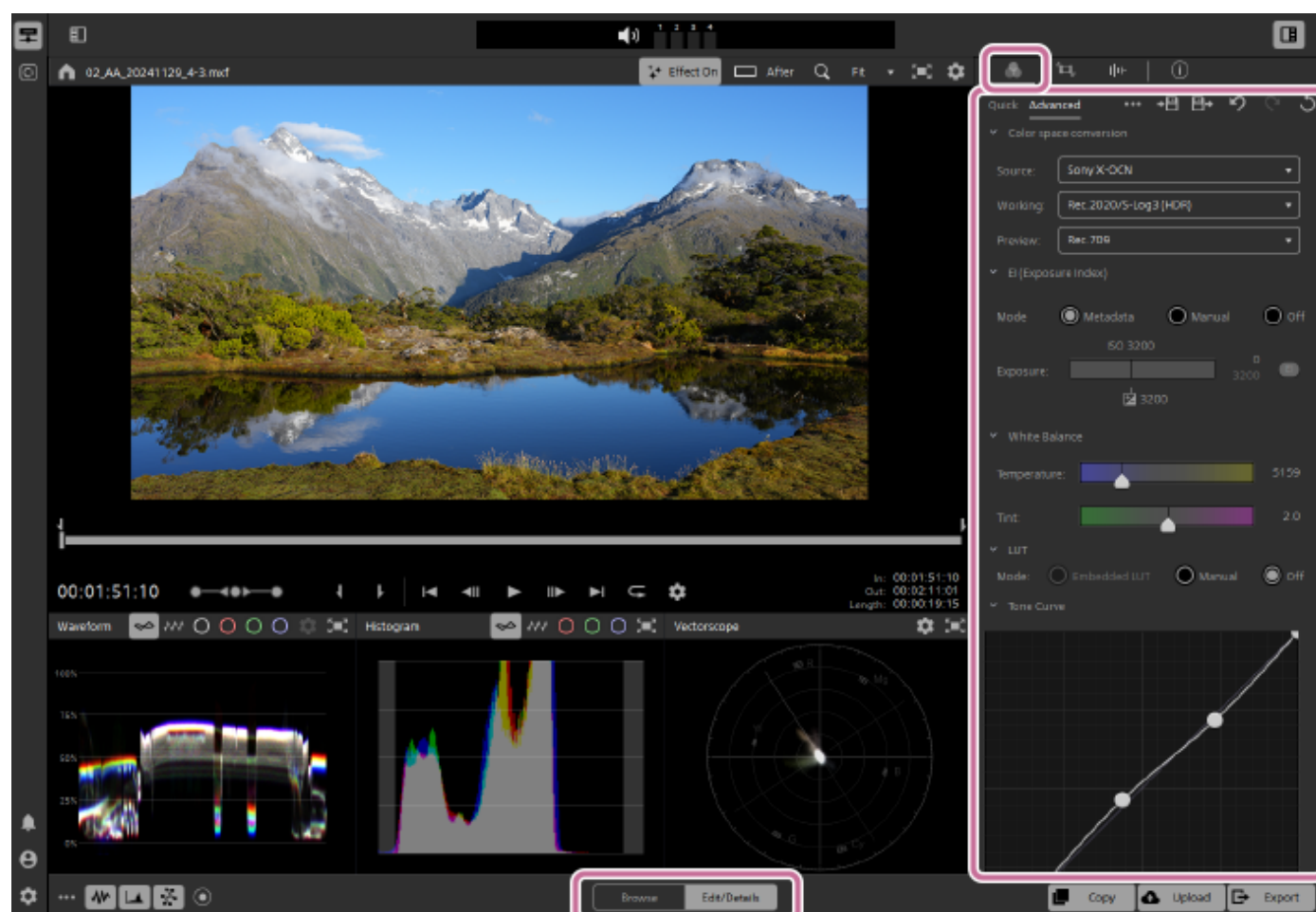
TP1002380840

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

色調整

1つのプロジェクト内で複数のカメラを使用した場合やショットによって照明が異なる場合は、記録されたクリップの状態に差異が出てることがあります。色調整機能を使用して、クリップごとの差異を抑えたり、意図的に色合いを変えたクリップに変換したりすることができます。



① サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを「編集/詳細」にする。

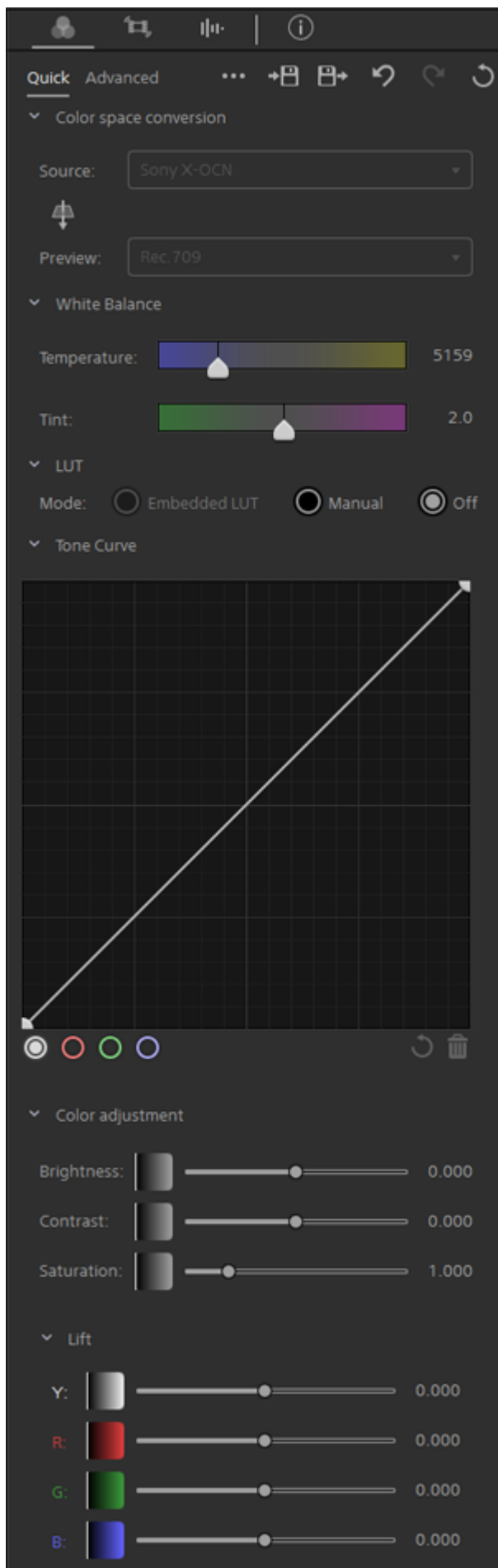
② 画面右上の「色調整」ボタンをクリックする。

: 「色調整」ボタン

「色調整」パネルが表示されます。

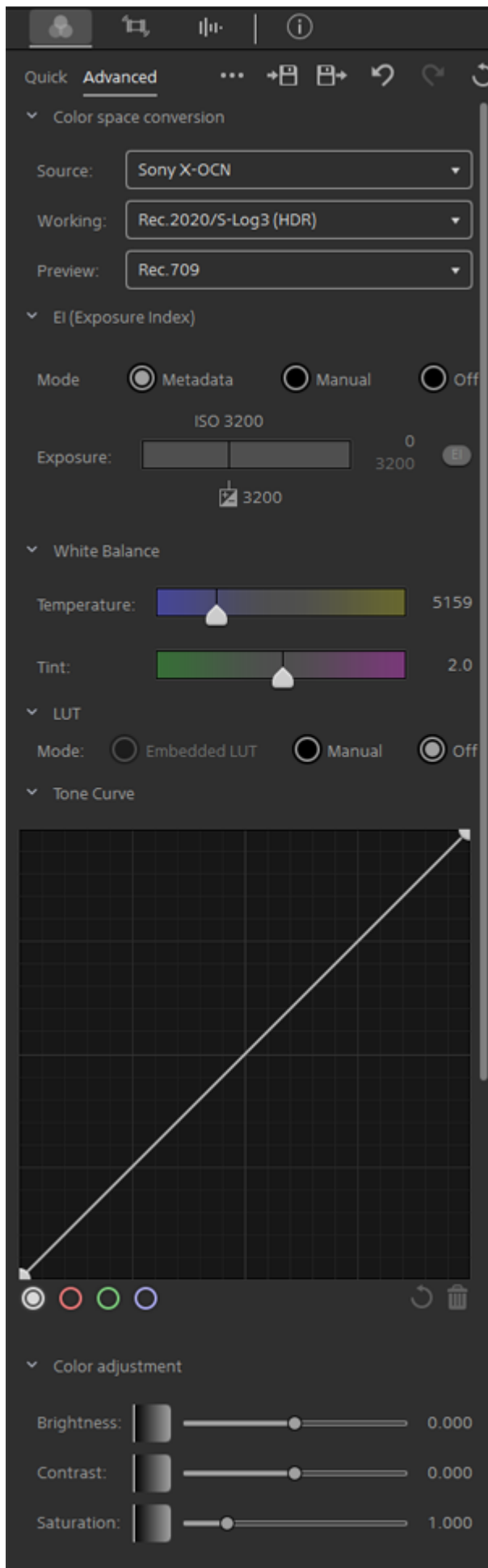
- 「色調整」パネルには、以下の2つのタブが用意されています。
 - 「Quick」タブ：簡易設定用
 - 「Advanced」タブ：詳細設定用
- プレビュー画面を確認しながら色調整を行ってください。詳しくは、「[色調整の設定項目](#)」をご覧ください。

「Quick」タブ



- このタブでは、表示する項目を基本的な機能に限定します。すべての項目を表示するには [Advanced] タブを選んでください。

[Advanced] タブ



3 画面右下の以下のボタンをクリックしてダイアログを開き、トランスコードの設定を行う。

 Export : [エクスポート] ボタン

ご注意

- トランスコードについて詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。
- 色調整の結果を反映したクリップをエクスポートするには、トランスコードの色空間を以下に設定してください。
[色空間の出力] : [プレビューと同じにする]
[ソースと同じにする] に設定すると、色調整の結果はクリップに反映されません。

4 [エクスポート] をクリックする。

調整の結果がレンダリングされたクリップが作成されます。

色調整の設定項目

設定項目は、選択したクリップの状態や色空間によって異なります。

色空間の変換 :

色空間設定が表示されます。設定を変更する場合は、プルダウンリストから選択します。

ソース : 色空間は自動的に検知されるため、通常は変更する必要がありません。

作業 : カラーグレーディングに使用する色空間です。

プレビュー : プレビューに使用される色空間です。

- [Quick] タブでは色空間を変更することはできません。

EI (Exposure Index) :

Log撮影時のメタデータのEI値を引き継ぐか、メタデータのEI値を基準に[露出] スライダーを使って露出値を更に調整することができます。

[メタデータ] : メタデータのEI値を使用します。

[手動] : メタデータのEI値を基準に露出を調整します。

[オフ] : 露出の調整がオフになります。[露出] スライダーのハンドルとEI値は表示されなくなり、Log撮影時の露出値が適用されます。

- [Quick] タブではEIの設定をすることはできません。

ホワイトバランス :

色温度と、緑から赤の間のカラーバランスの調整をすることができます。

[温度] : スライダーで色温度を調整します。数値を入力して調整することもできます。(2 000 K~15 000 K)

[濃淡] : スライダーで緑から赤の間のカラーバランスを調整します。数値を入力して調整することもできます。(-100.0~100.0)

- [温度] を調整すると、赤ゲインおよび青ゲインは、メタデータに保存されている色温度を基準に調整されます。メタデータに色温度が保存されていない場合は、デフォルト設定の3 200 Kが使用されます。
- [濃淡] を調整すると、マゼンタゲインおよび緑ゲインは、メタデータに保存されている値を基準に調整されます。

LUT :

Log撮影時にLUT (ルックアップテーブル) を適用している場合、メタデータからLUTを引き継ぐかどうかを設定します。

[埋め込みLUT] : クリップに埋め込まれているLUTを使用します。

[手動] : プリセットグループからLUTを選択したり、他のノンリニア編集ソフトウェアなどで作成されたLUTをインポートすることができます。

[オフ] : LUTを使用しません。

- LUTはグループ単位で管理することができます。以下の手順から、新規にグループを作成してLUTをインポートすることも可能です。

[手動] > [グループ] > [グループを作成]

トーンカーブ：

RGBチャンネルをトーンカーブで視覚的に調整します。特定のチャンネルを調整するには、赤、緑、青のボタンを選んで操作します。すべての色を同時に調整するには白のボタンを選んでください。

- コントロールポイントを追加するには、座標上の任意の点をクリックします。コントロールポイントを選んでドラッグすることでトーンカーブを編集することができます。

色調整：

クリップの明るさやコントラスト、色味を調整することができます。各スライダーは、ASC-CDLパラメーターを編集するために使用します。

【明るさ】：全体の明るさを調整します。

【コントラスト】：全体のコントラストを調整します。

【彩度】：全体の彩度を調整します。

【リフト】：暗部の色調整を行います。

【ガンマ】：中間部の色調整を行います。

【ゲイン】：明部の色調整を行います。

- RGBスライダーでは個別の色ごとに調整できます。Y（輝度）スライダーはRGBに連動して調整されます。
- [ホイール] ボタンをクリックすると、色スコープが表示されます。色スコープは【色調整】の値と連動し、それぞれの値を直感的に、また複数の色を複合的に補正することができます。

：[ホイール] ボタン

ヒント

- 【色調整】パネル上部の以下のボタンをクリックすると、色調整に関する更に詳細な機能を実行できます。詳しくは、「[色調整設定のエクスポート](#)」をご覧ください。
：[その他の色オプション] ボタン
- 【元に戻す】ボタンをクリックすると、色調整の操作を取り消すことができます。また【やり直す】ボタンをクリックすると、一旦取り消した操作を元に戻すことができます。
：【元に戻す】ボタン
：【やり直す】ボタン
- 【リセット】ボタンをクリックすると、色調整に関するすべての操作をリセットすることができます。
：【リセット】ボタン
- スライダー上でダブルクリックすると、調整した値がリセットされます。
- スライダー横の数値をクリックすると、数値を直接入力することができます。
- スライダー上で以下のキーボードのキーを押しながらドラッグすると、数値を微調整することができます。
Windows：Ctrl
macOS：⌘

Log撮影について

Log撮影について詳しくは、下記のサイトをご覧ください。

<https://helpguide.sony.net/di/pp/v1/ja/index.html>

関連項目

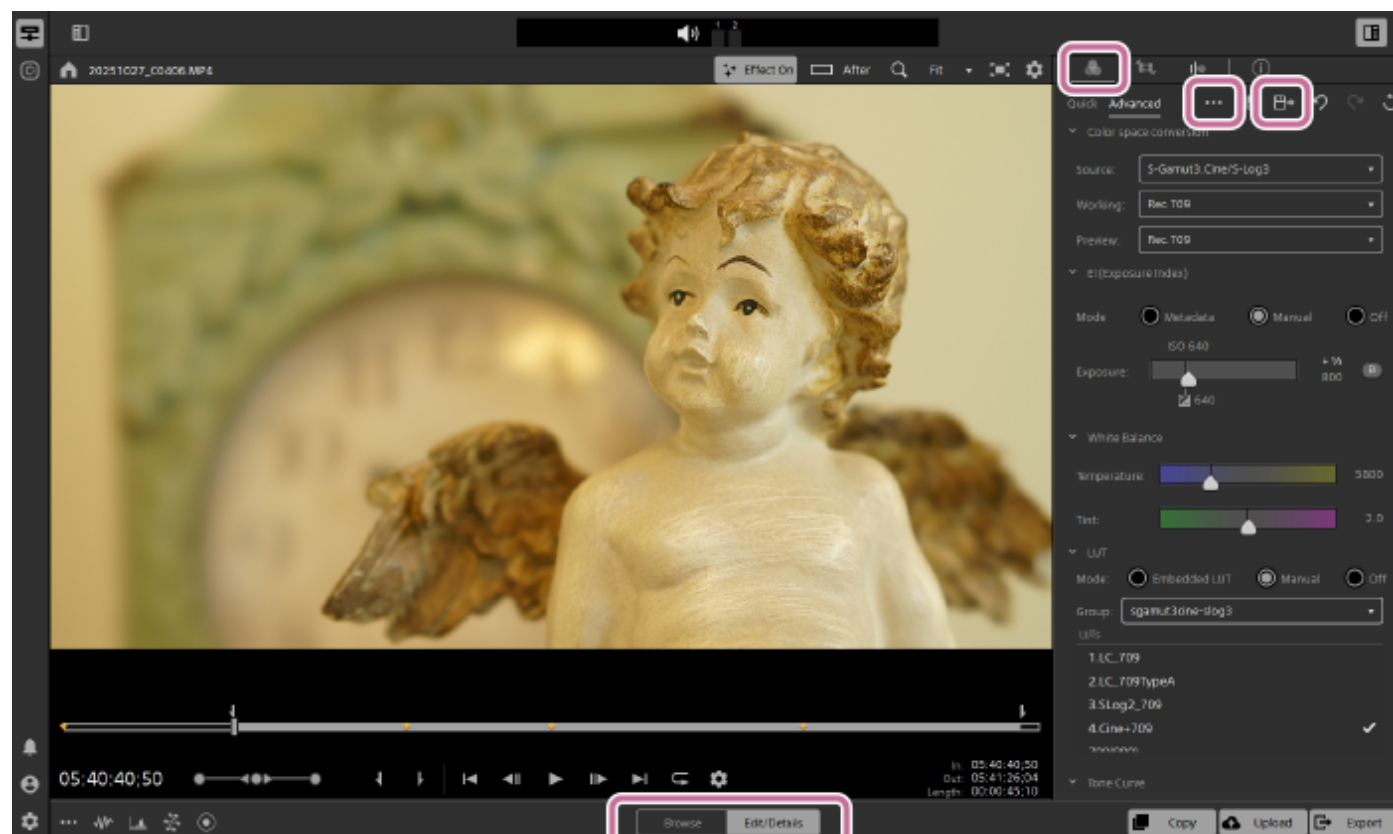
- [クリップのトランスコード](#)
- [カラーグレーディング](#)

Catalyst Prepare ver.3.0以降

色調整設定のインポート

カラーグレーディング情報交換用のカラープリセット、またはASC-CDL^{*} ファイルをロードして適用する手順について説明します。

^{*} American Society of Cinematographers Color Decision List



カラープリセットの適用

カラープリセットには、以下の設定が含まれます。
露出/温度/濃淡/ルック プロファイル/トーン カーブ/ASC-CDL

1. 色調整設定を適用したいクリップを選び、モードセクターを「編集/詳細」にする。
 - クリップリストで複数のクリップを選んでカラープリセットを適用することもできます。

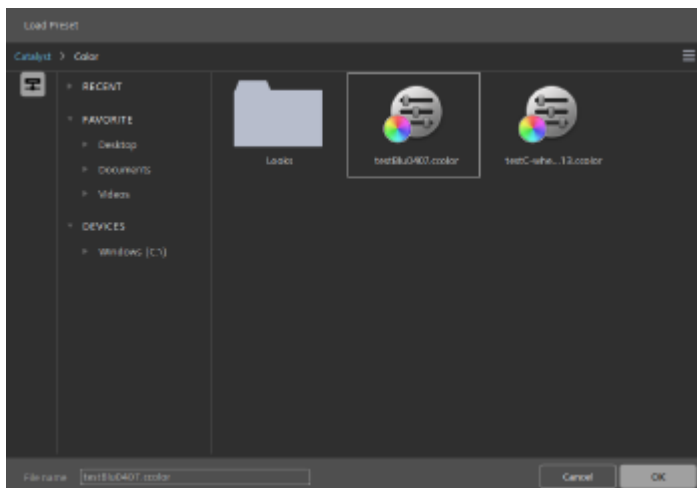
ご注意

- 選択したときに以下のアイコンが表示されるクリップにはカラープリセットを適用できません。
: スパンされたクリップ
 このアイコンは、ファイルサイズ制限のために複数ファイルにまたがっているクリップであることを示します。本ソフトウェアでは単一の仮想クリップとして表示しています。

2. 画面右上の「色調整」ボタンをクリックする。
: 「色調整」ボタン
 「色調整」パネルが表示されます。

3. パネル上部の以下のボタンをクリックする。
: 「色設定のインポート」ボタン

〔カラープリセットをロード〕ダイアログが開きます。



- このダイアログは、パネル上部にある以下のボタンをクリックして表示されるメニューから、〔カラープリセットをロード〕を選択して開くこともできます。

: 〔その他の色オプション〕ボタン

4. 適用したいCatalyst カラー (.ccolor) ファイルを選択する。
5. 〔OK〕ボタンをクリックする。
指定したクリップにカラープリセットが適用されます。

ASC-CDLファイルの適用

1. 色調整設定を適用したいクリップを選び、モードセクターを〔編集/詳細〕にする。
 - クリップリストで複数のクリップを選んでASC-CDLファイルを適用することもできます。

ご注意

- 選択したときに以下のアイコンが表示されるクリップにはASC-CDLファイルを適用できません。
 : スパンされたクリップ
このアイコンは、ファイルサイズ制限のために複数ファイルにまたがっているクリップであることを示します。本ソフトウェアでは単一の仮想クリップとして表示しています。

2. 画面右上の〔色調整〕ボタンをクリックする。

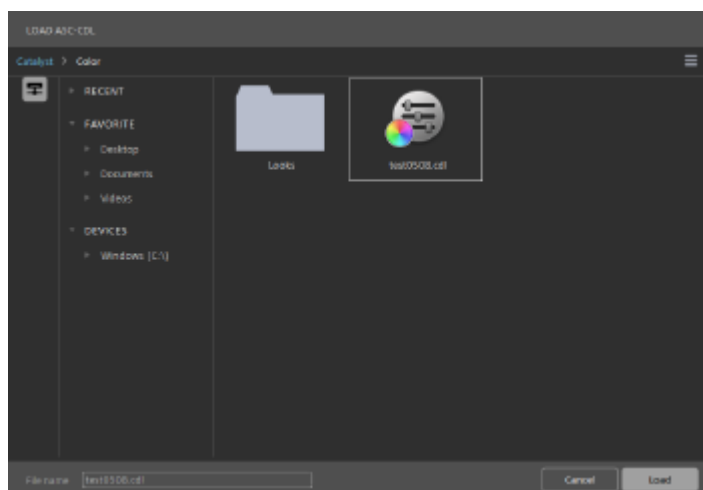
: 〔色調整〕ボタン

〔色調整〕パネルが表示されます。

3. パネル上部の以下のボタンをクリックして、〔ASC-CDLをロード〕を選択する。

: 〔その他の色オプション〕ボタン

〔ASC-CDLをロード〕ダイアログが開きます。



4. 適用したいASC-CDL (.cdl) ファイルを選択する。
5. [ロード] ボタンをクリックする。
指定したクリップに、選択した色設定が適用されます。

関連項目

- [モニター表示とカラーホイール](#)
- [色調整設定のエクスポート](#)

TP1002509256

Catalyst Prepare ver.3.0以降

モニター表示とカラーホイール

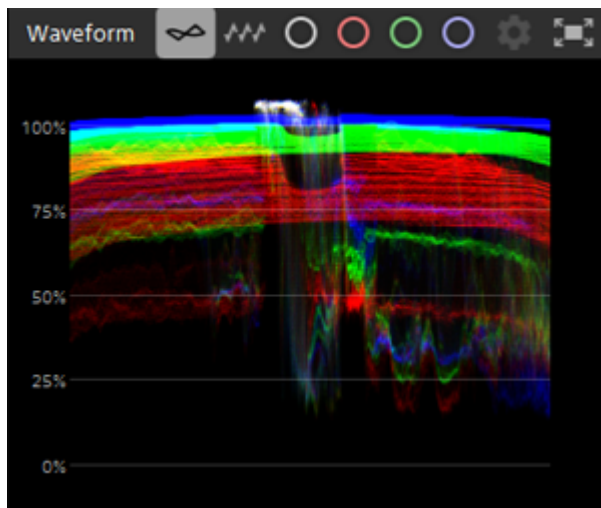
波形モニター、ヒストグラムモニター、およびベクトルスコープモニターを使用して、カラー値の変更結果を視覚的に確認しながら色調整を行うことができます。モニターは、別ウィンドウで表示しながら色調整を行うことができます。また、カラーホイールを使用して、色を直感的に調整することもできます。カラーホイールは、ASC-CDLパラメーターを編集するために使用します。

各モニター、カラーホイールの表示/非表示は、画面左下の以下のボタンで切り替えます。

-  : [波形] ボタン
-  : [ヒストグラム] ボタン
-  : [ベクトルスコープ] ボタン
-  : [ホイール] ボタン

波形モニター

波形モニターには、ビデオ信号の輝度値（明るさまたはYコンポーネント）が表示されます。垂直軸は輝度値を表し、水平軸はフレーム幅に相当します。



以下のボタンで波形モニターの表示を切り替えます。

-  : オーバーレイの波形を表示
-  : RGB独立の波形を表示
-  : Yコンポーネントを表示
-  : Rコンポーネントを表示
-  : Gコンポーネントを表示
-  : Bコンポーネントを表示
-  : 別ウィンドウとしてモニターを表示

以下のボタンをクリックして、波形モニターの表示を調整することができます。

-  : [波形の設定] ボタン

調整できる項目は以下のとおりです。

- 波形モニターのスケール
- 波形に表示される単位の変更（%またはNits）
- HDRクリップのグレーディングを行うときのAIR* matchingの有効/無効の切り替え

* Artistic Intent Rendering

ご注意

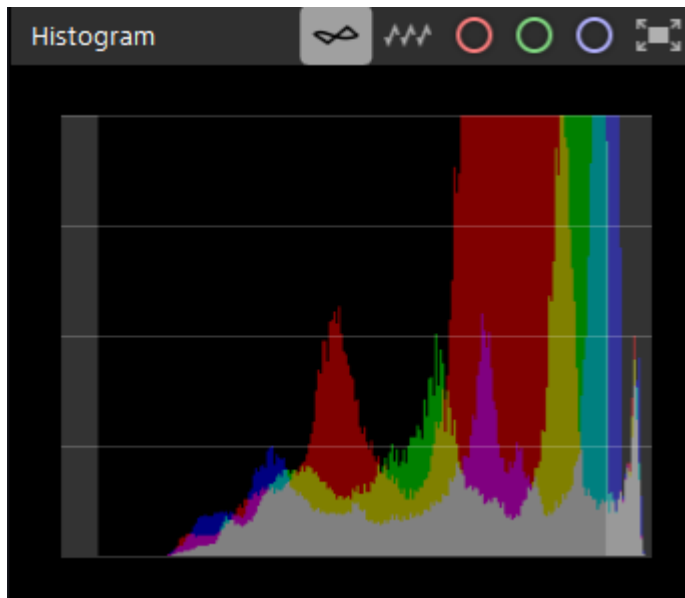
- [波形の設定] ボタンは次の2つの条件が両方設定されている場合にのみ使用できます。
 - ① 作業色空間が [Rec.2020/S-Log3 (HDR)]
 - ② プレビューの色空間が以下のうちのいずれか
 - [Rec.2020/S-Log3]
 - [Rec.2020/HLG]
 - [Rec.2020/HLG AIR Matching (Live)]
 - [Rec.2020/HLG AIR Matching (Mild)]
 - [Rec.2020/HLG (バイパス OOTF)]
 - [Rec.2020/PQ]
 - [Rec.2020/PQ AIR Matching (Live)]
 - [Rec.2020/PQ AIR Matching (Mild)]
 - [Rec.2020/PQ (バイパス OOTF)]
- [プレビューの色空間] が以下のいずれかに設定されている場合は、1000 cd/m²をピーク輝度としてNits値が計算されます。
 - [Rec.2020/HLG]
 - [Rec.2020/HLG AIR Matching (Live)]
 - [Rec.2020/HLG AIR Matching (Mild)]
 - [Rec.2020/HLG (バイパス OOTF)]
- 以下の場合は、[AIR Matching] スイッチでAIR Matchingを使用できます。
[プレビューの色空間] > [Rec.2020/S-Log3]
[AIR Matching] スイッチをオンにすると、Rec.2020/S-Log3ベースのグレーディングと、設定したHLG^{*1}またはPQ^{*2}モニターの映像の見た目を合わせることができます。

*1 Hybrid Log-Gamma

*2 Perceptual Quantizer

ヒストグラムモニター

ヒストグラムモニターは、各色の強度に対応するピクセル数を表示します。垂直軸はピクセル数を表し、水平軸は0～255のRGBカラーの範囲を表します。

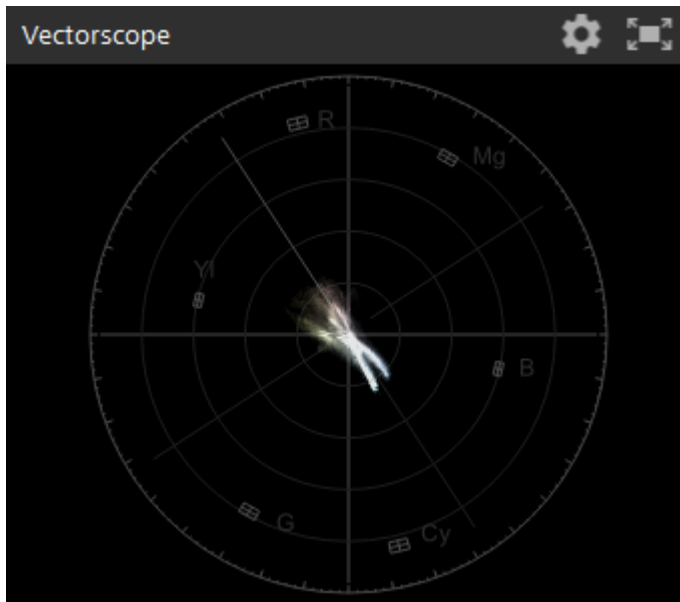


以下のボタンでヒストグラムモニターの表示を切り替えます。

- 📈 : オーバーレイの波形を表示
- 🌈 : RGB独立の波形を表示
- 🔴 : Rコンポーネントを表示
- 🟢 : Gコンポーネントを表示
- 🟡 : Bコンポーネントを表示
- 🖼️ : 別ウィンドウとしてモニターを表示

ベクトルスコープモニター

ベクトルスコープを使用して、ビデオ信号のクロミナンス値（カラーコンテンツ）をモニターすることができます。このモニターは、カラーホイール上に色相と彩度をプロットします。



ベクトルスコープには、放送規格に規定されている赤（R）、マゼンタ（Mg）、青（B）、シアン（Cy）、緑（G）、および黄（Y）の彩度のターゲットが表示されます。ビデオ信号の個々の色は、ベクトルスコープ内ではドットとして表示されます。スコープの中心からドットまでの距離は彩度を表し、ドットからスコープの中心までの線の角度は色相を表します。

例えば、画像に青の色合いがある場合、ベクトルスコープ内でのドットの分布はカラーホイールの青の部分に集中します。画像に範囲外の青の値が含まれている場合、ベクトルスコープの表示は青のターゲットを超えて広がります。

以下のボタンをクリックして、ベクトルスコープモニターの表示を調整することができます。

 : [ベクトルスコープの設定] ボタン

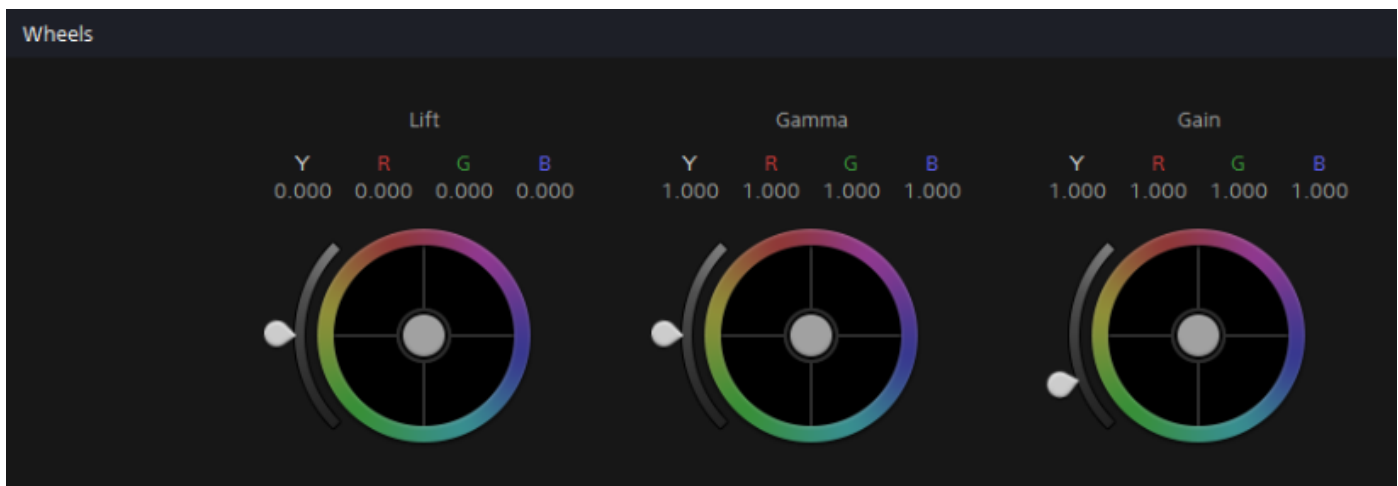
 : 別ウィンドウとしてモニターを表示

調整できる項目は以下のとおりです。

- スコープのスケールの変更
- スコープのモノクロ表示の切り替え
- スコープに表示されている色の明るさの調整
- スコープのガイド基準線（格子線）の明るさの調整

カラーホイール

リフト用、ガンマ用、ゲイン用のカラーホイールがあります。現在のレベルが視覚的に表されるので、色を直感的に調整できます。調整中は、各モニターの表示とクリップのプレビューが更新されるため、色の変化をリアルタイムで確認することができます。



色相と彩度を調整するには、カラーホイールの中心点をドラッグします。また、RGBすべてのコンポーネントの輝度を同時に上げるには、カラーホイールの横にあるスライダーのハンドルをドラッグします。カラーホイールをリセットするには、移動した中心点をダブルクリックします。輝度をリセットするには、スライダーのハンドルをダブルクリックします。

ヒント

- ベクトルスコープを使用して、シーンとシーン間の色を調整できます。調整をしないと、複数のカメラで撮影したシーン間の色味が明らかに異なる場合があります。
- カラーホイールの調整に、Tangent Controlを使用することもできます。
- カラーホイールの中心点やスライダーのハンドルを大きく動かすには、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグします。
- カラーホイールの中心点やスライダーのハンドルの位置を微調整するには、キーボードで以下のキーを押しながらドラッグします。
Windows : Ctrl
macOS : ⌘

関連項目

- [色調整](#)
- [Tangent Controlの使用](#)

TP1002380832

Catalyst Prepare ver.3.0以降

Tangent Controlの使用

以下のTangent Controlを使用して、色補正パラメーターを操作することができます。

- Tangent Element Tk
- Tangent Element Kb
- Tangent Element Bt
- Tangent Element Mf
- Tangent Element-Vs
- Tangent Wave

ヒント

- Tangent製品のハードウェアおよびソフトウェアの設定や使用方法については、Tangent付属の説明書をご覧ください。
- Tangent Controlのマッピングについては、各Tangent Controlに搭載されている表示で確認するか、Tangent Mapperアプリケーションをご使用ください。

ご注意

- Tangent Controlを使用する場合は、Tangent Hubをあらかじめパソコンにインストールする必要があります。
- Tangent Elementは、USBケーブルで接続する必要があります。
- Tangent Element-Vsを使用する場合は、本ソフトウェアが動作しているパソコンと同じドメインのネットワークに接続する必要があります。

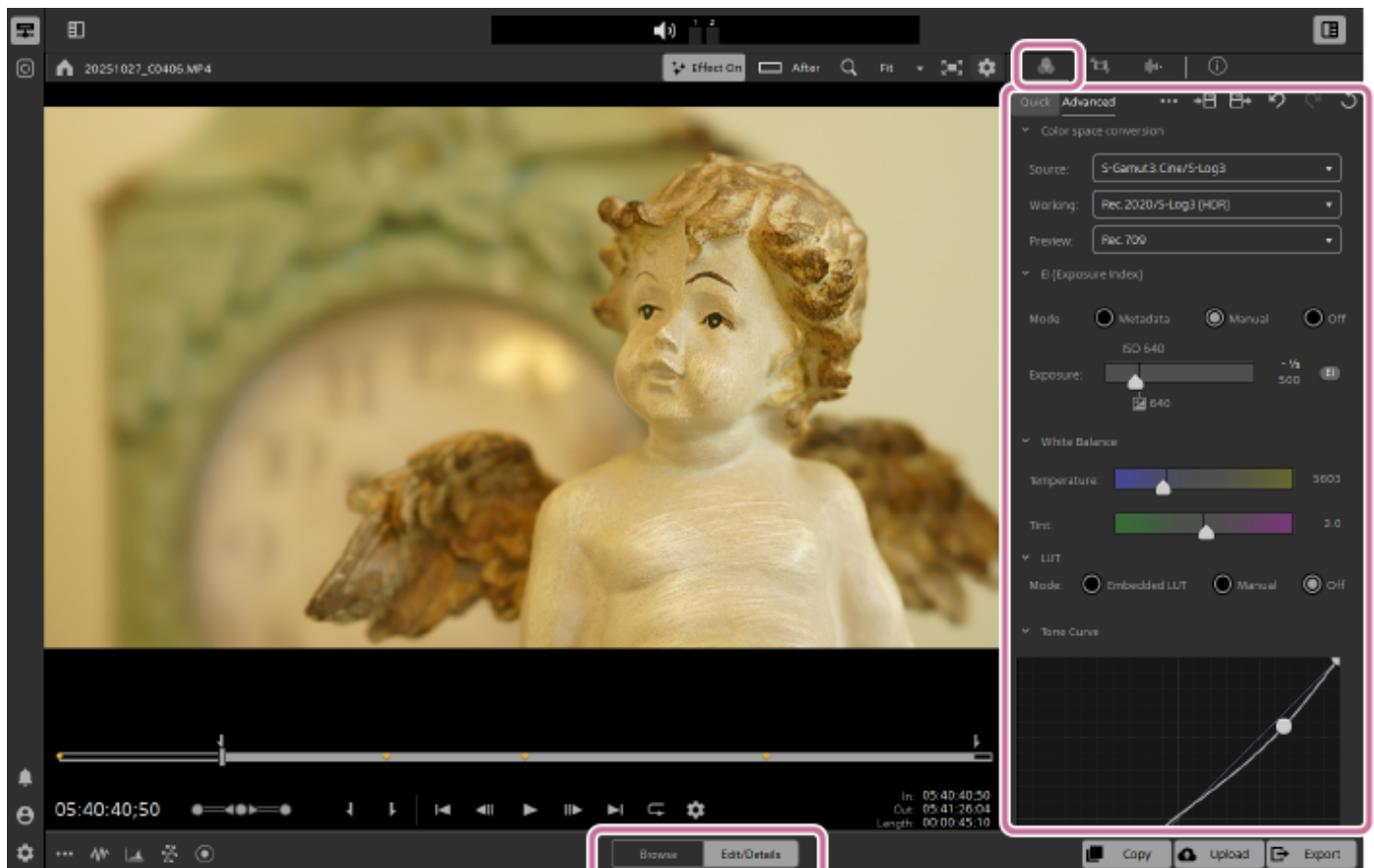
TP1002380833

Catalyst Prepare ver.3.0以降

カラーグレーディング

本ソフトウェアでは、カラーグレーディングにおける色空間の設定を行うことができます。

- **Rec.709 :**
パソコンやスマートフォン、一般的なハイビジョンテレビなどへの出力に適した色空間です。
- **Log :**
S-Logなど特殊なガンマカーブを持った、広いダイナミックレンジと諧調を有した色空間です。
- **Rec.2020/S-Log3 (HDR) :**
4K/8Kテレビなど超高精細度テレビ向けの色域を有し (Rec.2020) 、広いダイナミックレンジと輝度をもつ (HDR) 色空間です。
- **ACES :**
広い色域と広いダイナミックレンジを有し、異なるデバイスや規格間で統一した出力が可能な色空間です。



① サムネイル/リストパネルでクリップを1つ選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。

② 【色調整】 ボタンをクリックする。

 : 【色調整】 ボタン

③ 【Advanced】 タブを選ぶ。

- 【Quick】 タブを選んだ場合、色空間はクリップ撮影時の設定に固定されます。

4 色空間を設定する。

- 詳しくは、「[色空間の変換の設定項目](#)」をご覧ください。

5 プレビューで映像を確認しながら、露出の調整や色補正などを行う。

色空間の変換の設定項目

ソース：

クリップ撮影時の色空間の設定値が表示されます。ソースの色空間は自動的に検知されるため、通常は変更する必要はありません。

作業：

カラーグレーディングに使用する色空間を設定します。

プレビュー：

プレビューの色空間を設定します。

設定可能な値

ソース

- sRGB
- Rec.709
- Rec.2020
- S-Log1
- S-Gamut/S-Log2 ^{*1}
- S-Gamut3.Cine/S-Log3 ^{*1}
- S-Gamut3/S-Log3 ^{*1}
- Rec.2020/S-Log3 ^{*1}
- Rec.2020/HLG ^{*1}
- Rec.2020/PQ ^{*1}
- Rec.709/HLG

作業

- Rec.709 ^{*2}
- Log
- Rec.2020/S-Log3 (HDR)
- ACES

プレビュー

- Rec.709
- Rec.2020
- Rec.2020/S-Log3 ^{*3}
- Rec.2020/HLG AIR Matching (Live) ^{*3}
- Rec.2020/HLG AIR Matching (Mild) ^{*3}
- Rec.2020/HLG (バイパス OOTF) ^{*3}
- Rec.2020/PQ AIR Matching (Live) ^{*3}
- Rec.2020/PQ AIR Matching (Mild) ^{*3}
- Rec.2020/PQ (バイパス OOTF) ^{*3}

- *1 [EI (Exposure Index)] で露出の調整ができます。また、[ホワイトバランス] で色温度とカラーバランスの調整ができます。
- *2 ハイパーガンマへのグレーディング時は [Rec.709] に設定してください。
- *3 [作業] が以下のときのみ選択可能です。
Rec.2020/S-Log3 (HDR)

関連項目

- [色調整](#)

TP1002380834

色調整設定のエクスポート

色調整の設定をカラープリセットとして保存できます。また、ASC-CDLファイルとしてエクスポートすることもできます。

カラープリセットやASC-CDLファイルを使うと、本ソフトウェア上で他のクリップに同じ設定を適用できます。

また、ASC-CDLファイルはオンセットモニタリング用のカメラや、カラーグレーディングを行うノンリニア編集ソフトウェア*などにロードして使用できます。

* Blackmagic Design DaVinci Resolve、Adobe Premiereなど

カラープリセットの保存

カラープリセットには、以下の設定が含まれます。

露出/温度/濃淡/ルック プロファイル/トーン カーブ/ASC-CDL

1. 色調整設定を保存したいクリップを開き、色調整パネル上部の以下のボタンをクリックする。

: [色設定のエクスポート] ボタン

2. [プリセットの保存] ダイアログで、Catalystカラーファイル (.ccolor) のファイル名を入力する。
3. [保存] ボタンをクリックする。

ASC-CDLファイルのエクスポート

1. 色調整設定を保存したいクリップを開き、色調整パネル上部の以下のボタンをクリックする。

: [その他の色オプション] ボタン

2. [ASC-CDLを出力] をクリックする。
3. [ASC-CDLを出力] ダイアログで、以下を指定する。
ファイル名/出力先/形式

- ファイル形式は [ASC-CDL] を選択します。

4. [エクスポート] ボタンをクリックする。

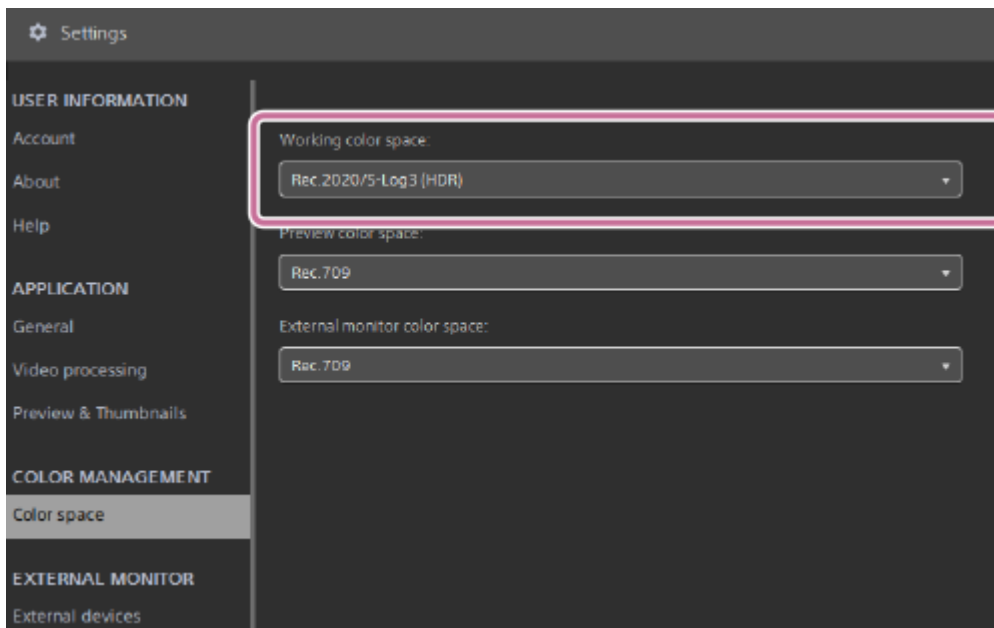
ご注意

- ASC-CDLのパラメーターは、本ソフトウェアの設定項目の一部に対応していません。ASC-CDLファイルのエクスポート時に保存される項目と保存されない項目は以下の通りです。
保存される項目: [色調整] スライダーやカラーホイールを使用して設定した以下の項目
[彩度] / [リフト] / [ガンマ] / [ゲイン]
保存されない項目: [トーン カーブ]
- 本ソフトウェアで設定した以下の項目は、ASC-CDLファイルのエクスポート時に、ASC-CDLパラメーターへ変換して保存されます。
[明るさ] / [コントラスト]
そのため、エクスポートしたASC-CDLファイルを本ソフトウェアにロードすると、これらの設定値は0になります。
本ソフトウェアの設定値を維持したい場合は、ASC-CDLファイルへエクスポートせず、[プリセットの保存] からカラープリセットを保存してください。

3D LUTのエクスポート

3D LUTをエクスポートすることで色設定を書き出し、ノンリニア編集ソフトウェアやハードウェアLUTボックスに適用できます。

作業色空間が以下に設定されている場合に、3D LUTのエクスポートが可能です。



⚙️ (設定) > [色空間] > [作業色空間] > [Rec.2020/S-Log3 (HDR)]

1. 色調整設定を保存したいクリップを開き、色調整パネル上部の以下のボタンをクリックする。

⋮ : [その他の色オプション] ボタン

2. [LUTを出力] をクリックする。
3. [LUTを出力] ダイアログで、以下を指定する。
ファイル名/出力先/[3D LUTのエクスポートの設定項目](#)
4. [エクスポート] ボタンをクリックする。

3D LUTのエクスポートの設定項目

形式 :

LUTの形式を選択します。(3D LUT (NLE .cube) / 3D LUT (SDI/SMPTE .cube))

- 3D LUTをノンリニア編集ソフトウェアで使用する場合は、[3D LUT (NLE .cube)] を選びます。
- 3D LUTをハードウェアLUTボックスで使用する場合は、[3D LUT (SDI/SMPTE .cube)] を選びます。

拡張された S-Log 入力レンジを補正 :

入力色空間が S-Log2またはS-Log3で、以下の設定の場合に指定できます。

[形式] > [3D LUT (NLE .cube)]

- ① [拡張された S-Log 入力レンジを補正] チェックボックスをオンにします。
- ② [種類] を選びます (IRIDAS/Adobe / DaVinci Resolve)

- Adobe Premiereとともに使用する 3D LUTを作成する場合は、[IRIDAS/Adobe] を選びます。
- DaVinci Resolveとともに使用する 3D LUTを作成する場合は、[DaVinci Resolve] を選びます。

色空間の入力 :

LUTの入力として使用する色空間を指定する場合に設定を選択します。

色空間の出力 :

LUTの出力として使用する色空間を指定する場合に設定を選択します。

[色空間の出力] は、以下の設定の場合に限り使用できます。

[色空間] > [作業色空間] > [Rec.2020/S-Log3 (HDR)]

精度 :

以下のいずれかのLUTを選択します。

標準 (33x33x33)/高精度 (65x65x65)

ソース設定：

LUTに露出、温度、濃淡の設定を含める場合は、チェックボックスをオンにします。

トーンカーブ：

トーンカーブ設定をLUTに含める場合は、チェックボックスをオンにします。

色補正：

色調整設定をLUTに含める場合は、チェックボックスをオンにします。

ヒント

- [拡張された S-Log 入力レンジを補正] チェックボックスは、ノンリニア編集ソフトウェアがフルレンジをリーガルレンジとして使用するファイル（S-Log3 など）を取り扱う場合の補正に使用します。独自の入力範囲設定をもつノンリニア編集ソフトウェア（DaVinci Resolveの新バージョンなど）においては、[拡張された S-Log 入力レンジを補正] チェックボックスの選択は不要です。

関連項目

- [色調整](#)
- [エクスポートした3D LUTの適用](#)

TP1002380835

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

エクスポートした3D LUTの適用

本ソフトウェアを使用して3D LUT（NLE .cube）形式でエクスポートした3D LUTを、ノンリニア編集ソフトウェアで適用する手順について説明します。

ご注意

- 詳しくは、各ソフトウェアの説明書をご参照ください。ソフトウェアバージョンによって手順や表示が異なる場合があります。

3D LUTの適用方法（Blackmagic Design DaVinci Resolve）

- 3D LUTファイルを以下のフォルダーに保存する。

Windows : C:\ProgramData\Blackmagic Design\DaVinci Resolve\Support\LUT\Sony

macOS : /macOS/Library/Application Support/Blackmagic Design/DaVinci Resolve/LUT/Sony

ヒント

- 保存先フォルダーは以下の手順でも開くことができます。
①DaVinci Resolveで以下のメニューを選択する。
ファイル > プロジェクト設定
②LUT保存先フォルダーを開く。
カラーマネジメントタブ > LUTフォルダーを開くボタン
- 3D LUTを用いた補間は、以下のプルダウンリストでトリリニアまたはテトラヘドラルに設定します。
3D LUT補間

- プロジェクトがタイムラインにて想定出力色空間^{*1}が使われるよう設定されているかを確認する。

①DaVinci Resolveで以下のメニューを選択する。

ファイル > プロジェクト設定

②DaVinci YRGBを選択する。

カラーマネジメントタブ > カラーサイエンス > DaVinci YRGB

③**タイムラインカラースペース**でRec.709色空間^{*2}を選択する。

④**保存**をクリックする。

- メディアサムネイルを右クリックして、ショートカットメニューから以下を選択する。

LUT > Sony

- 使用する3D LUTを選択する。

- ソースメディアの色空間でリーガルレンジ^{*3}を使用している場合は、LUTがクリップに適用されます。

- ソースメディアの色空間でフルレンジ^{*4}を使用している場合は、以下の手順でメディアの範囲をストレッチしない設定をする。

①メディアサムネイルを右クリックして**クリップ属性**を選択する。

②**データレベル**を以下に変更する。

Full

*1 一般的にはRec.709

*2 Rec.709 (Scene)など

*3 HLG XAVCなど

*4 S-Log3など

3D LUTの適用方法（Adobe Premiere）

1. Adobe Premiereで、シーケンスの作業色空間として想定出力色空間^{*5}が設定されているかを確認する。
 - ①以下のメニューを選択する。
シーケンス > シーケンス設定
 - ②**作業カラースペース**で以下を選択する。
Rec.709
 - ③OKをクリックする。
2. メディアウィンドウ内で該当メディアを右クリックし、以下を選択する。
変更
3. **フッテージを変換**を選択する。
4. **カラー設定**セクションで、以下を開く。
LUTを入力セクター
5. 使用する3D LUTファイルを選ぶ。
 - 既存の3D LUTを使用する場合：該当LUTをセクターから選ぶ。
 - 新たな3D LUTを追加する場合：以下の手順で対象のフォルダーから選ぶ。
 - ①**LUTを追加**を選択する。
 - ②対象のフォルダーまで移動してから、使用する保存済み3D LUTを選ぶ。
6. **カラースペースを上書き**セクターの設定を、LUTの出力色空間^{*5}と整合させる。

*5 一般的にはRec.709

関連項目

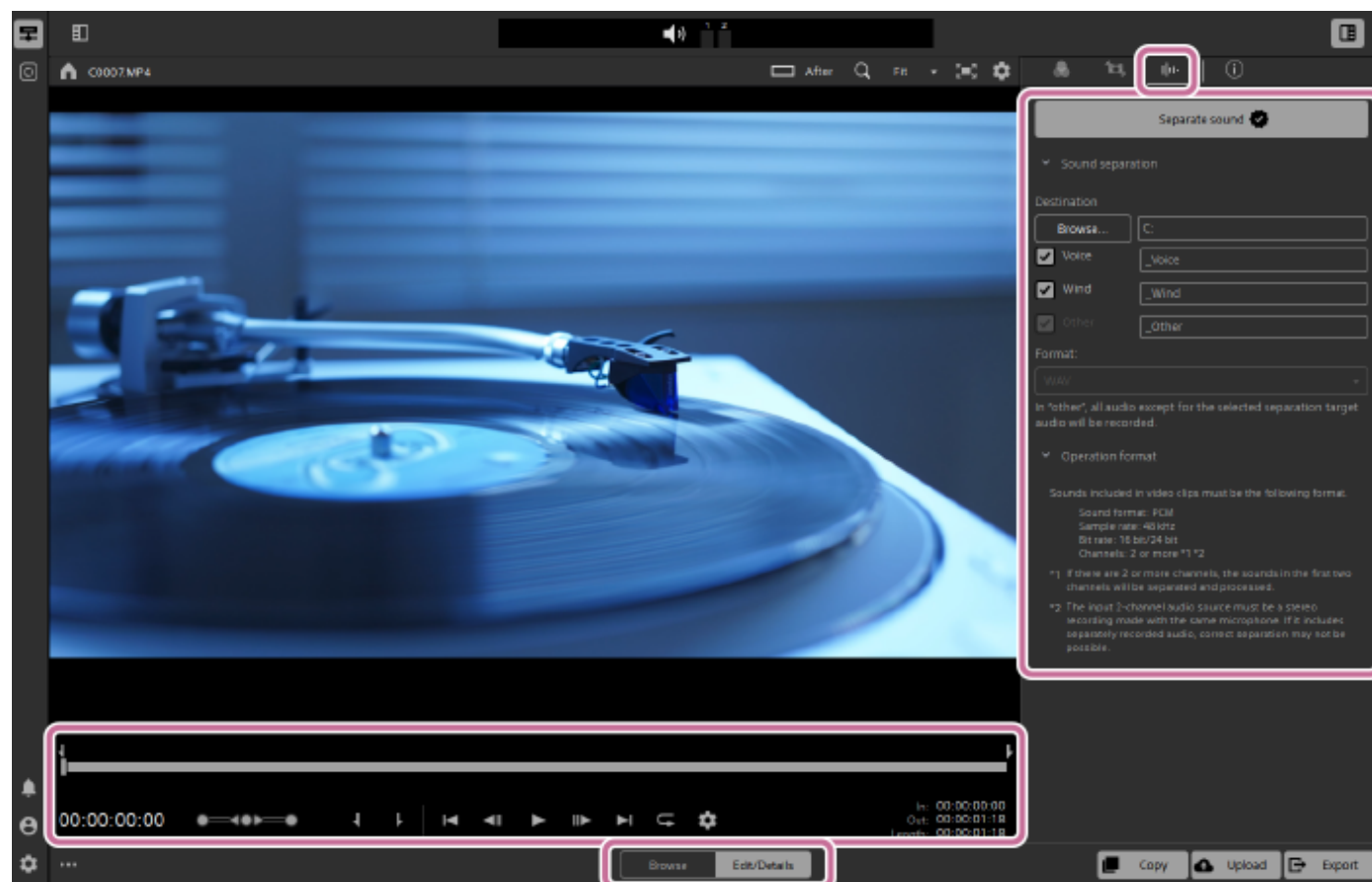
- [色調整](#)

TP1002380836

Catalyst Prepare ver.3.0以降

音源分離

撮影したクリップの音声から、話し声、風音、環境音をそれぞれに分離し、新たな音声ファイル（WAV）を作成します。作成された音声ファイルの音量調整は、ノンリニア編集ソフトウェアなどのプロジェクト上で行います。



- 1 クリップを選び、モードセクターを【編集/詳細】にする。
 - クリップリストで複数のクリップを選んで音源分離を実行することもできます。

- 2 画面右上の【音源分離】ボタンをクリックする。

: 【音源分離】ボタン

【音源分離】パネルが表示されます。

▼ Sound separation

Destination

C:\202606

☒ Voice

☒ Wind

☒ Other

Format:

WAV ▼

In "other", all audio except for the selected separation target audio will be recorded.

▼ Operation format

Sounds included in video clips must be the following format.

Sound format: PCM
Sample rate: 48 kHz
Bit rate: 16 bit/24 bit
Channels: 2 or more *1 *2

*1 If there are 2 or more channels, the sounds in the first two channels will be separated and processed.

*2 The input 2-channel audio source must be a stereo recording made with the same microphone. If it includes separately recorded audio, correct separation may not be possible.

3 トラックバーでマークインポイントとマークアウトポイントを設定して、音源分離の対象範囲を指定する。

- トラックバーの操作について詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」をご覧ください。

4 音声ファイルの出力先フォルダーを指定する。

- [出力先] に出力先フォルダーのパスが表示されます。
- 出力先フォルダーを変更する場合は「参照...」ボタンをクリックしてフォルダーを選ぶか、パスを直接入力して指定します。

5 分離したい音を選択する。

- 出力したい項目のチェックボックスをオンにします。
声/風
- 選択した分離対象以外の音が、[その他] の音声になります。
- クリップ名+サフィックスのファイル名で音声ファイルが出力されます。
- チェックをつけた項目の「サフィックス」は直接編集して変更することもできます。
(_Voice/_Wind/_Other)

6 パネル上部の「音声を分離」をクリックする。

- 指定したフォルダーに音声ファイル（WAV形式）が作成されます。

ヒント

- 音声分離の進行状況は画面中央の上部に表示されます。複数のクリップを選択した場合は、クリップごとの進行状況が表示されます。

ご注意

- 本ソフトウェアはWAV形式のファイルに対応していません。出力結果は、パソコンのエクスプローラーやブラウザから音声ファイルを開いて確認してください。
- ビデオクリップに含まれる音声は以下のフォーマットである必要があります。
 - 音声フォーマット：PCM
 - サンプルレート：48kHz
 - ビットレート：16bit/24bit
 - チャンネル：2以上^{*1} ^{*2}

^{*1} チャンネル数が2つ以上の場合、先頭2チャンネルの音源に対して分離処理を実行します。

^{*2} 入力となる2チャンネルの音源は同じマイクで記録したステレオ音源である必要があります。別撮りした音声などが含まれている場合、正しく分離できないことがあります。

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)

TP1002380841

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

クリップのトランスコード

元のクリップは保持したまま、クリップの動画形式を別の形式に変換して、新しいクリップとして書き出すことができます。

また、動画形式を変えないまま、映像補正や色調整の結果を反映したクリップを書き出すことも可能です。この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

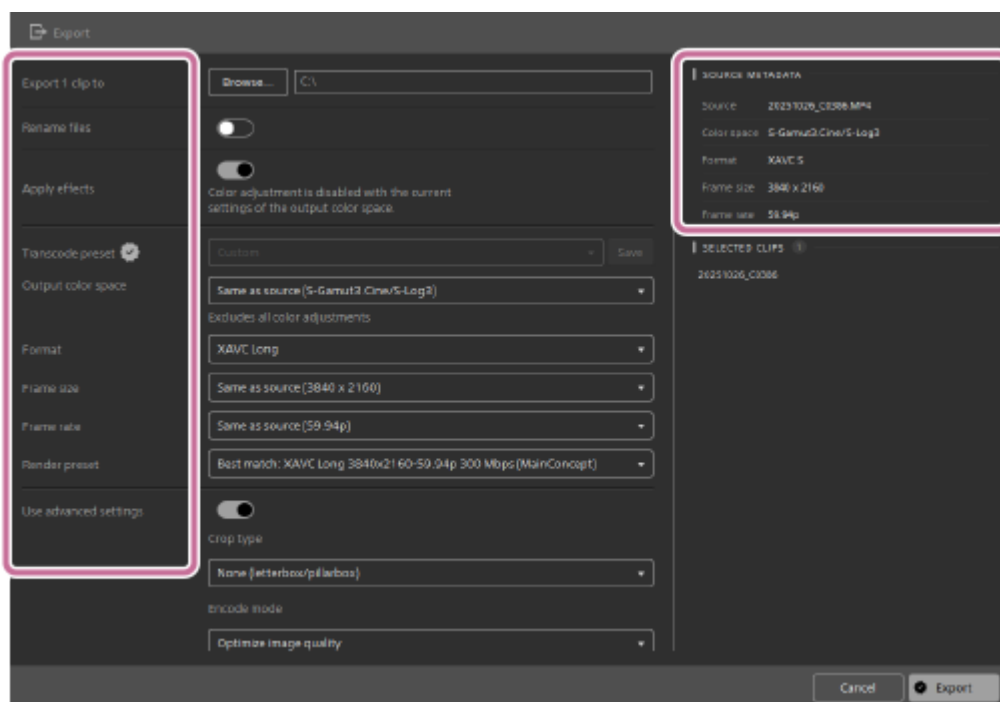
1 トランスコードするクリップを選択する。

- 複数のクリップを選択して、一括でトランスコードを行うことも可能です。

2 画面右下の以下のボタンをクリックする。

 Export : [エクスポート] ボタン

[エクスポート] ダイアログが開きます。



- ダイアログ内右側の [ソース メタデータ] では、選択したクリップの以下のメタデータを確認することができます。

ソース/色空間/形式/フレーム サイズ/フレーム レート

3 トランスコードの設定を行う。

- 設定について詳しくは、「[トランスコードの設定項目](#)」をご覧ください。
- [エフェクトを適用] スイッチをオンにすると、映像補正や色調整の結果を含めてトランスコードすることができます。その場合、[色空間の出力] を以下に設定してください。
[プレビューと同じにする]

- [ファイル名の変更] スイッチをオンにして、変換後のクリップ名を変更することができます。クリップ名の前後に任意の文字列を追加したり、クリップ名を連番に変更したりすることができます。

4 新しいクリップ名と出力先フォルダーを設定して、[エクスポート] をクリックする。

調整したトランスコード設定が適用されたクリップがレンダリングされます。レンダリングの進行状況は画面上部に表示されます。

トランスコードの設定項目

トランスコード プリセット :

任意のトランスコード設定をプリセットとして保存したり、保存したプリセットを呼び出したりすることができます。

トランスコード設定を途中で破棄したい場合は、[デフォルト] を選択します。

保存したプリセットを削除したい場合は、プリセット名の横にある以下のボタンをクリックします。

 : [プリセットの削除] ボタン

色空間の出力 :

変換後のクリップに適用する色空間を選択します。

変換後の色空間と色調整をプレビューに合わせたい場合は、[プレビューと同じにする] を選択します。

外部モニターとの接続が有効な場合は [外部モニターと同じにする] を選択することで、外部モニターの設定に合わせること可能です。

フォーマット :

変換後のファイルフォーマットを選択します。

DPXを選択した場合、[フレーム インデックスの開始] に任意の値を入力することで、数値インデックスを追加することができます。

フレーム サイズ :

変換後のフレームサイズを選択します。

[ソースと同じにする] を選択することで、変換後も同じフレームサイズにすることができます。

フレーム レート :

変換後のフレームレートを選択します。

[ソースと同じにする] を選択することで、変換後も同じフレームレートにすることができます。

レンダリングのプリセット :

上記の各設定に基づき、最適なレンダリングのためのプリセットが表示されます。

お好みのプリセットを選択することができます。

トランスコードの詳細設定項目

より詳細な設定を行うには、[詳細設定を有効にする] スイッチをオンにします。

クロップの種類 :

変換前後でクリップのフレームサイズが一致しない場合の表示設定を行います。また、あらかじめ選択しておいたマスキング率を適用することもできます。

なし (レターボックス/ピラーボックス) / センター クロップ (カット エッジ) / マスキング率を使用

エンコード モード :

エンコード時に画質と速度のどちらを優先するかを選択します。

オーディオ チャンネル :

変換後のクリップへのオーディオチャンネルの割り当てを設定します。

カスタム メタデータの追加 :

変換時に任意のメタデータを埋め込む場合に選択します。埋め込まれたメタデータは、変換後のクリップと同じフォルダにjsonファイルとして保存されます。この設定項目を有効にするには、あらかじめパソコン上の指定のフォルダに設定ファイルを準備しておく必要があります。詳しくは、「[カスタムメタデータ設定ファイルの準備](#)」をご覧ください。

タイムコード書き込み：

変換後のクリップ上にタイムコードを表示する場合に選択します。タイムコードを表示する位置を指定することもできます。

クリップ名書き込み：

変換後のクリップ上にクリップ名を表示する場合に選択します。クリップ名を表示する位置を指定することもできます。

レターボックス/ピラーボックス領域内への書き込みを許可：

変換後のクリップ上のレターボックス/ピラーボックス領域内に、タイムコードやクリップ名を表示する場合に選択します。以下のいずれか一方あるいは両方の設定を、あらかじめ有効にしておく必要があります。

〔タイムコード書き込み〕 / 〔クリップ名書き込み〕

ウォーターマークの追加：

パソコン上の任意の画像を選択し、変換後のクリップ上にウォーターマークとして表示する場合に選択します。画像の不透明度や位置を設定することもできます。

フリップ、回転、およびデスキーズ設定を使用する：

変換後のクリップでもフリップ、回転、デスキーズの設定を保持する場合に選択します。詳しくは、「[プレビュー画面の操作](#)」の「[クリップ設定/オーバーレイ設定](#)」をご覧ください。

マーク イン/アウト ポイントを使用：

クリップ上のマークインポイントとマークアウトポイントで指定した部分のみを変換する場合に選択します。

パディングをクリップに追加：

変換後のクリップの前後に、秒単位の余白を追加する場合に選択します。〔マーク イン/アウト ポイントを使用〕をあらかじめ選択しておく必要があります。

プロキシファイルをトランスコード：

プロキシファイルを変換する場合に選択します。高解像度のクリップの代わりにプロキシファイルを使用することで、変換を高速に行うことができます。

スタートタイムコード変更：

変換後のクリップのタイムコード開始時を指定します。MXF形式のクリップを、以下の各形式に変換する場合に使用することができます。

DNxHD/SStP/XAVC-I/XAVC-L/XDCAM

ヒント

- トランスコードプリセットは、パソコンの以下のフォルダに「.transcode」ファイルとして保存されます。別のパソコンで作成したトランスコードプリセットのファイルを以下のフォルダにコピーして使用することもできます。
Windows：C:\%Users%\<ユーザー名>\%Documents%\Sony\Catalyst\Transcode Presets\
macOS：/Users/<ユーザー名>/Documents/Sony/Catalyst/Transcode Presets/

ご注意

- フレームサイズが異なる複数のクリップにウォーターマークを設定する場合、最もフレームサイズが大きいクリップに合わせた画像を適用すると、より小さいフレームサイズのクリップに合わせて画像のサイズと位置が調整されます。画像のサイズがフレームサイズより小さい場合は、〔ウォーターマークの追加〕設定で指定した位置に固定されます。

- 選択した際に以下のアイコンが表示されるクリップは、サイズ制限のために複数ファイルにまたがってはいるものの、本ソフトウェアでは単一の仮想クリップとして表示されるスパンされたクリップであることを示します。

：スパンされたクリップ

複数ファイルにまたがるXDCAM EX形式のクリップは直接トランスコードできますが、AVCHD形式のクリップは、まず最初に新規フォルダーを作成し、そのフォルダーにコピーする必要があります。コピー完了後、上記のアイコンが消えると、複数のクリップが結合されて1つのクリップになり、トランスコードできるようになります。

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)
- [リレークリップの結合](#)
- [カスタムメタデータ設定ファイルの準備](#)
- [アカウントと設定](#)

TP1002380842

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

カスタムメタデータ設定ファイルの準備

パソコン上の指定のフォルダにあらかじめ設定ファイルを準備しておくことで、クリップをエクスポートする際に、任意のメタデータを埋め込むことができます。

1 本ソフトウェアを閉じる。

2 テキストエディタを使用して、設定ファイルを作成する。

- 設定ファイル内の記述は以下のように、項目と値の対を含んでいる必要があります。

例：

```
{  
  "スラッグ":"Election",  
  "種類":"News",  
  "ソース": "",  
  "撮影日": ""  
}
```

- － スラッグ/種類/ソース/撮影日：項目の例です。
- － Election/News：値の例です。初期値として表示されます。値がない場合は空欄表示になります。

3 ファイル名を「customMetadataExport.json」として、以下のフォルダに保存する。

Windows：C:\¥Users¥<ユーザー名>¥Documents¥Sony¥Catalyst¥

macOS：/Users/<ユーザー名>/Documents/Sony/Catalyst

関連項目

- [クリップのトランスコード](#)

TP1002380845

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クリップの一覧情報のエクスポート

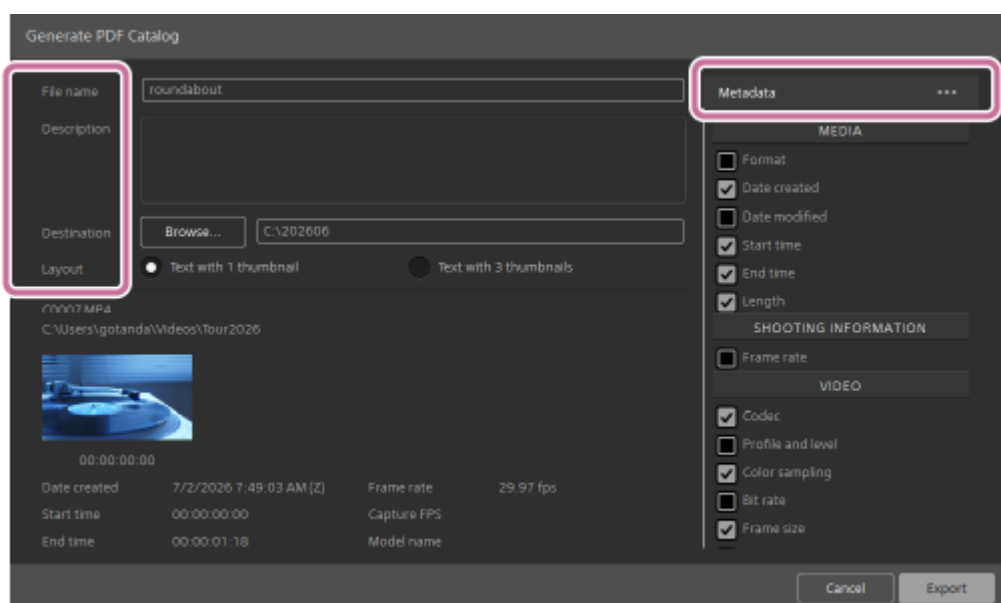
クリップのメタデータ情報などを、PDFカタログあるいはCSVカタログ（カンマ区切り形式）としてエクスポートすることができます。

この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

PDFカタログの作成

1. カタログにエクスポートしたいクリップを選択する。
 - 複数のクリップを選択して、まとめてカタログを作成することも可能です。
2. 画面左下の以下のボタンをクリックして、[ツール] タブを選択する。
 ... : [その他のオプション] ボタン
3. [PDF カatalogの生成] を選択する。
 [PDF カatalogの生成] ダイアログが開きます。



4. カタログに関する情報を設定する。

ファイル名 :

作成するカタログのファイル名となり、カタログ内の上部に表示されます。

説明 :

クリップの概要など、任意の情報を入力することができます。カタログのタイトルの下に表示されます。

出力先 :

カタログを保存するフォルダーを指定します。

レイアウト :

メタデータのテキストとサムネイルの見た目を選択します。

メタデータ :

カタログに含める以下のメタデータの値を選択します。

- メディア情報
- シューティング情報

- ビデオ情報
- オーディオ情報
- デバイス情報
- アクイジションメタデータ

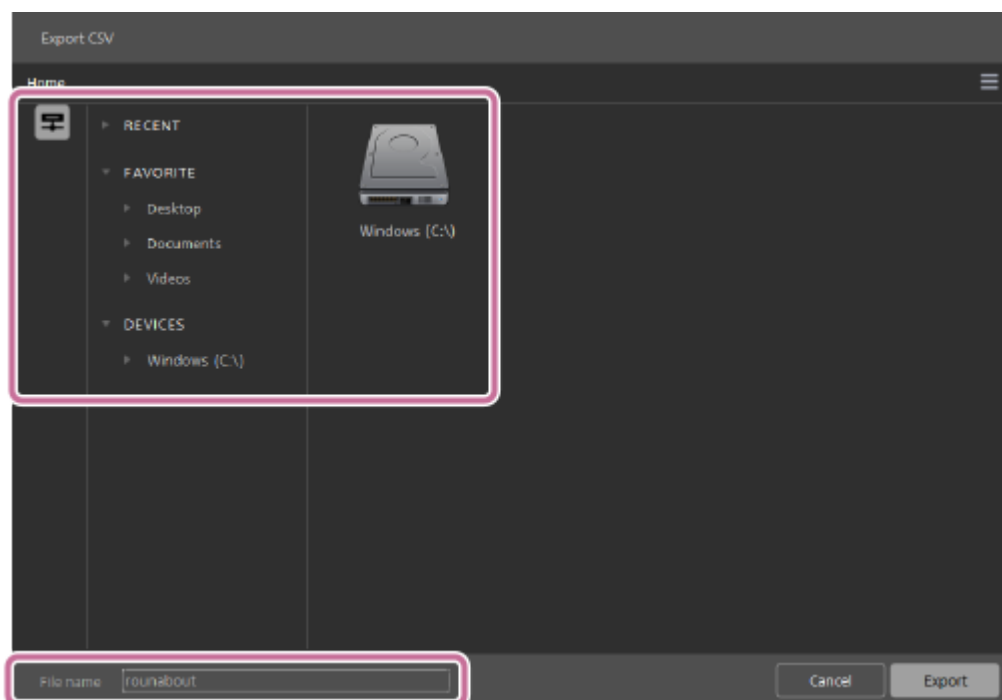
以下のボタンをクリックして表示されるメニューから、選択した値をリセットすることができます。

⋮：[メタデータの設定] ボタン

5. [エクスポート] ボタンをクリックする。
指定したフォルダーにカタログが作成されます。

CSVカタログの作成

1. カタログにエクスポートしたいクリップを選択する。
 - 複数のクリップを選択して、まとめてカタログを作成することも可能です。
2. 画面左下の以下のボタンをクリックして、[ツール] タブを選択する。
⋮：[その他のオプション] ボタン
3. [CSV カatalogの生成] を選択する。
[CSV のエクスポート] ダイアログが開きます。



4. カタログを保存するフォルダーを指定して、ファイル名を入力する。
5. [エクスポート] ボタンをクリックする。
指定したフォルダーにカタログが作成されます。

関連項目

- [画面の説明](#)

TP1002380846

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クリップのコピー

クリップを選択して、別のフォルダーにコピーすることができます。
この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

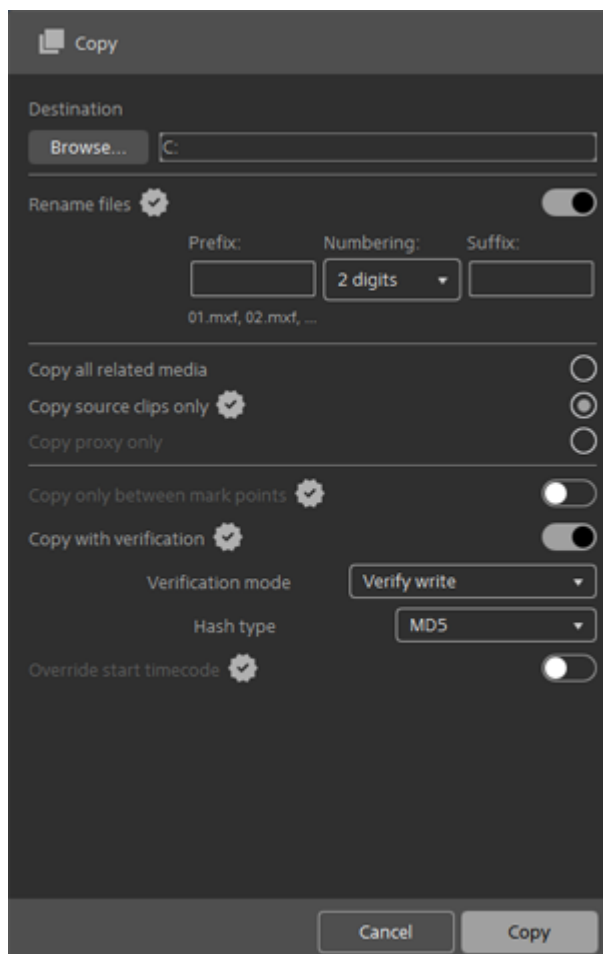
1 コピーしたいクリップを選択する。

- 複数のクリップを選択して、まとめてコピーすることも可能です。

2 画面右下の以下のボタンをクリックする。

 Copy : [コピー] ボタン

[コピー] ダイアログが開きます。



3 コピーに関する各種設定を行う。

- 設定について詳しくは、「[コピーの設定項目](#)」をご覧ください。
- [ファイル名の変更] スイッチをオンにして、コピー後のクリップ名を変更することができます。クリップ名の前後に任意の文字列を追加したり、クリップ名を連番に変更したりすることができます。

4 コピー先のフォルダーを指定して、[コピー] ボタンをクリックする。

指定したフォルダーに、クリップがコピーされます。

- コピー先のフォルダー内で右クリックして表示されるメニューから、新規フォルダーを作成することもできます。

コピーの設定項目

関連するすべてのメディアをコピー：

選択したクリップに関連するすべてのメディアデータ*をコピーする場合に選択します。

* メタデータ、プロキシークリップ、およびその他のファイル

ソースクリップのみをコピー：

高解像度のクリップをそのままコピーする場合に選択します。

プロキシのみをコピー：

選択したクリップのプロキシークリップのみをコピーする場合に選択します。

マーク ポイント間のみをコピー：

選択したクリップの、マークインポイント/マークアウトポイント間の映像のみをコピーする場合にスイッチをオンにします。

コピー時にベリファイ有効：

コピー時にクリップの整合性を検証する場合にスイッチをオンにします。

確認モード：

検証の対象を、以下のいずれかから選択することができます。

Verify write：書き込み操作のみを検証する。

Verify read/write：書き込み操作と読み込み操作の両方を検証する。

ハッシュ タイプ：

検証に使用するハッシュタイプは、以下から選択することができます。

MD5 / SHA1 / CRC32 / xxHash64

スタートタイムコード変更：

開始タイムコードを指定することができます。このスイッチはMXF形式のクリップをコピーする場合に有効になります。

ヒント

- クリップのコピーは以下の手順でも可能です。
 1. クリップを右クリックして表示されるメニューから、[コピー] を選択する。
 2. コピー先のフォルダ内で右クリックして表示されるメニューから、[ペースト] を選択する。
 3. コピーに関する設定を行い、[ペースト] ボタンをクリックする。
- クリップをドラッグして、他のフォルダにコピーすることもできます。その場合は、トランスコードや色調整の設定などは反映されず、元のままのクリップがコピーされます。

ご注意

- 一部のクリップ形式では、[マーク ポイント間のみをコピー] が正しく実行されないことがあります。

関連項目

- [データのバックアップ](#)

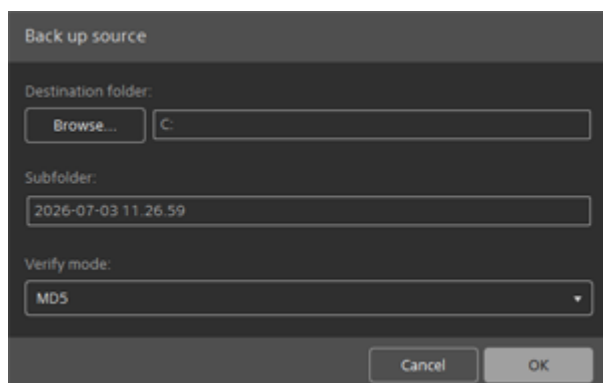
Catalyst Prepare ver.3.0以降

データのバックアップ

チェックサム検証により、コピー前後で整合性のあるデータのバックアップを行うことができます。

- 1 モードセクターを「ブラウズ」にする。
- 2 画面左上の以下のボタンをクリックしてフォルダツリーを表示する。
 : 「左パネルの切り替え」ボタン
- 3 バックアップしたいフォルダーを選択する。
- 4 画面左下の以下のボタンをクリックして、「ツール」タブを選択する。
 : 「その他のオプション」ボタン

- 5 「ソースをバックアップ」を選択する。
「ソースをバックアップ」ダイアログが開きます。



- 6 以下の情報を設定する。
出力先フォルダー :
データのバックアップ先のパスを指定します。
サブフォルダー :
データのバックアップを格納するフォルダー名を指定します。
ベリファイモード :
検証に使用するハッシュタイプを選択します。
MD5/SHA1/CRC32/xxHash64
検証を省略したい場合は以下を選択します。
NONE

- 7 「OK」ボタンをクリックする。
データのバックアップが始まります。

関連項目

- [画面の説明](#)

TP1002380847

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クラウドアップロード

パソコン上のクリップをCi Media Cloudのクラウドストレージへアップロードすることができます。
この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

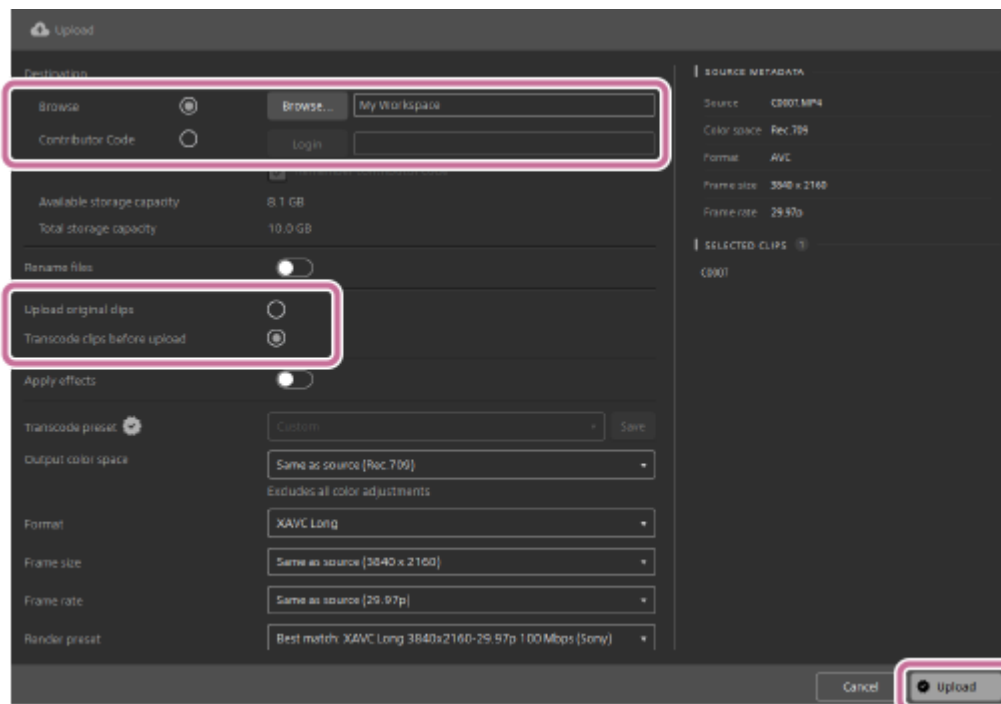
1 アップロードしたいクリップを選択する。

- 複数のクリップを選択して、一度にアップロードを行うことも可能です。

2 画面右下の以下のボタンをクリックする。

 Upload : [アップロード] ボタン

[アップロード] ダイアログが開きます。



- クリップを右クリックして表示されるメニューから、[アップロード] を選択してダイアログを開くことも可能です。

3 [参照...] をクリックして、アップロード先のクラウドストレージ内のフォルダーを選択する。

- Ci Media Cloudへのログイン方法は2通りあります。
 - 登録済みのユーザー名あるいは電子メールアドレスとパスワードを入力する。
 - [コントリビュータ コード] を選択して、コードを入力する。

ソニーアカウントをお持ちの場合は、ソニーアカウントを使用してログインすることも可能です。

- [ファイル名の変更] スイッチをオンにして、アップロード後のクリップ名を変更することができます。クリップ名の前後に任意の文字列を追加したり、クリップ名を連番に変更したりすることができます。

4 以下のいずれかの項目を選択して、アップロードするクリップをトランスコードするかどうかを設定する。

[元のクリップをアップロード] / [アップロードの前にクリップをトランスコードする]

- [アップロードの前にクリップをトランスコードする] を選択すると、トランスコードに関する設定項目が表示されます。トランスコードについては詳しくは、「[クリップのトランスコード](#)」をご覧ください。

5 [アップロード] ボタンをクリックする。

選択したクリップが指定したクラウドストレージにアップロードされます。

関連項目

- [クリップのトランスコード](#)
- [クラウドダウンロード](#)

TP1002380843

Catalyst Prepare ver.3.0以降

クラウドダウンロード

Ci Media Cloudのクラウドストレージ上にあるクリップをパソコンへダウンロードすることができます。
この操作は以下のいずれの画面から行うことができます。

- [ブラウザ] 画面
- [編集/詳細] 画面

1 画面左上の以下のボタンから、Ci Media Cloudを選択する。

 : [Ci Media Cloud] ボタン

- Ci Media Cloudへのログイン方法は2通りあります。
 - 登録済みのユーザー名あるいは電子メールアドレスとパスワードを入力する。
 - [コントリビュータ コード] を選択して、コードを入力する。

ソニーアカウントをお持ちの場合は、ソニーアカウントを使用してログインすることも可能です。

- ログインすると、クラウドストレージに保存されているクリップやフォルダーが表示されます。
- 本ソフトウェアでは、クラウドストレージ上のクリップのサムネイルを表示したり、クリップに含まれるメタデータの一部を確認したりすることができます。

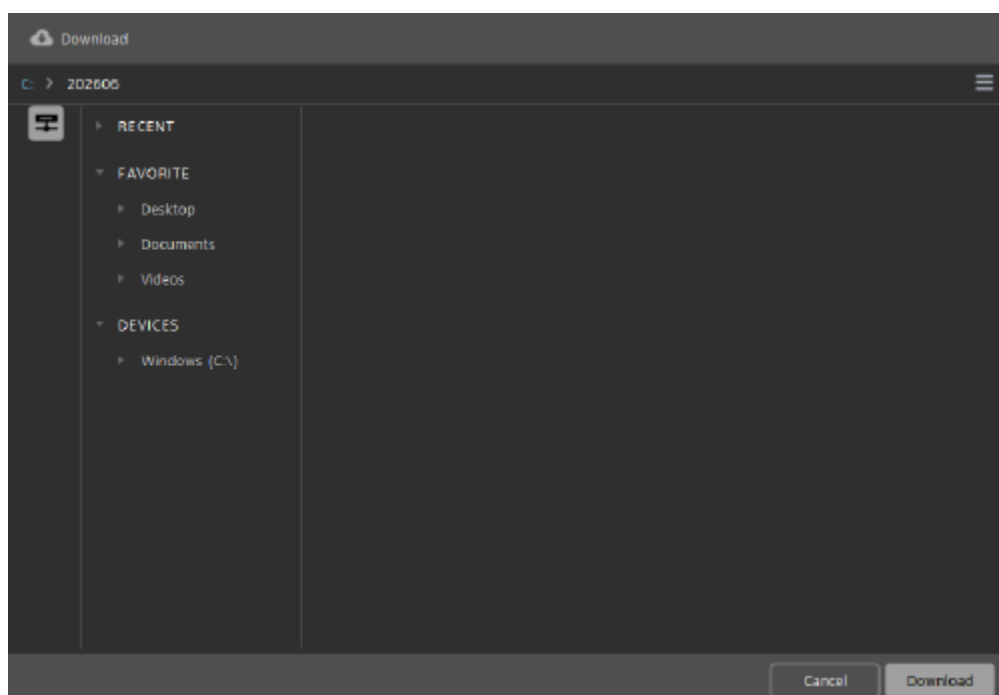
2 ダウンロードしたいクリップを選択する。

- 複数のクリップを選択して、一度にダウンロードを行うことも可能です。

3 画面右下の以下のボタンをクリックする。

 Download : [ダウンロード] ボタン

[ダウンロード] ダイアログが開きます。



- クリップを右クリックして表示されるメニューから、[ダウンロード] を選択してダイアログを開くことも可能です。

4 フォルダーツリーから、ダウンロード先のローカルフォルダーを指定する。

5 [ダウンロード] ボタンをクリックする。

選択したクリップが、指定したローカルフォルダーにダウンロードされます。

ご注意

- 本ソフトウェアでは、クラウドストレージ上のクリップのプレビューや一部のメタデータは表示されません。

関連項目

- [クラウドアップロード](#)

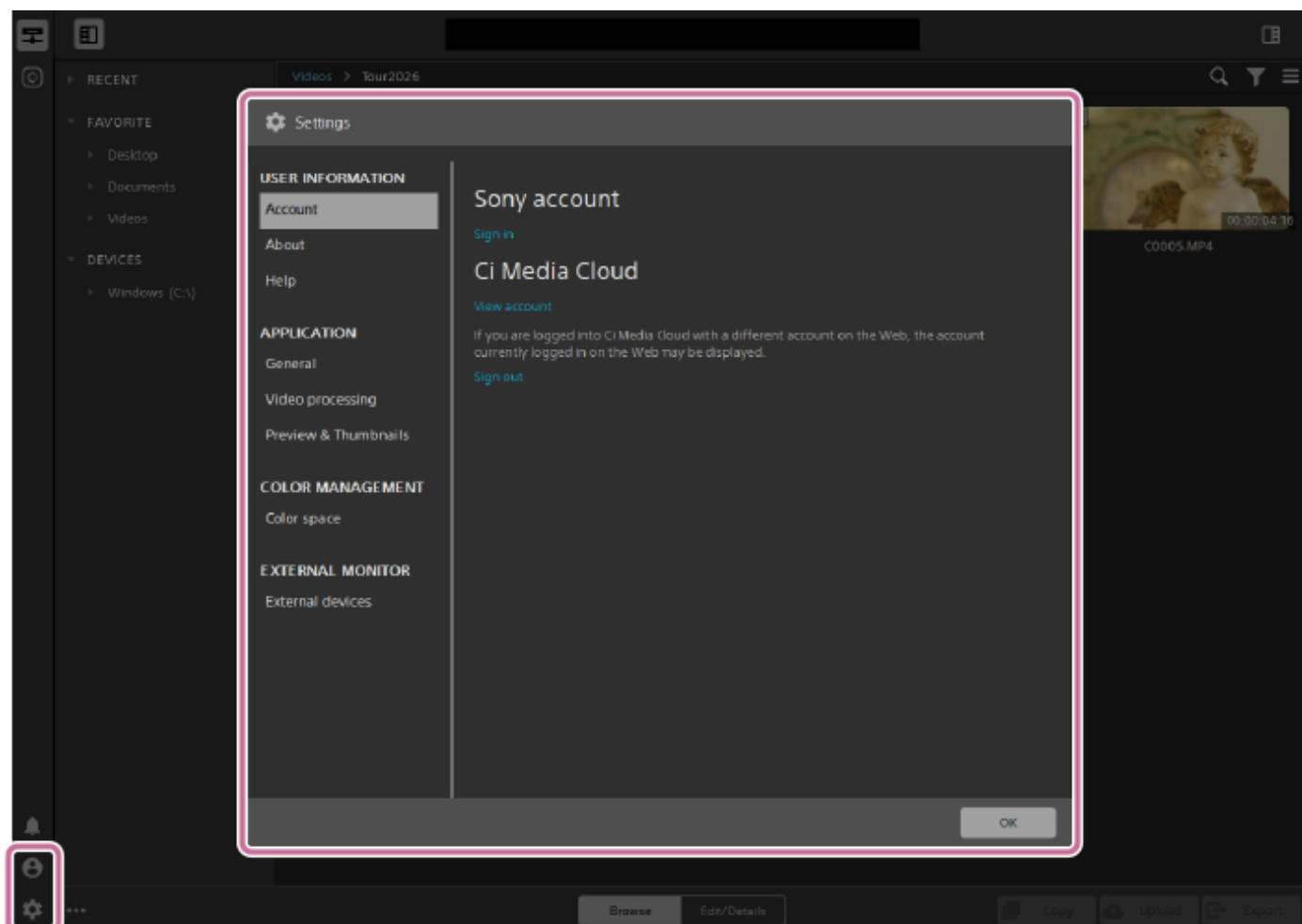
TP1002380844

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

Catalyst Prepare ver.3.0以降

アカウントと設定

ユーザー情報を確認できます。また、本ソフトウェア全体、カラーマネジメント、外部モニターに関する設定の確認と変更ができます。



1 以下のボタンをクリックする。

 : [アカウント] ボタン

 : [設定] ボタン

- [設定] 画面が開きます。
- [アカウント] ボタンをクリックするとアカウント情報が表示されます。
- [設定] ボタンをクリックするとアプリケーションの設定情報が表示されます。
- 左側のメニューをクリックして画面を切り替えます。
 - － ユーザー情報
 - － アプリケーション
 - － カラー マネジメント
 - － 外部モニタ

メニュー画面ごとに設定・表示できる項目の詳細は以下をご覧ください。

ユーザー情報の設定/表示項目

アカウント：

下記をクリックするとソニーアカウントとCi Media Cloudそれぞれのサインイン画面が表示されます。

〔サインイン〕

すでにサインインしているときは、アカウント名と登録したメールアドレスが表示されます。

- 〔アカウントを確認〕をクリックすると、Creators' CloudまたはCi Media Cloudの設定Webページにアクセスできます。
- 〔サインアウト〕をクリックすると、Creators' CloudまたはCi Media Cloudからサインアウトできます。

バージョン情報

本ソフトウェアのご利用に関する情報を確認できます。（バージョン情報/ライセンス情報/更新プログラム情報/最新情報など）

ヘルプ：

本ソフトウェアのサポート情報へのリンクを表示できます。（ヘルプ/サポート/ご意見ご感想）

アプリケーションの設定項目

一般：

本ソフトウェア全体にかかわる設定を確認または変更できます。

- デフォルトのトランスコード形式
- クリップのメタデータのGPSリンクからマップを表示するときのプログラム
- スナップショットの保存先
 - － 変更する場合は（スナップショットの保存先）ボタンをクリックしてフォルダーを選ぶか、パスを直接入力して指定します。
- スナップショット画像形式
 - － JPG/PNG/BMPから選択できます。

映像処理：

GPUで高速化された映像再生およびトランスコーディングについて設定します。

〔ビデオ処理デバイス〕：最適なGPUデバイスが自動的に選択されます。

- この値の変更は上級ユーザー向けで、技術的な問題のトラブルシューティングに役立つ場合があります。
- GPUアクセラレーションを無効にする場合は、〔CPU〕を選択します。
- 以下に設定されている場合、再生の一時停止時、トランスコード時、および再生中に、高品質のインタレース除去がインタレースソースメディアに適用されます。
〔再生設定〕 > 〔速度/品質〕 > 〔品質〕
- HDまたはUHDレンダリングプリセットを選択すると、トランスコード時に高品質のアップスケーリングが適用されます。

〔OpenCL/OpenGL の相互運用性（再起動が必要）〕：OpenCLとOpenGL相互運用のオン/オフを切り替えます。（パフォーマンス/互換性）

- 設定の変更にはパソコンの再起動が必要です。
- 相互運用を有効化するには、〔パフォーマンス〕を選択します。再生パフォーマンスが最適化されるため、通常は〔パフォーマンス〕をお勧めします。
- レンダリングされるフレームに劣化か乱れがみられる場合は、〔互換性〕を選択して相互運用をオフにします。

プレビューとサムネイル：

表示に関する設定について有効／無効の切り替えなどを行います。

〔セカンダリプレビューウィンドウ〕：画面上またはセカンダリモニタ上の任意の場所に配置できるセカンダリウィンドウにビデオプレビューを表示する設定

〔プロキシクリップを使用してプレビュー〕：プロキシクリップを使用して再生する設定

- プロキシクリップは使用できない場合もあります。

【50p/60p ハーフステップ TC 表示】：50p/60pクリップ再生時にハーフステップモードでタイムコードを表示させる設定

【サムネイルの表示】：[ブラウズ] 画面でサムネイル画像を表示する設定

- スイッチをオフにすると、一部の低速ストレージデバイスのパフォーマンスが向上する可能性があります。

【サムネイルのフレーム数】：サムネイルで画面遷移を示すフレーム数の設定（3～30）

【サムネイルを自動的に回転する】：[ブラウズ] 画面で、カメラ回転メタデータに基づいてサムネイルフレームを自動的に回転する設定

【サムネイルのキャッシュをクリア】：サムネイル表示のキャッシュデータを削除する場合に、[クリア] ボタンをクリックします。

カラーマネジメントの設定項目

色空間：

作業色空間、ビデオプレビューの色空間、外部モニターの色空間を設定します。

【作業色空間】：カラーグレーディングに使用する色空間を選択します。

【プレビューの色空間】：本ソフトウェアのプレビュー画面の色空間を選択します。

- 通常はパソコン用モニターの [Rec.709] を選択します。
- スコープを使用してビデオをチェックする場合などに、他の色空間も選択できます。

【外部モニタの色空間】：外部モニターのEOTF*設定に一致する色空間を選択するときに使用します。

* Electro-Optical Transfer Function

外部モニターの設定項目

外部デバイス：

Blackmagic Designデバイス経由の外部モニターでビデオのプレビューを表示する場合に、各設定を選択します。（外部モニタ デバイス/モニタ解像度）

- 外部モニターの接続が検出されると、設定項目が表示されます。

外部モニターの設定例について詳しくは、以下のページをご覧ください。

[モニター設定例](#)

関連項目

- [プレビュー画面の操作](#)
- [色調整](#)

TP1002380848

Catalyst Prepare ver.3.0以降

モニター設定例

Sony BVM-X300 バージョン2.0 を使用する場合は、次のモニター設定を使用してください。

Catalyst Prepareの外部モニターの色空間	色空間	EOTF	Transfer Matrix
Rec.709	ITU-R BT.709	2.4 など	ITU-R BT.709
Rec.2020	ITU-R BT.2020	2.4 など	ITU-R BT.2020
Rec.2020/S-Log-3	ITU-R BT.2020	S-Log3(Live HDR) または S-Log3(HDR)	ITU-R BT.2020
Rec.2020/HLG、Rec.2020/HLG AIR Matching(Live)、Rec.2020/HLG AIR Matching(Mild) またはRec.2020/HLG (バイパス OOTF)	ITU-R BT.2020	HLG SG Variable(HDR)、HLG System Gamma 1.2	ITU-R BT.2020
Rec.2020/PQ、Rec.2020/PQ AIR Matching(Live)、Rec.2020/PQ AIR Matching(Mild)またはRec.2020/PQ (バイパス OOTF)	ITU-R BT.2020	SMPTE ST 2084(HDR)	ITU-R BT.2020

作業色空間を以下に設定すると、バイパスOOTF設定を使用して、外部モニターのプレビューとレンダリングされたクリップの見た目を合わせることができます。

Rec.2020/S-Log3 (HDR)

S-Log3 (HDR) EOTFを使用する場合にモニターでバイパスOOTFを使用する (設定例)

Sony BVM-X300バージョン2.0モニター設定：

- 色空間: ITU-R BT.2020
- EOTF: S-Log3 (HDR)
- Transfer Matrix: ITU-R BT.2020
- 画面左下の以下の設定から、[Rec.2020/S-Log3] を選択する。
 (設定) > [色空間] > [外部モニタの色空間]

これらの設定を使用してマスタリングされたコンテンツと、バイパスOOTFによってHLGまたはPQにレンダリングされたコンテンツは、HLGまたはPQモニターまたはテレビ上で同じ外観になります。

TP1002532608

Catalyst Prepare ver.3.0以降

サポートしているビデオ形式

本ソフトウェアは、記録メディアからの読み込み、および個別のクリップとしての読み込みについて以下のビデオ形式をサポートしています。

XDCAM (SD形式)

形式	フレームサイズ	フレームレート	フィールドオーダー	ビデオコーデック	ビットレート	オーディオチャンネル
DV	720x480	59.94i	ローフィールド	DV	25 CBR	4x16ビット
DV	720x576	50i	ローフィールド	DV	25 CBR	4x16ビット
MPEG IMX	720x512	59.94i	アップフィールド	MPEG-2 Intra	30、40、50 CBR	4x24ビット / 8x16ビット
MPEG IMX	720x608	50i	アップフィールド	MPEG-2 Intra	30、40、50 CBR	4x24ビット / 8x16ビット
非圧縮	720x486	59.94i	アップフィールド	非圧縮	90 CBR	4x24ビット / 8x16ビット
非圧縮	720x576	50i	アップフィールド	非圧縮	90 CBR	4x24ビット / 8x16ビット

XDCAM (HD形式)

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	ビットレート
MPEG HD	1280x720	1.0	50p、59.94p	MPEG-2 Long GOP	25 CBR
MPEG HD	1280x720	1.0	50p、59.94p	MPEG-2 Long GOP	35 VBR
MPEG HD	1280x720	1.0	50p、59.94p	MPEG-2 Long GOP	50 CBR
MPEG HD	1440x1080	1.333	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i	MPEG-2 Long GOP	17.5 CBR
MPEG HD	1440x1080	1.333	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i	MPEG-2 Long GOP	25 CBR
MPEG HD	1440x1080	1.333	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i	MPEG-2 Long GOP	35 CBR
MPEG HD	1440x540	0.667	23.976p、25p、29.97p、オーバークランク	MPEG-2 Long GOP	8.75 CBR

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	ビットレート
MPEG HD	1440x540	0.667	23.976p、25p、29.97p、オーバークランク	MPEG-2 Long GOP	12.5 CBR
MPEG HD	1440x540	0.667	23.976p、25p、29.97p、オーバークランク	MPEG-2 Long GOP	17.5 CBR
MPEG HD422	1920x1080	1.0	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i	MPEG-2 Long GOP	35 CBR、50 CBR
MPEG HD422	1920x540	0.5	23.976p、25p、29.97p、オーバークランク	MPEG-2 Long GOP	25 CBR

XDCAM EX

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	フィールドオーダー	ビデオコーデック	オーディオコーデック	ビットレート
DV	720x480	0.9091	59.94p	ローフィールド	DV	PCM、48 kHz、16ビット	25 CBR
DV	720x576	1.0926	50i	ローフィールド	DV	PCM、48 kHz、16ビット	25 CBR
MPEG HD (EX-HQ)	1280x720	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p		MPEG-2 Long GOP	PCM、48 kHz、16ビット	35 VBR
MPEG HD (EX-SP)	1440x1080	1.333	50i、59.94i		MPEG-2 Long GOP	PCM、48 kHz、16ビット	25 CBR
MPEG HD (EX-HQ)	1440x1080	1.333	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i		MPEG-2 Long GOP	PCM、48 kHz、16ビット	35 VBR
MPEG HD422 (EX-HQ)	1920x1080	1.0	23.976p、25p、29.97p、50i、59.94i		MPEG-2 Long GOP	PCM、48 kHz、16ビット	35 VBR

XAVC Intra

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオチャンネル (PCM、48 kHz、24ビット)	ビットレート
XAVC Intra	1440x1080	1.333	50i、59.94i、23.976p、25p、29.97p	MPEG-4 AVC Intra	8	CBG 50
XAVC Intra	1920x1080	1.0	50i、59.94i、23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8、16	CBG 100

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオチャンネル (PCM、48 kHz、24ビット)	ビットレート
XAVC Intra	1920x1080	1.0	50i、59.94i、 23.976p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8	CBG 200
XAVC Intra HFR	1920x1080	1.0	50p、50i、59.94p、 59.94i	MPEG-4 AVC Intra	0	CBG 100
XAVC Intra	2048x1080	1.0	23.976p、24p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8	VBR
XAVC Intra	2048x1080	1.0	23.976p、24p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8、16	CBG 100
XAVC Intra	3840x2160	1.0	23.976p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8	VBR
XAVC Intra	3840x2160	1.0	23.976p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8、16	CBG 300
XAVC Intra	4096x2160	1.0	23.976p、24p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8	VBR
XAVC Intra	4096x2160	1.0	23.976p、24p、25p、 29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Intra	8、16	CBG 300

XAVC Long-GOP

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Long	1280x720	1.0	50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイ422プロファイル	4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	80（最大）
XAVC Long	1920x1080	1.0	23.976p、25p、 29.97p、50p、 50i、59.94p、 59.94i	MPEG-4 AVC Long、ハイ422プロファイル	4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	80（最大）
XAVC Long	3840x2160	1.0	23.976p、25p、 29.97p、50p、 59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200（最大）
XAVC Long Proxy	480x270	1.0	23.976p、25p、 29.97p、50p、 59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps / MPEG-4 AAC、6(5.1) チャンネル、48 kHz、640 kbps	1 または 0.5 Mbps

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Long Proxy	640x360	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps / MPEG-4 AAC、6(5.1) チャンネル、48 kHz、640 kbps	3 Mbps
XAVC Long Proxy	1280x720	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps / MPEG-4 AAC、6(5.1) チャンネル、48 kHz、640 kbps	9 Mbps

XAVC S

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Long Proxy	480x270	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	4
XAVC Long Proxy	640x360	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	10
XAVC Long	1280x720	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	40
XAVC Long Proxy	1280x720	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	16
XAVC Long	1280x720	1.0	100p、119.88p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	80
XAVC Long	1440x1080	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	80
XAVC Long	1920x1080	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	80
XAVC Long	1920x1080	1.0	100p、119.88p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	150

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Long Proxy	1920x1080	1.0	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、ハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	25
XAVC Long	1920x1080	1.0	25p、30p	AVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	16、50
XAVC Long	1920x1080	1.0	50p、60p	AVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	25、50
XAVC Long	1920x1080	1.0	24p	AVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	50
XAVC Long	1920x1080	1.0	100p、120p	AVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	60、100
XAVC Long	1920x1080	1.0	24p、25p、30p、50p、60p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	50
XAVC Intra	1920x1080	1.0	24p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	89
XAVC Intra	1920x1080	1.0	25p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	93
XAVC Intra	1920x1080	1.0	30p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	111
XAVC Intra	1920x1080	1.0	50p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	185
XAVC Intra	1920x1080	1.0	60p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	222
XAVC Long	3840x2160	1.0	23.976p、25p、29.97p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	188

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Long	3840x2160	1.0	50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200
XAVC Long	3840x2160	1.0	100p、119.88p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200
XAVC Long	3840x2160	1.0	24p、25p、30p	XAVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	60、100
XAVC Long	3840x2160	1.0	50p、60p	XAVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	150
XAVC Long	3840x2160	1.0	100p、120p	XAVC S Long 4:2:0、8ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200
XAVC Long	3840x2160	1.0	24p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	100
XAVC Long	3840x2160	1.0	25p、30p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	140
XAVC Long	3840x2160	1.0	50p、60p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200
XAVC Long	3840x2160	1.0	100p、120p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	280
XAVC Long	3840x2160	1.0	24p	XAVC S Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	100
XAVC Intra	3840x2160	1.0	24p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	240

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオ	ビットレート
XAVC Intra	3840x2160	1.0	25p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	250
XAVC Intra	3840x2160	1.0	30p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	300
XAVC Intra	3840x2160	1.0	50p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	500
XAVC Intra	3840x2160	1.0	60p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	600
XAVC Intra	4096x2160	1.0	24p	XAVC S Intra 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット	230

XAVC HS

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	音楽ファイル	ビットレート
HEVC プロキシ	1920x1080	1.0	23.976p、30p、50p、59.94p、100p、119.98p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは24ビット	16
HEVC	3840x2160	1.0	23.976p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24ビット	30
HEVC	3840x2160	1.0	50p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24ビット	45
HEVC	3840x2160	1.0	59.94p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24ビット	78
HEVC	3840x2160	1.0	100p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24ビット	200
HEVC	3840x2160	1.0	119.88p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24ビット	200

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	音楽ファイル	ビットレート
HEVC	3840x2160	1.0	23.976p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	60
HEVC	3840x2160	1.0	50p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	200
HEVC	3840x2160	1.0	59.94p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	100
HEVC	3840x2160	1.0	100p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	280
HEVC	3840x2160	1.0	119.88p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	280
HEVC	3840x2160	1.0	24p	XAVC HS Long 4:2:0、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	30、50、100
HEVC	3840x2160	1.0	50p、60p	XAVC HS Long 4:2:0、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	45、75、150
HEVC	3840x2160	1.0	100p、120p	XAVC HS Long 4:2:0、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	200
HEVC	3840x2160	1.0	24p	XAVC HS Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	50、100
HEVC	3840x2160	1.0	50p、60p	XAVC HS Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	100、200
HEVC	3840x2160	1.0	100p、120p	XAVC HS Long 4:2:2、10ビット、MP4	2チャンネル PCM、48 kHz、16ビット / 2/4チャンネル PCM、48 kHz、24ビット	280
HEVC	7680x4320	1.0	23.976p、25p、29.97p	HEVC Long、10ビット、4:2:0	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	204

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	音楽ファイル	ビットレート
HEVC	7680x4320	1.0	23.976p、25p、29.97p	HEVC Long、10ビット、4:2:2	2/4チャンネル PCM、48 kHz、16ビットまたは 24 ビット	260、520

XAVC H

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	品質
HEVC Long	7680x4320	10	23.976p、25p、29.97p	SQ
HEVC Intra	7680x4320	10	23.976p、25p、29.97p	SQ, HQ
HEVC Intra	8192x4320	10	23.976p、24p、25p、29.97p	SQ, HQ

XAVCプロキシ

形式	フレームサイズ	フレームレート	ビデオコーデック	音楽ファイル	ビットレート
XAVC プロキシ	480x270	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	4
XAVC プロキシ	640x360	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	10
XAVC プロキシ	720x480	59.94i	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	10
XAVC プロキシ	720x576	50i	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	10
XAVC プロキシ	1280x720	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	28
XAVC プロキシ	1920x1080	50i、59.94i、23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	MPEG-4 AVC Long、メインプロファイルまたはハイプロファイル	MPEG-4 AAC、2チャンネル、48 kHz、256 kbps	28

X-OCN

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	品質
X-OCN	1920x1080	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	品質
X-OCN	2048x1080	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR (最大240p)	LT、ST、XT
X-OCN	3840x2160	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR (最大120p)	LT、ST、XT、C1 [*] 、 C2 [*]
X-OCN	4096x1716	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	4096x2160	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR (最大120p)	LT、ST、XT
X-OCN	4096x3024	16	23.976p、24p、25p、29.97p、	LT、ST、XT
X-OCN	4096x3432	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	4256x3192	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT
X-OCN	4992x2632	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、C1、C2
X-OCN	4992x2808	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、C1、C2
X-OCN	4992x3328	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、C1、C2
X-OCN	6048x2534	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	6054x3192	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	5434x3056	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	5480x2296	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	5674x3192	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	5760x3036	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT
X-OCN	5760x3240	16	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT
X-OCN	5792x3056	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	5792x4276	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	品質
X-OCN	5792x4854	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	5828x4856	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT
X-OCN	6052x3192	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT
X-OCN	6052x3404	16	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT
X-OCN	6054x3272	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	6048x4032	16	23.976p、24p、25p	LT、ST、XT
X-OCN	7680x4320	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	8100x4556	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	8192x3432	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	8192x4320	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	LT、ST、XT
X-OCN	8632x4552	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT
X-OCN	8632x4856	16	23.976p、25p、29.97p	LT
X-OCN	8640x4556	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT
X-OCN	8640x5760	16	23.976p、24p、25p、29.97p	LT、ST、XT

* フレームレートがHFRの場合を除く。

RAW

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	圧縮
F5/F55RAW	2048x1080	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大240p）	SQ
F5/F55RAW	3840x2160	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大120p）	SQ
F5/F55RAW	4096x2160	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大120p）	SQ

形式	フレームサイズ	ビット	フレームレート	圧縮
F65RAW	4096x2160	16	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大120p）	Lite、SQ
FS700RAW	2048x1080	16	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大240p）	SQ
FS700RAW	4096x2160	16	23.976p、25p、29.97p、50p、59.94p、HFR（最大120p）	SQ

HDCAM SR (SStP)

MacOSではサポートしていません。

形式	フレームサイズ	ビット	色空間	ピクセルアスペクト比	フレームレート	圧縮 (Mbps)
SSTP	1280x720	10	YUV 422	1.0	50p、59.94p	Lite(220)、SQ(440)
SSTP	1920x1080	10	YUV 422	1.0	50i、59.94i、23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	Lite(220)、SQ(440)
SSTP	1920x1080	10	RGB 444	1.0	50i、59.94i、23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	SQ(440)、HQ(880)
SSTP	1920x1080	12	RGB 444	1.0	50i、59.94i、23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	HQ(880)
SSTP	2048x1080	10	YUV 422	1.0	50p、59.94p	Lite(220)、SQ(440)
SSTP	2048x1080	10	RGB 444	1.0	50i、59.94i、23.976p、24p、25p、29.97p	SQ(440)
SSTP	2048x1080	10	RGB 444	1.0	23.976p、24p、25p、29.97p	HQ(880)
SSTP	2048x1080	12	RGB 444	1.0	50i、59.94i、23.976p、24p、25p、29.97p	SQ(440)
SSTP	2048x1080	12	RGB 444	1.0	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	HQ(880)
SSTP	2048x1080	12	RGB 444	1.0	23.976p、24p、25p、29.97p	SQ(440)
SSTP	2048x1080	12	RGB 444	1.0	23.976p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	HQ(880)
SSTP	2048x1556	10	RGB 444	1.0	23.976p、24p、25p	HQ(880)

NXCAM

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオコーデック	ビットレート
AVCHD	1920x1080	1.0	59.94p、50p	H.264/MPEG-4 AVC	Dolby AC-3またはPCM 2チャンネル、48 kHz、16ビット	28 Mbps
AVCHD	1920x1080	1.0	59.94i、50i、29.97p、25p、23.976p	H.264/MPEG-4 AVC	Dolby AC-3またはPCM 2チャンネル、48 kHz、16ビット	24または17 Mbps
AVCHD	1280x720	1.0	59.94p、50p	H.264/MPEG-4 AVC	Dolby AC-3またはPCM 2チャンネル、48 kHz、16ビット	24または17 Mbps
AVCHD	1440x1080	1.333	59.94i、50i	H.264/MPEG-4 AVC	Dolby AC-3またはPCM 2チャンネル、48 kHz、16ビット	9または5 Mbps
MPEG-2 SD*	720x480	0.9091または1.2121	23.976p、29.97p、59.94i	MPEG-2	Dolby AC-3 2チャンネル、48 kHz、16ビット	9 Mbps
MPEG-2 SD*	720x576	1.0926または1.4568	25p、50i	MPEG-2	Dolby AC-3 2チャンネル、48 kHz、16ビット	9 Mbps

* MPEG-2 SDはApple Silicon搭載のMacではサポートしていません。

AVC H.264/MPEG-4

形式	フレームサイズ	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオコーデック
H.264/MPEG-4 AVC	1280x720	50p、100p、120p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1920x1080	24p、25p、30p、48p、50p、60p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1920x1440	24p、25p、30p、48p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	3840x2160	23.97p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	4096x2160	12p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	2704x1524	25p、30p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	2704x1440	24p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1280x960	48p、100p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	848x480	240p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)

形式	フレームサイズ	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオコーデック
H.264/MPEG-4 AVC	640x480	25p、30p	AVC、8ビット、4:2:0	モノラル、48kHz、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	240x180	25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	320x180	25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	320x240	25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	480x270	25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	640x480	25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1280x720	50p、60p、100p、120p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1280x960	48p、100p、120p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1920x1080	24p、25p、29.97p、48p、50p、60p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	1920x1440	24p、25p、29.97p、48p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	2704x1524	24p、25p、29.97p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	3840x2160	23.97p、24p、25p、29.97p、50p、59.94p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC	4096x2160	12p	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC (HVO)	720x480	59.94i	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)
H.264/MPEG-4 AVC (HVO)	720x576	50i	AVC、8ビット、4:2:0	2チャンネル、16ビット、AAC圧縮 (AGC)

AS-11 DPP MXF

形式	フレームサイズ	フレームレート	ビデオコーデック	オーディオコーデック
IMX-50	720x576	25	MPEG-2 Intra	PCM、48 kHz、24ビット
XAVC Intra	1920x1080	25	MPEG-4 AVC Intra	PCM、48 kHz、24ビット

Apple ProRes

コンテナ : MOV

オーディオコーデック : PCM

形式	フレームサイズ	フレームレート	ビデオコーデック
ProRes	720x486	59.94i、30p、29.97p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	720x576	50i、25p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	960x720	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	1280x720	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	1280x1080	59.94i、30p、29.97p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	1440x1080	59.94i、50i、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	1920x1080	60p、59.94p、50p、59.94i、50i、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	2048x1080	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	2048x1556	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	3840x2160	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	4096x2160	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)
ProRes	5120x2160	60p、59.94p、50p、30p、29.97p、25p、24p、23.976p	422 (proxy)、422 (LT)、422、422 (HQ)、4444、4444 XQ (Windows のみ)

HDV

コンテナ : MPEG-2 Transport Stream (Windows)、MOV (macOS)

オーディオコーデック : MPEG-1 Audio Layer-2 (Windows)。2チャンネル、48 kHz、16ビット

形式	フレームサイズ	ピクセルアスペクト比	フレームレート	インタレース	ビデオコーデック
HDV	1440x1080	1.333	50i、59.94i	アッパーフィールド	MPEG-2 MP@H14

DV

コンテナ : AVI (Windows)、MOV (macOS)

オーディオコーデック : PCM、2チャンネル、32 kHz、16ビット

形式	フレームサイズ	フレームレート	フィールドオーダー	ビデオコーデック	ビットレート	オーディオチャンネル
DV (SD)	720x480	59.94i	ローフィールド	DV	25 CBR	2チャンネル、32 kHz、16ビット

形式	フレームサイズ	フレームレート	フィールドオーダー	ビデオコーデック	ビットレート	オーディオチャンネル
DV (SD)	720x576	50i	ローフィールド	DV	25 CBR	2チャンネル、32 kHz、16ビット

DPX

形式	フレームサイズ	フレームレート
画像シーケンス	すべて	すべて

OpenEXR

形式	フレームサイズ	フレームレート
画像シーケンス	すべて	すべて

TP1002380851

Catalyst Prepare ver.3.0以降

サポートしているビデオデバイス

本ソフトウェアは、以下の記録メディアおよび記録方式をサポートしています。

フォルダー構造	ストレージメディア	ルートフォルダー	サポートしている形式
XAVC-XD-スタイル	SxSメモリーカード (exFAT)、XQDメモリーカード	XDROOT	XDCAM HD/HD422/IMX/DVCAM、SStP、XAVC Intra、XAVC Long
XAVC-M4-スタイル	SxSメモリーカード (exFAT)、XQDメモリーカード、SDカード	M4ROOT	XAVC S、XAVC HS
XAVC-PX-スタイル	SDカード	PXROOT	XAVCプロキシ
AXS-スタイル	AXSメモリーカード	CINEROOT	F55RAW、F5RAW、FS700RAW、X-OCN
SRM-スタイル	SRメモリーカード	メディアルート	F65RAW、SStP
XD-スタイル	Professional Disc、SxSメモリーカード (UDF)	メディアルート	XDCAM HD/HD422/IMX/DVCAM、XAVC Intra
BPAV-スタイル	SxSメモリーカード (FAT32)、SDカード	BPAV	XDCAM EX (MPEG HD、DVCAM)
AVCHD構造	SDカード	AVCHD/BDMV	AVCHD

TP1002380852

Catalyst Prepare ver.3.0以降

キーボードショートカット

ショートカットキーを使用すると、クリップの操作や編集作業を効率的に行うことができます。本ソフトウェアで使用可能なショートカットキーは、画面/表示別に以下のとおりです。

共通

以下の画面を操作する場合に有効です。

- [ブラウズ] 画面
- [編集/詳細] 画面

操作内容	Windows	macOS
全画面プレビュー/全画面再生の開始	F11またはCtrl+F	⌘+F
全画面プレビュー/全画面再生の終了	Esc、F11、またはCtrl+F	Esc、⌘+F
[ブラウズ] / [編集/詳細] 画面の切り替え	Shift+1/Shift+2	Shift+1/Shift+2
左パネルの表示/非表示	Ctrl+B	⌘+B
右パネルの表示/非表示	Shift+Ctrl+B	Shift+⌘+B
右パネルに[色調整]を表示	Alt+Shift+1	Option+Shift+1
右パネルに[クリップの調整]を表示	Alt+Shift+2	Option+Shift+2
右パネルに[音源分離]を表示	Alt+Shift+3	Option+Shift+3
右パネルに[メタデータ]を表示	Alt+Shift+4	Option+Shift+4
セカンダリーウィンドウの表示/非表示	Alt+V	Option+V
本ソフトウェアのヘルプを開く	F1	Fn+F1（[F1、F2などのキーを標準のファンクションキーとして使用] 設定が選択されている場合は F1）

ブラウズ

[ブラウズ] 画面のリスト表示で操作する場合に有効です。

操作内容	Windows	macOS
ファイル/フォルダー内の移動	↑、↓、←、または→	↑、↓、←、または→

操作内容	Windows	macOS
ツリー表示でフォルダーを開く/閉じる	→（開く）/←（閉じる）	→（開く）/←（閉じる）
すべてのファイルを選択	Ctrl+A	⌘+A
すべてのファイルを選択解除	Ctrl+D	⌘+D
選択したファイルを削除	Delete	Deleteまたはfn+Delete
ファイルのロードと再生の開始/一時停止	スペースキー	スペースキー
選択されているフォルダーを開く	EnterまたはCtrl+↓	Returnまたは⌘+↓
1レベル上へ移動	Backspace	⌘+↑
リストの最初/最後に移動	Home/End	Home/End
選択を上/下に1ページ移動	Page Up/Page Down	Page Up/Page Down
名前の変更	F2	Fn+F2（〔F1、F2などのキーを標準のファンクションキーとして使用〕設定が選択されている場合はF2）
ファイルコピー（クリップボードへのコピー）	Ctrl+C	⌘+C
ファイルコピー（コピーダイアログを開く）	Shift+Ctrl+C	Shift+⌘+C
ファイルペースト（クリップボードからコピー）	Ctrl+V	⌘+V
ファイルペースト（ペーストダイアログを開く）	Shift+Ctrl+V	Shift+⌘+V

編集/詳細

〔編集/詳細〕画面で操作する場合に有効です。

操作内容	Windows	macOS
現在のフレームのスナップショットをファイルに保存	Shift+S	Shift+S
マークインおよびマークアウトポイントをリセット（クリップの最初と最後）	Shift+R	Shift+R
ビデオプレビューを切り替え（適用前/適用後/分割/2 アップ）	1/2/3/4	1/2/3/4
色調整の取り消し	Ctrl+Z	⌘+Z
色調整のやり直し	Shift+Ctrl+Z Ctrl+Y	Shift+⌘+Z

再生とプレビュー

〔編集/詳細〕画面のクリップの再生/プレビューを操作する場合に有効です。

操作内容	Windows	macOS
先頭に移動	Ctrl+Home Ctrl+ ↑	⌘+Home ⌘+ ↑ Fn+←
終端に移動	Ctrl+End Ctrl+ ↓ End	⌘+End ⌘+ ↓ Fn+→
前のフレームに移動	←	←
次のフレームに移動	→	→
再生の開始/一時停止	スペースキー	スペースキー
再生の開始/停止	Enter	Return
シャトル再生	J/K/L 1x再生は [J] キーまたは [L] キーを1回押します。 1.5x再生は [J] キーまたは [L] キーを2回押します。 2x再生は [J] キーまたは [L] キーを3回押します。 4x再生は [J] キーまたは [L] キーを4回押します。 再生を一時停止するには [K] キーを押します。 [K] キーを押しながら [J] キーまたは [L] キーを押すと、シャトルノブモードをエミュレートできます。[K] キーを押しながら [J] キーを押すとノブが左に回り、[K] キーを押しながら [L] キーを押すとノブが右に回ります。	
ループ再生の切り替え	Q Ctrl+L	Q ⌘+L
マークインポイントの設定	I	I
マークアウトポイントの設定	O	O
マークポイントの追加	E M	E M
マークインポイントに移動	Shift+I Home	Shift+I Home
マークアウトポイントに移動	Shift+O End	Shift+O End
現在のフレームのスナップショットをファイルに保存	Shift+S	Shift+S
マークイン/アウトポイントをリセット	Shift+R	Shift+R

操作内容	Windows	macOS
前のマーカーに移動 (マークイン/アウトを含む)	Ctrl+← Shift+Ctrl+M	⌘+← Shift+⌘+M
次のマーカーに移動 (マークイン/アウトを含む)	Ctrl+→ Shift+M	⌘+→ Shift+M
現在のフレームをクリップボードにコピー	Ctrl+Alt+C	Option+C
全画面再生の開始	F11 Ctrl+F	⌘+F Control+⌘+F
セカンダリーウィンドウの表示/非表示	Alt+V	Option+V
ウィンドウに合わせてズーム	Ctrl+0	⌘+0
100%にズーム	Ctrl+1	⌘+1
ズームイン	Ctrl+="+"	⌘+="+"
ズームアウト	Ctrl+="-"	⌘+="-"

TP1002380849

ジェスチャー

タッチスクリーンやトラックパッドなどを使う場合に、各画面で可能なジェスチャーは次のとおりです。

【ブラウズ】画面

ジェスチャー	結果
タップ	クリップを選択してロード
ダブルタップ	クリップをプレビュー表示
1本指ドラッグ (タッチスクリーン) 2本指ドラッグ (トラックパッド)	クリップのリストを垂直方向にスクロール
1本指フリック (タッチスクリーン) 2本指フリック (トラックパッド)	クリップのリストを慣性スクロール

【編集/詳細】画面

ジェスチャー	結果
ダブルタップ	ズームレベルを切り替え (100%/合わせる)
1本指ドラッグ (タッチスクリーン) 2本指ドラッグ (トラックパッド)	プレビュー画像をパン
1本指フリック (タッチスクリーン) 2本指フリック (トラックパッド)	プレビュー画像を慣性パン
ピンチイン/ピンチアウト	プレビュー画像をズームイン、またはズームアウト

TP1002380850

重要通知事項

免責事項

本製品を使用して画像変換を行った後は、元画像の見かけが変化します。したがって、著作権保護された素材の著作権侵害を防止するには、変換前に元画像の著作権保有者から適切な許可を得てください。ソニー株式会社は、不法行為、契約の履行、またはその他の原因に基づくか否かを問わず、本ヘルプガイド、本ソフトウェア、またはここに記載してあるその他の情報があるいはその使用に起因するかまたは関連するいかなる付随的損害、間接損害、または特別損害に関しても、一切の責任を負いません。本ソフトウェアは、指定された目的以外で使用することはできません。ソニー株式会社は、本ヘルプガイドまたはここに記載した情報に予告なくいつでも変更を加える権利を留保しています。

ソフトウェア著作権

本ヘルプガイドまたはここに記載したソフトウェアについて、全体であれ一部であれ、そのいかなる部分も、ソニー株式会社の書面による事前の承認なしに、複製、翻訳、および機械が読み取れる形式に簡略化することは禁じられています。

©2026 Sony Corporation

HEVC Advance

本製品は下記URLに掲載されているHEVC特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。

<https://patentlist.accessadvance.com/>



TP1002380853

Catalyst Prepare ver.3.0以降

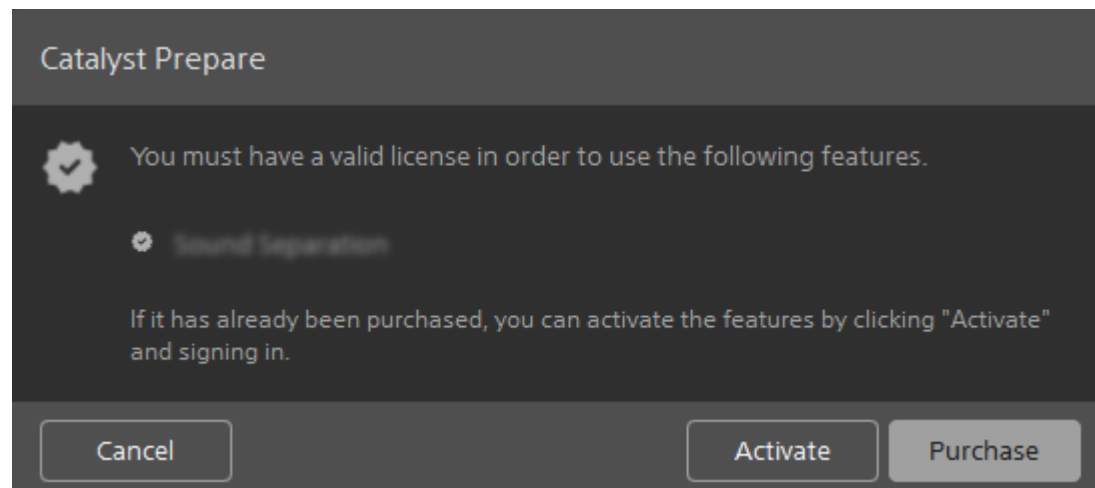
有償機能について

本ソフトウェアの主な機能は無償でご使用いただけますが、一部の機能は有償です。

有償のライセンスをお持ちのアカウントでサインインしていない場合、有償機能の機能名やボタンの横には以下のアイコンが表示されます。

 : 有償機能アイコン

有償機能アイコンのあるボタンをクリックすると、ライセンスについて確認するダイアログが開きます。



すでにライセンスをお持ちの場合：

- ① [有効化] ボタンをクリックします。
- ② 画面の案内に従って [OK] をクリックします。

本ソフトウェアが再起動されて、ライセンスが有効になります。

ライセンスの有無を確認する場合：

[アカウントを確認] ボタンをクリックしてCreators' Cloudにサインインしてください。下記のメニューから購入済みのライセンスをご確認いただけます。

[ユーザー情報] > [契約中のサービス]

まだライセンスをお持ちでない場合：

- ① [購入] ボタンをクリックします。
- ② 画面の案内に従ってCatalyst アプリケーションの有償プランをご契約のうえお使いください。

無償でご使用可能か、有償ライセンスが必要かは、ファイル形式や機能によって異なります。形式別および機能別の詳細は以下のとおりです。

ビデオ/オーディオ形式別

形式/機能	無償	有償
XDCAM形式	✓	✓
XAVC Intra	✓	✓
XAVC Long GOP	✓	✓
XAVC Long 422, 3840x2160, 200Mbpsエクスポート	—	✓
XAVC S Intra および Long 422 10ビットエクスポート (MP4)	—	✓

形式/機能	無償	有償
XAVC Intra 422 10ビットエクスポート (MXF)	✓	✓
XAVC S	✓	✓
X-OCN（読み込みのみ）	✓	✓
Sony RAW（読み込みのみ）	✓	✓
SStP（Windowsのみ）	✓	✓
XAVC HS（読み込みのみ/HEVCアクティベーションが必要）	✓	✓
DPXのエクスポート	✓	✓
DPX読み込み	—	✓
OpenEXRエクスポート	✓	✓
OpenEXR読み込み	—	✓
ProRes（Windows上では読み込みのみ、macOS上では読み込みとエクスポート）	✓*	✓
H.264	✓	✓
WAV（エクスポートのみ）	—	✓
MP3（エクスポートのみ）	—	✓

* macOS上では4K/QFHDのエクスポートは非対応

クリップブラウジングに関する機能

機能	無償	有償
クリップのリストの表示（リスト表示/サムネイル表示）	✓	✓
クリップのソート・フィルター機能	✓	✓
メタデータ表示	✓	✓
メタデータ表示のピン止め機能	✓（最大3個まで）	✓
マルチチャンネルオーディオファイルのオーディオチャンネルを管理	—	✓
クリップカタログの作成	✓（クリップ3個まで）	✓

コピーに関する機能

機能	無償	有償
関連する全メディアのコピー	✓	✓
クリップのみコピー	—	✓
プロキシのみコピー	✓	✓
マークインとマークアウト間のコピー	✓（MXFのみ）	✓*
ドラッグ&ドロップによるフォルダー間でのコピー	✓	✓

機能	無償	有償
コピー時にスタート タイムコードをオーバーライド	—	✓
コピー時のプレフィックス、番号、およびサフィックスを使用した名前の一括変更	—	✓
チェックサム検証を使用してクリップをコピー	—	✓

* MP4形式では、トランスコードが必要になります。

カラーグレーディングに関する機能

機能	無償	有償
クリップごとに色を調整	✓	✓
Sonyデバイスの色空間コントロール（S-LogおよびS-Gamut）	✓	✓
HDR色空間の読み込みとレンダリングのサポート（S-Log3、HLG、およびPQ）	✓	✓
ASC-CDLを選択されたクリップに適用	✓	✓
高品質のSony RAW現像	✓	✓
3通りのカラーホイールグレーディング	✓	✓
カーブグレーディング	✓	✓
ASC-CDL（.cdl）色調整設定をインポート	✓	✓
色調整設定をASC-CDL（.cdl）または3D LUT（.3dlまたは.cube）としてエクスポート	✓	✓
Tangentデバイスサポート（Tk/Mf/Kb/Wave）	✓	✓

クリップの調整に関する機能

機能	無償	有償
手振れ補正（自動/手動）	✓	✓
手振れ補正強度調整	✓（プレビュー表示のみ）	✓
水平補正	✓（プレビュー表示のみ）	✓
フレーミング最適化（補正効果と画角を両立する最適化）	✓（プレビュー表示のみ）	✓
レンズブリージング補正（自動）	✓	✓
レンズブリージング補正（手動）	—	✓
レンズ歪補正	✓	✓
ローリングシャッター補正	✓	✓
複数クリップの一括分析	—	✓

エクスポートに関する機能

機能	無償	有償
クリップのトランスコード	✓*	✓

機能	無償	有償
複数クリップの一括トランスコード	—	✓
エクスポート時のプレフィックス、番号、およびサフィックスを使用した名前の一括変更	✓	✓
マークインポイントとマークアウトポイント間のトランスコード	✓	✓
色設定を含めてエクスポート	✓	✓
クリップの調整を含めてエクスポート	✓	✓
トランスコードプリセットのロード、保存、および削除	—	✓
SDおよびHDソースを最新のプログレッシブHDおよびUHDアセットに変換	—	✓
クリップ名、タイムコード、およびウォーターマークのクリップへの書き込み	—	✓
エクスポート時にオーディオチャンネルをマッピング	—	✓
プロキシをソースクリップとして使用してトランスコード	—	✓
エクスポート時にスタートタイムコードをオーバーライド	—	✓
エクスポート時にアスペクト比をクロップ	✓	✓
他の形式にDPXをトランスコード	—	✓
他の形式にOpenEXRをトランスコード	—	✓
チェックサム検証を使用してフルボリュームのバックアップ	—	✓

* アップスケーリング/フレームレート変換は不可

クラウドストレージ（Ci Media Cloud）に関する機能

機能	無償	有償
クラウドストレージのフォルダー移動、ファイルリスト確認	✓	✓
クラウドストレージからのクリップのダウンロード	✓	✓
クラウドストレージへのオリジナルクリップのアップロード	✓	✓
トランスコード形式でクリップをクラウドストレージにアップロード	✓*	✓
色設定を含めてクリップをクラウドストレージにアップロード	✓	✓
クリップの調整を含めてクリップをクラウドストレージにアップロード	✓	✓

* トランスコード設定や複数ファイル一括操作に伴う無償時の制約は、通常のトランスコードの場合と同様です。

その他の機能

機能	無償	有償
音源分離機能	—	✓
クリップ回転メタデータのサポート	✓	✓
Blackmagic Designを介した外部モニター	✓	✓

機能	無償	有償
リレークリップの結合	✓	✓
アナモフィックデスクイーズ	✓	✓
カスタムメタデータをサイドカーファイルとしてエクスポート	—	✓
MXFクリップのエッセンスマークの追加、削除、または編集	✓	✓
MXFとメタデータからのマークインポイントとマークアウトポイントの読み込み	✓	✓
MXFコピー時に新規ノンリアルタイム（NRT）メタデータを作成する場合、不連続タイムコードとエッセンスマークのためのNRTメタデータを作成	✓	✓
SxS/AXSメディアの対応	✓	✓
Professional Discメディアの対応	✓	✓
GPSメタデータ	✓	✓
GPSメタデータのマップ表示	—	✓
メタデータフラグ（OK/KEEP/NG）を表示; フラグ別にソートおよびフィルター	✓	✓

TP1002380854

Catalyst Prepare ver.3.0以降

困ったときにすること

操作中に不明点がある場合は、画面左下の「アカウント」ボタンから本ヘルプガイドにアクセスできます。

: 「アカウント」ボタン

操作中に問題が発生する場合は、下記サイトをご確認ください。対応方法の記載がある場合があります。
本ヘルプガイドやサポートにもアクセスできます。

- Q&Aおよび問い合わせ先
<https://www.sony.net/catalyst/help>

TP1002380855

B-S65-100-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

商標について

- XDCAM、XDCAM EX、XAVC、XAVC S、XAVC HS、NXCAM、SxS、およびProfessional Discは、ソニーグループ株式会社の商標です。
- MacおよびProResは、米国その他の国や地域で登録されたApple Inc.の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ソニー株式会社は、この文書に記載された内容に関して、特許、特許出願、商標、著作権、またはその他の知的財産権を所有している場合があります。ソニー株式会社が発行する使用許諾契約書に明示的に提示されている場合を除き、この文書の提供によってお客様に、これらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産に関するいかなるライセンスも付与されません。
- その他、本ヘルプガイドで登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で®、™マークは明記しておりません。

TP1002380856